

ニジェール共和国
みんなの学校：住民参加による教育開発
プロジェクト
中間レビュー調査報告書

平成26年12月
(2014年)

独立行政法人国際協力機構
人間開発部

人間
JR
14-108

ニジェール共和国
みんなの学校：住民参加による教育開発
プロジェクト
中間レビュー調査報告書

平成26年12月
(2014年)

独立行政法人国際協力機構
人間開発部

序 文

ニジェール共和国では、2003年10月に基礎教育のセクタープログラム「教育開発10カ年計画（PDDE）2003～2012」を策定し、「万人のための教育」（Education for all：EFA）達成に向けたさまざまな取り組みを行っています。また、PDDE開始以降、教育セクターの地方分権化を進めるとし、学校運営委員会（CGDES）の設立、制度化を進めています。

国際協力機構（JICA）は、このニジェール共和国政府の政策実施に協力すべく、これまで「住民参画型学校運営改善計画（みんなの学校プロジェクト）フェーズ1」を通じてCGDES設置のモデル確立を支援、また、同プロジェクトのフェーズ2により、確立したモデルの全国普及を支援し、結果として全国のすべての小学校〔約13,700校（当時）〕においてCGDESによる教育改善活動が行われるに至り、就学率の向上など大きな成果を上げました。しかし、一方で高い退学率や留年率といった著しく低い内部効率及び教育の質の問題については依然として課題があります。その背景には、教員の質や少ない授業時間のほか、教育システムのマネジメントの問題や、予算や資機材といった教育開発に必要なリソース配分の分権化は進んでおらず、学校レベルで活用できる教育リソースは極めて限られているなど、依然として教育セクターの課題が山積している状況です。

このような背景のもと、ニジェール共和国政府からわが国に対して、フェーズ2までに全国において確立されたCGDESを通じて学校レベルで活用できるリソースを拡大し、その適正な活用に向けたCGDESの能力強化を含む制度の確立を目的としたプロジェクトの要請がなされ、2012年5月から2016年5月までの4年間の予定で本プロジェクトを開始しました。

今般、プロジェクトの中間レビューを行うことを目的として、2014年8月に調査団を派遣し、ニジェール共和国政府及び関係機関との間で、プロジェクトの進捗状況の確認と今後の方向性に係る評価・協議を行いました。

本報告書は、これら調査結果を取りまとめたものであり、今後のプロジェクトの展開に広く活用されることを願うものです。

ここに、本調査にご協力いただいた内外関係者の方々に深い謝意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願い申し上げます。

2014年12月

独立行政法人国際協力機構

人間開発部長 戸田 隆夫

目 次

序 文

目 次

地 図

写 真

略語表

評価調査結果要約表（和文・英文）

第1章 調査の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団構成	2
1-3 調査期間	2
1-4 プロジェクト計画概要	2
第2章 評価方法	4
2-1 評価グリッド	4
2-2 評価実施方法	4
第3章 プロジェクトの実績	6
3-1 投入実績	6
3-2 プロジェクト達成度	6
3-2-1 成果の達成度	6
3-2-2 プロジェクト目標	12
3-2-3 上位目標	12
3-2-4 実施プロセスにおける特記事項	13
第4章 評価結果	15
4-1 5項目ごとの評価	15
4-1-1 妥当性	15
4-1-2 有効性	16
4-1-3 効率性	17
4-1-4 インパクト	19
4-1-5 持続性	20
4-2 効果発現の阻害貢献要因	22
4-2-1 効果発現に貢献した要因	22
4-2-2 効果発現を阻害した要因	22
4-3 結論	22

第5章 提言と教訓	23
5-1 提言	23
5-2 教訓	25
5-3 PDM改訂	26
5-4 その他〔中等教育省（MES）からの合同調整委員会（JCC）メンバー〕	28

付属資料

1. 調査日程	31
2. 主要面談者リスト	32
3. 評価グリッド	34
4. 質問票	52
5. プロジェクト投入実績	65
6. プロジェクト活動実績	69
7. PDM Version 1	72
8. PO Version 1	74
9. PDM改定案	76
10. 面談記録	79
11. 協議議事録（仏文）	104

写 真



ニアメ市2区 CGDES 連合メンバー



コートジボワール視察団



ニアメ市第35 中等学校



CGDES 調整部での聞き取り



合同調整委員会



内務・国家安全・分権化省地方分権化局での
聞き取り



ミニッツ署名（中等教育省）



ニジェール報道陣による
調査団インタビュー

略 語 表

略語	正式名称（仏語・英語）	日本語
AFD	Agence Française de Développement	フランス開発庁
AG	Assemblée Générale	住民集会
AG FCC	Assemblée Générale de la FCC	CGDES 連合総会
BM	Banque Mondiale	世界銀行
CACOCOM	Cadre de Concertation Communal	コミュニオン連絡協議会
C/CGDES	Coordination des Comités de Gestion Décentralisée des Etablissements Scolaires	学校運営委員会調整部
CERF	Comité Exécutif Régional du Forum	州教育フォーラム執行委員会
CFEPD	Certificat de Fin d'Etudes du Premier Degré	初等教育修了資格試験
CGDES	Comité de Gestion de Décentralisation d'Etablissements Scolaires	学校分権化運営委員会
COGES	Comité de Gestion des Etablissement Scolaires	学校運営委員会
CP	Conseiller Pédagogique	教育主事
C/P des COGES	Cellule de Promotion des COGES	COGES 推進室
C/R	Compte Rendu	協議議事録
DDEP	Direction Départementale de l'Enseignement Primaire, de l'Alphabétisation, de la Promotion des Langues Nationales et de l'Education Civique	県教育事務所
DEP	Direction des Etudes et de la Programmation	計画局
DFI	Division de la Formation et des Innovations	研修イノベーション課
DGR/PLN/EC	Direction Générale de la Réforme, de la Promotion des Langues Nationales et de l'Education Civique	改革・国語推進・市民教育総局
DGS	Direction Générale de la Scolarisation	就学局
DPCI	Division du Partenariat et de la Coordination des Interventions	パートナー調整課
DREP	Direction Régionale de l'Enseignement Primaire, de l'Alphabétisation, de la Promotion des Langues Nationales et de l'Education Civique	州教育事務所
EPT	Ecole Pour Tous	みんなの学校
FACE	Forum par l'Approche Communautaire pour l'Education	教育フォーラム・アプローチ
FCC	Fédération Communale des CGDES	CGDES 連合

略語	正式名称（仏語・英語）	日本語
IEB	Inspection d'Enseignement de Base1	基礎教育視学官
JICA	Agence Japonaise de Coopération Internationale	国際協力機構
MEP/A/PLN/EC	Ministère de l'Enseignement Primaire, de l'Alphabétisation, de la Promotion des Langues Nationales et de l'Education Civique	初等教育・識字・国語推進・市民教育省
MES	Ministère de l'Enseignement Secondaire	中等教育省
M/M	Minutes of Meeting	協議議事録
ONG	Organisation Non-Gouvernementale	非政府団体
ONEN	Organisation Nigerien d'Educateur Novateur	ニジェール教育革新団体（NGO）
OCDE/CAD	Oranisation de Coopération et de Développement Economiques / Direction de la Coopération pour le Développement	経済協力開発機構/開発援助委員会
PA	Plan d'actions de l'école	学校活動計画
PAAQ	Plan d'actions axé sur la qualité	質に係る活動計画
PDC	Plan de Développement Communal	コミュニオン開発計画
PDDE	Programme décennal de développement de l'éducation	教育開発 10 カ年計画
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PFD	Point focal départemental CGDES	県 CGDES 監督官
PFR	Point focal régional CGDES	州 CGDES 監督官
PMAQ	Paquet Minimum Axé sur la Qualité	質のミニマム・パッケージ
PME	Partnariat Mondial pour l'Education	教育のためのグローバル・パートナーシップ
PO	Plan d'Opération	活動計画
PSEF	Programme sectoriel de l'éducation et de la formation	教育及び研修セクター計画
PTF	Partenaire Technique et Financiers	技術的・財政的開発パートナー
R/D	Record of Discussions	討議議事録
SCOFI	Scolarisation des jeunes filles	女子の就学
SG	Secrétaire Général	事務次官
TICAD	Tokyo International Conference for African Development	アフリカ開発会議

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：ニジェール共和国	案件名：みんなの学校：住民参加による教育開発プロジェクト
分野：基礎教育	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：人間開発部 基礎教育グループ 基礎教育第二課	協力金額（評価時点）：256,403,000 円
協力期間 (R/D) 2012年5月～2016年5月 (4年間)	先方関係機関：初等教育・識字・国語推進・市民教育省（MEP/A/PLN/EC）
	日本側協力機関：なし
	他の関連協力：なし
1-1 協力の背景と概要 <p>国際協力機構（JICA）はこれまで「住民参画型学校運営改善計画（みんなの学校プロジェクト）フェーズ1」を通じて学校運営委員会（Comité de Gestion des Etablissement Scolaires : COGES）¹〔その後、学校分権化運営委員会（Comité de Gestion de Décentralisation d'Etablissements Scolaires : CGDES）²に改称〕設置のモデル確立を支援、また、同プロジェクトのフェーズ2により、確立したモデルの全国普及を支援し、結果として全国のすべての小学校においてCGDESによる教育改善活動が行われるに至った。学校レベルにおける教育マネジメント改善にCGDESが果たす役割は大きく、CGDESはこれまでも学校活動計画の策定・実施を中心に、補習を通じた学習時間の確保や、コミュニティのリソース動員による施設改善など、教育改善に貢献してきた。これらの取り組みを通じて、生徒の卒業試験合格率の向上など一定の成果が見られつつある。他方、高い退学率や留年率といった著しく低い内部効率（教育投資に比して教育された人材が輩出されない）及び教育の質の問題について依然として解決できていない状況にある。その背景には、教員の質や少ない授業時間のほか、教育システムのマネジメントの問題や、予算や資機材といった教育開発に必要なリソース配分の分権化は進んでおらず、学校レベルで活用できる教育リソースは極めて限られているなどの課題もあり、依然として教育セクターの課題が山積している状況にある。</p> <p>このような背景のもと、ニジェール政府からわが国に対して、教育の質とアクセスの更なる改善のためにはフェーズ2までに全国に確立されたCGDESを通じて学校レベルで活用できるリソースを拡大し、その適正な活用に向けたCGDESの能力強化を含む制度の確立を目的としたプロジェクトの要請がなされた。同要請を受けて2012年5月から2016年5月までの4年間の予定で「みんなの学校：住民参加による教育開発プロジェクト」（以下、「本プロジェクト」）が開始されており、現在、長期専門家3名（CGDES能力強化、CGDESモニタリング、業務調整）が派遣中である。</p>	

¹ COGES（学校運営委員会）現在は、中等教育省（MES）のみ本名称を表記しています。

² CGDES（学校分権化運営委員会）は、初等教育・識字・国語推進・市民教育省（MEP/A/PLN/EC）のみ旧称COGESから改称した名称を表記しています。

1-2 協力内容

(1) 上位目標

住民参加型の学校運営を通じて基礎教育の質とアクセスが向上する

(2) プロジェクト目標

ニジェールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDES の学校運営の役割と能力が強化される

(3) 成果

- 1) 教育開発（教育のアクセス及び質）に貢献する CGDES の活動が継続して実施される制度が確立される
- 2) パイロット実施対象地域において、リソース管理・運営のための CGDES の役割と能力が強化される
- 3) 教育行政分権化において、CGDES を生かした関連政策が策定され、実施される

(4) 投入（2014年8月時点）

（日本側）

- 専門家派遣：（長期）延べ5名（CGDES モニタリング、CGDES 能力強化、業務調整）
- （短期）2名（チーフアドバイザー、ベースライン調査）
- 機材供与：車両、事務物品など（約5,810,000円）
- 活動経費（約14,719,000円）
内容：会議費、ローカルコンサルタント契約費、成果品作成、調整部執務室拡張工事費など
- 本邦研修：参加者5名

（ニジェール側）

- カウンターパート：17名
- 活動経費（見返り資金：約10,910,000円、国家予算：約7,320,000円（うち執行額約1,490,000円）

2. 評価調査団の概要

担当分野	氏名	所属先
団長/総括	橘 秀治	JICA 人間開発部基礎教育第二課 課長
協力企画	松崎 瑞樹	JICA 人間開発部基礎教育第二課 主任調査役
評価分析	阿部 久美子	個人コンサルタント
通訳（日-仏）	西山 明美	一般財団法人日本国際協力センター
調査期間	2014年7月28日～8月15日	評価種類：中間レビュー

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) 成果の達成度

成果1：教育開発（教育のアクセス及び質）に貢献する CGDES の活動が継続して実施され

る体制が確立される

- フォーラム・アプローチは、プロジェクト開始当初は全国を対象に州教育フォーラムを実施予定であったが、教育フォーラムのあり方について更なる検討を要するという結論に至り、タウア州でパイロット活動を実施することが決定された。2014年6月にタウア州にて州教育フォーラムを実施し、その後タウア州の全44連合が連合総会を開催した。今後同州で2回のフォーラム実施を経て、プロジェクト終了までに「持続するフォーラム・モデル」の構築が見込まれる（指標1）。
- 教育の質改善を重視したCGDES活動は、2013～2014年度において92%のCGDESで実施されている（指標2）。
- CGDESモニタリングのための各連絡会議実施実績については、回数に増回はみられないものの、2013年3月からの見返り資金拠出再開により、CGDES監督官会議は定期的に実施された。今後はモニタリング費が国家予算に計上されたことから、安定的な実施が見込まれる。CGDESモニタリング・システムの制度化へ向けて、調整部のデータ集計・分析能力の向上と、調整部がより主体性をもったモニタリング活動が期待される（指標3、指標4）。
- 中等学校へのCOGES導入に関しては、ニアメ市のパイロット3校を対象に活動が開始されたものの、2013年8月の省庁改編により中等学校が他省の管轄となり、活動が中断している（指標5、指標6）。
- 「質のミニマム・パッケージ」開発に至っては、算数ドリル7冊、プレ算数ドリル3冊が開発され、プロジェクト地域で試行された。事前事後テスト結果では、すべての学年において成績向上が認められており、有効性が実証される見込み。
- 教員初期研修へのCGDESモジュールの導入は2015年夏に実施予定。

成果2：パイロット実施対象地域において、リソース管理・運営のためのCGDESの役割と能力が強化される

- リソース管理・運営の研修モジュール第1版及び改訂版が開発され、パイロット120校を対象に活動が実施された（指標1）。補助金の運営管理における証憑書類提出率は100%であり、CGDESにより運営管理されたリソースも介入前の2011年度と比較し2012年度は約2倍、2013年度早く2.5倍の増回が認められた（指標2）。さらに、教育の質改善重視の活動計画を行ったCGDESの割合も全体として増加した（指標3）。

成果3：教育行政分権化において、CGDESを生かした関連政策が策定され、実施される

- 2014年4月に発行された2012年度教育統計年鑑にCGDES活動成果が挿入され、CGDES活動に対する国家の認識の高さが確認された（指標1）。また、CGDES活動支援モニタリングにかかる活動が調整部の活動計画に挿入され、予算化が実現し、指標は達成されたが、調整部の更なる能力強化の必要性が認められた（指標2）。なお、CGDES活動モニタリングシステム制度の承認は、プロジェクト終了まで達成される見込み。
- リソース管理・運営に係るパイロット活動は終了し（成果2）、今後モデルの改良を図り政策への反映をめざしている。既にパイロット活動成果を活用したGPE/AFDコモ

ンファンド基礎教育支援プロジェクトによる補助金供与が 2014 年から予定されていることから、今後、初等教育・識字・国語促進・市民教育省（以下、「初等教育省」と記す）の政策または計画に組み込まれる見込みは高い（指標 3）。

(2) プロジェクト目標達成見込み

ニジェールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDES の学校運営の役割と能力が強化される

CGDES 総括表回収率は確実に増加している（2011 年度：88.1%、2012 年度：89.2%、2013 年度：92.1%）（指標 1）。パイロット地域のリソース運営・管理活動における資源の割合も、介入前の 2011 年度と比較して、2012 年度は約 2 倍、2013 年度は約 2.5 倍の増加が認められた（指標 2）。しかしながら、プロジェクト目標が全国の CGDES を対象としているのに対して、指標 2 はパイロット地域に限定した指標設定となっているため、指標の修正が示唆される。

(3) プロジェクト上位目標達成見込み

住民参加型の学校運営を通じて基礎教育の質とアクセスが向上する

教育指標（就学率、留年率、中退率、初等終了率）は全体的に緩やかな改善傾向が確認されている（指標 1）。また、学習達成度の改善についても、初等修了試験合格率が 2011 年度の 56.7%から 2012 年度の 57.2%と緩やかな上昇がみられた（指標 2）。他方で、初等教育修了試験が 2013 年度より廃止となったため、学習達成度の改善を図るための他の指標を設定する必要がある。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性：非常に高い

ニジェールの教育政策文書「教育及び研修セクター計画（PSEF 2014-2024）」に、地方分権化にともなう CGDES の役割や能力強化、権限の強化を図ること、州・県・コミューンそれぞれの教育行政レベルの能力強化が明記されている。日本の援助政策に至っては、2008 年の第 5 回アフリカ開発会議（TICAD IV）で採択された行動計画のなかに、西アフリカにおける「みんなの学校」モデルを基礎に学校運営改善のためのプロジェクトを 1 万校に拡大することを目標としており、さらに 2013 年実施の TICAD V でも引き続きこの拡大を推進していくとしており、ニジェール側のニーズ及び日本の政策との整合性は高い。

また、実施方針の適切性に関し、教育環境整備のためのリソースが限られているニジェールでは、CGDES によるリソース動員、運営管理がますます求められており、ニジェールの地方分権化の流れのなかで、CGDES は教育政策でも重要な役割を担うものとして学校運営の権限が与えられている。したがって、CGDES の役割と能力強化による教育のアクセスと質の向上をめざす本プロジェクトのアプローチは妥当である。

(2) 有効性：高いが、指標の修正が必要

プロジェクト目標は、現在設定されている指標のうちでは既に達成されている。しかし、その指標が妥当であったか（特に 2 つ目の指標）という問題がある。すなわち、現在設定

されている指標が達成されたとしても、プロジェクト目標である「ニジェールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDES の学校運営の機能と能力が強化される」が達成されたとは言い切れない。CGDES の機能と能力強化のためにプロジェクトでは指標に反映されていない重要な活動にも多く取り組んでおり、これらを考慮したうえでも、プロジェクトの有効性はおおむね高いものの、本来これらの活動や成果に関する指標を含める必要があり、指標の再検討が必要とされる。

(3) 効率性：高い

中等学校に対する活動が省庁再編の影響により中断を余儀なくされているが、それ以外については、成果はおおむね達成される見込みである。活動の進捗も、調整部との月例会を通じて円滑なコミュニケーションにより効率的な情報共有が行われている。また、すべての研修にロールプレイ（寸劇）を取り入れた手法により、学校レベルまでの技術移転がより効果的、効率的に実現されていることが、聞き取り調査でも確認された。さらに、実施中における質のミニマム・パッケージに係るドリル学習の評価は大変高く、拡大を望む声も多いことから、今後の展開活動がスムーズに実施されることが見込まれる。

安全管理上の理由などにより、専門家派遣の遅れや中止、さらに日本人専門家の移動制限によるモニタリングの遠隔操作を余儀なくされている状況のなかで、ローカルスタッフや NGO を最大限に活用し、また調整部とのコミュニケーションを密にすることで、効率的な業務が図られている。こうした観点から、日本人専門家や現地業務の投入に対して、中間レビュー調査時点で発現されている成果は期待以上であるといえる。

(4) インパクト：高い

中間レビュー調査時点での上位目標の達成見込みは、教育の質向上をめざす CGDES 活動が中心に実施されていることにより、多くの関係者が高いと認識しており、実際、就学率、留年率、修了率に関しては、改善傾向が確認されている。

ポジティブなインパクトとしては、ニジェールの「みんなの学校」は近隣諸国のモデル国となっていることが挙げられる。2013 年から 2014 年にかけて、ブルキナファソ、セネガル、そしてコートジボワールとの経験共有が実施されている。コートジボワールで実施中の JICA プロジェクトでは、ニジェールで開発された学校運営改善モジュールが、参考事例として有効に活用されていることが確認された。視察を通じて近隣諸国とのネットワークも構築されつつあり、西アフリカ全体としての学校運営活動の効果発現に寄与している。

(5) 持続性：中程度

政策・制度面については、「妥当性」の項目でも述べているとおり。プロジェクトがめざす CGDES 活動モニタリングの制度化に関し、プロジェクト終了までに達成される見込みであることから、それが実現されることで CGDES 活動を包括的に支援するための政策が構築されることとなる。したがって政策面での持続性は担保されているが、モニタリング・システムの確実な制度化が期待される。

組織・財政面に関し、CGDES モニタリング費用は、既にプロジェクトの成果として国家

予算への計上が実現した。CGDES 連合については、地方自治体との連携が重要。連合の予算は各 CGDES からの会費と市町村からの支援により賄われているが、連合によっては市町村が協力的でないケースも見受けられる。実施中のフォーラム・アプローチでは、CGDES 連合と地方自治体の連絡協議会の設置に取り組んでいるため、このような体制が広がり、連合活動が安定することが期待される。学校レベルにおける CGDES は保護者からの分担金により成り立っており、以前に比べて、保護者の学校に対する意識が格段に向上し、協力的であることが聞き取り調査で確認された。しかしながら、補助金供与のパイロット地域では、補助金が供与されたことにより、保護者が会費を払わないという問題も発生した。今後、補助金供与の際にはこのような補助金供与による負の影響を最小限に抑えるように CGDES に対して質の高い研修を確実にするなど留意する必要がある。

なお、CGDES への補助金に関しては、GPE/AFD コモンファンド基礎教育支援プロジェクトによる支援が 5 州 2,800 校を対象に供与されることが決まり、2014 年度より 4 年間補助金が対象校に供与される。これらの補助金が適切に活用・管理されるようにするため、プロジェクトの成果を活用して、CGDES 調整部が研修等を実施する予定である。補助金供与が成果を上げるためには、供与の前に適切な研修等が必要であり、資金協力と技術協力の有効な連携が期待される。

技術面については、モニタリングに係る技術移転の加速と、継続性を踏まえた質のミニマム・パッケージのモデル開発が期待される。CGDES 活動モニタリングに係る各種セミナー・会議の開催については、これまでの合同モニタリングにより技術移転が確実に実施されてきた一方で、CGDES 活動のデータの収集・分析方法については、まだ十分な技術移転がされているとはいえず、カウンターパート側からも、この点の能力向上を望んでいることが確認された。さらに、調整部の年間活動計画策定能力及びその評価に係る能力が不足しているとの自己評価をしている。質のミニマム・パッケージのパイロットサイトからは、ドリル学習のファシリテータの継続性の問題が指摘された。現在はパイロット段階であることから、今後の活動展開においては、こういった継続性の問題も考慮しつつ、モデル開発をすることが重要となる。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 徹底した研修の実施

各種研修は、シミュレーション手法という、実際の活動を想定したロールプレイ（寸劇）を研修受講者が自ら演ずることで、効果的な技術移転に成功している。識字率の低いニジェールにおいて、住民への知識伝達が容易ではないため、こうした研修手法は大変効果的であった。さらに、カスケード方式によるすべてのレベルへの研修、特に住民レベルまで徹底されたことも、効果発現に貢献している。

(2) 適切なモニタリングと成果の発信

補助金導入に伴う「リソース管理・運営」活動では、適切なモニタリングとその結果を広く公表することで、その成果が認められ、他ドナーによる補助金供与支援において、プロジェクトが開発した研修ツールが活用されるに至った。

(3) キーパーソンの本邦研修への参加

本邦研修参加を契機に、カウンターパートのプロジェクトに対する理解度が増した。CGDES モニタリング費用が国家予算に計上された背景には、本邦研修に参加した事務次官の強いバックアップがあったことで実現しており、タイミングよくキーパーソンを本邦研修に招聘したことが効果の発現に寄与している。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

CGDES 調整部の能力強化に関し、調整部が本来担うべき学校活動計画総括表の集計・分析作業をプロジェクト事務所側が実施していたという点が確認された。この作業の技術移転については既に議論され、活動が開始されたところである。調整部が担うべき業務のなかで、技術移転が必要なものを早い段階で話し合い、合意されてなかったことが、技術移転の遅れにつながった。

3-5 結論

評価 5 項目に関し、妥当性、有効性については高い。効率性についても限られた投入で、必要な活動を担保するためのさまざまな工夫がなされ、比較的高い効果が発現していることが確認された。インパクトについては、特に質のミニマム・パッケージによる上位目標達成見込みが確認された。他方、持続性については政策・組織面では比較的高いと判断されるものの、持続性の確保をより確実なものにするためには特に財政面、技術面に関してニジェール側への確実な技術移転と、CGDES と地方自治体との連携強化の必要性が確認された。

なお、「有効性」の項目で述べているとおり、今後のプロジェクトの方向性をより明確にするためにも、成果の整理と指標の修正及びこれに伴う活動の整理による PDM の改訂が必要である。

3-6 提言

(1) CGDES 調整部の能力強化・技術移転の加速（初等教育省、プロジェクトに対して）

情報集計や統計、分析能力に関する能力強化に加え、将来の調整部に関連する活動や予算等に関する計画策定能力、実施、評価に関する能力を強化する必要がある。これらの能力強化を行うために、今後半年以内に技術移転計画を策定し、実施する必要がある。

(2) CGDES モニタリング・システムの強化及び持続性確保（初等教育省、プロジェクトに対して）

CGDES モニタリング・システムは、既に CGDES 連合などの制度化により住民レベルから州レベルまでは機能していることが確認された。今後は、州レベルでの取り組みを中央の CGDES 調整部が管理・監督しつつ、全国の CGDES 活動を総合的に評価し、今後の方向性・戦略を策定しつつ、具体的活動の計画立案、実施につなげていく必要がある。また、CGDES 活動の中長期的な持続性確保の観点から教員養成課程へ CGDES モジュールの導入が重要であり、教員養成課程へ着実に導入されるように、そのためのモニタリング費用を CGDES 調整部にて措置する必要がある。

(3) CGDES 連合と地方自治体の連携強化（初等教育省、プロジェクトに対して）

地方分権化政策は、ニジェール政府が掲げる重要な政策であり、CGDES 活動は同政策に掲げられた目標の具現化に貢献している。この CGDES 活動をより効果的、持続的にするために、州知事をはじめとする地方分権に関連する地方自治体関係者や教育行政関係者などとの連携を更に強化する必要がある。州レベルの教育課題解決のための計画策定、実施を行う枠組み作りの試みが、タウア州にて持続性を高めた形でフォーラム・アプローチとして開始されている。今後も同取り組みを継続し、評価を行いつつ、他州への拡大を見据えて取り組みの成果を実証していく必要がある。

なお、この枠組みの他州への拡大にあたっては、初等教育省が予算を確実に確保することが必須であることから、2016 年度予算計画策定時である 2015 年 3 月までに予算額を確定し予算策定への反映のための準備に取りかかる必要がある。

(4) 各種パイロット活動の全国展開に向けた計画策定（初等教育省、プロジェクト、JICA に対して）

1) 補助金パイロット活動

補助金に係るパイロット活動の結果から、補助金を有効に活用し、学校運営の改善、特に子どもの学力向上に寄与する活動を促進するためには、CGDES 及び関係者に対する補助金の管理と補助金を有効活用するための能力強化が必須であることが明らかになりつつある。したがって、同能力開発のための研修パッケージが、ニジェール国内での学校に対するあらゆる補助金導入の際の必須パッケージとして初等教育省にて承認され、全国展開を実施する基盤となるよう働きかけを行う必要がある。このためには、確実に教育の質の改善につながるよう補助金モデルの完成度を高めるために、引き続きプロジェクト活動において補助金パイロット活動を継続、実施していくことが求められる。

2) 質のミニマム・パッケージ

これまでのパイロット活動の成果として関係者の聞き取り調査結果から、質のミニマム・パッケージの取り組みによる成果として、生徒の算数ドリルを通じた学力向上が確認されている。今後、引き続きパイロット活動の実施を通じて、学習効果の確認を行い、同パイロット活動の拡大に向けて経験を蓄積してモデルを確立する。また、質の向上に向けた効果的な取り組みとして同成果をパイロット地域以外の州の CGDES にも、経験共有セミナーの機会を通じて共有する。なお、算数ドリルのコンテンツについては、関係者の聞き取りから、子どもの学習進度が早く更なるコンテンツの必要性が確認できたことから、JICA とプロジェクトは、速やかに更なるコンテンツの開発に着手する必要がある。

(5) 中等レベルのプロジェクト活動の軌道修正（中等教育省、プロジェクトに対して）

中等教育省では COGES 担当部署が既に存在しているものの体制整備が進んでいないことから、体制整備がなされた後、速やかにパイロット活動を再開し、初等教育での経験を生かし、機能する中等学校の COGES モデル確立に向けたパイロット活動を実施する必要がある。また、プロジェクト終了までには、パイロット活動を完了し、機能する COGES モデルを完成させることが期待される。

(6) プロジェクト関係者間での情報共有などのあり方(初等教育省、プロジェクトに対して)
プロジェクト成果発現の最大化に向けて、今後更なる関係者間での情報共有が不可欠である。策定済みの次期半年間活動計画(2014年8月~2015年2月)に基づき、プロジェクトチームとCGDES調整部が各活動の実施主体と体制を確認することで協働のための体制を整備していくことが期待される。また、半年間の活動計画をブレイクダウンした月間活動計画を基に月1回のプロジェクトチームとCGDES調整部の定例会を着実に実施するとともに、プロジェクト専門家はCGDES調整部をより頻繁に訪問し、テーマに応じた打合せなどを随時行うことが必要である。また、プロジェクトの基本情報や成果、特に新たな取り組みの情報発信が重要であることから、広報のための映像や媒体を通じた発信ツールの更なる整備が必要である。

(7) PDMの改訂(初等教育省、中等教育省、プロジェクトに対して)

今回の中間レビュー調査で提示するPDMの改訂案を基に、関係者間で検討を行い、10月末までに合同調整委員会(JCC)を開催のうえ、改訂を行う。また、これに併わせて活動計画(PO)についても改訂を行う。

3-7 教訓

(1) 地方分権化におけるボトムアップ型アプローチの有効性

フェーズ1及びフェーズ2を含む本プロジェクトでは、地方分権化の下、ボトムアップ・アプローチにより住民が学校を支える体制をつくり、地域のニーズを住民が自ら把握する能力の強化を行った。その住民らに把握されたニーズを、各行政レベルと共有する仕組みをつくることで、それらのニーズに対応するための行政や教育省の役割体制が整備されてきたといえる。地方分権化を進めようとしている国のうち、必ずしも教育行政の体制や能力が十分に整備されていない国や地域において、このような形でのボトムアップ型アプローチは有効である。

(2) 近隣諸国との経験共有によるネットワーク構築の重要性

西アフリカの地方分権化の動きのなかで、各国で学校運営活動が実施されており、経験共有のための視察がこれまでも実施されてきた。他国の試みや成果を知ることは大きく、互いの経験を共有することでポジティブな競争心が生まれ、プロジェクトに対するオーナーシップの醸成にもつながっている。

(3) 識字率を踏まえた効果的な知識伝達

各種研修実施において、受講者参加型のロールプレイ(寸劇)が果たす役割は大きく、知識伝達に大変効果的である。特に大人の非識字率の高いニジェールにおいて、この手法により、住民レベルまでの包括的な研修を実現させた。識字率の低い国や地域などでの効果的な研修方法として参考になると思われる。

(4) 子どもの学力向上への取り組みと関係者への情報共有

質のミニマム・パッケージでのパイロット活動の取り組みから、補習による学習時間の

確保や補助教材（算数ドリル）の導入により子どもの学力の向上が確認された。これは、指導する教員（指導者）へのファシリテータ研修の効果もあるが、何より副教材での学習を通じて子どもが自ら学ぶことの楽しさや、学びを通じて達成感を得ていることが大きな要因と推察される。また、この取り組みの開始時に実施されるプレテストにより明らかになる子どもの学力に関する深刻な現状を保護者や CGDES 関係者と共有することで、教育の質（子どもの学力）の向上の必要性から住民のニーズが高まり、結果としてそのニーズに応えるべく CGDES 活動として実施されていることから、子どもの学力に関する情報共有は極めて重要である。

さらに、補助教材による子どもへの指導を通じて、子どもの学びの過程を丁寧に観察することで教員自身が子どもへの指導力を向上させる機会となっていることも特筆すべきである。副教材の活用を通じて子どもの学力のみならず教員の指導力向上に寄与している取り組み事例は、教員研修を通じて教員の指導力向上をめざしてきた多くの JICA 基礎教育案件とは異なるアプローチであり、新たな可能性を提示するものである。

3-8 その他

プロジェクト開始以降、省庁再編により中等教育省が誕生したことから、三者（初等教育省、中等教育省、JICA）は、中等教育省の COGES 推進室の室長を新たに合同調整委員会（JCC）のメンバーとすることを合意した。

Summary

I Outline of the Project		
Country: Niger		Project title: “School for All”: The project on Support to Educational Development through Community Participation
Issue/Sector: Basic Education		Cooperation scheme: Technical cooperation
Division in charge: Basic Education Division 2 Basic Education Group Human Development Department		Total cost: 256 million yen (As of August 2014)
Period of Cooperation	(R/D): May 2012～May 2016 (4years)	Partner Country’s Implementing Organization: Ministry of Primary Education, Literacy, Promotion of National languages and Civic Education
		Supporting Organization in Japan: Non
<p>1. Background of the Project</p> <p>JICA had supported to establish a model of COGES (which has been changed to CGDES later) during the implementation of “The project on Support to the Improvement of School Management through Community Participation (School for All)” in 2004. In the following phase 2 of the project, the established model was expanded nationwide and as a result all primary schools of the country have started the CGDES activities to improve their schools. CGDES plays an important role and has brought various contributions to the better school management; developing and implementing the school action plan, securing the school hours by creating supplementary classes, and improving the educational institution and facilities through resource mobilization by the community, etc. The positive result of these efforts began to appear as an increase of the success rate of final examination of the primary education. However, the quality of education remains still very poor in view of the high rate of drop-out and repetition rate of same grade, as well as very low internal cost efficiency (expected number of educational human resource is not being produced compared to the amount invested in education). This situation attributes to various factors; low quality of teachers, insufficient class hours, weak education system management, extremely limited resources (budget, materials and equipment) at school level because of the decentralization not yet effective in the resource transfer. Therefore, the great number of problems in the educational sector still remains to be solved.</p> <p>In this context, the government of Niger has requested the government of Japan for the project to further improve the educational quality and its access. It consists of increase of the available resource and strengthening of the CGDES for better management of these resources. Having responded to the request, the project started in May 2012, for 4 years until May 2016. Currently, 3 long-term Japanese experts (Capacity Development of CGDES, Monitoring of CGDES and Coordinator) have been dispatched as of August 2014.</p> <p>2. Project Overview</p> <p>(1) Overall Goal</p>		

The quality and the access of basic education are improved by school management through community participation.

(2) Project Purpose

The function and capacity of CGDES is strengthened to contribute to educational development (access and quality) in Niger.

(3) Outputs

1. A system to sustain functioning CGDES for educational development (access and quality) is established.
2. A role and function of CGDES in educational management is reinforced for better resource management in the target area of piloting.
3. Strategies to reinforce CGDES' function in decentralized education system is developed and implemented.

(4) Inputs

Japanese side :

- A total of 5 Japanese long-term Experts (Capacity development of CGDES, Monitoring of CGDES and Coordinator), 2 Japanese short-term Experts (Chief Advisor, Base-line research)
- Equipment: Vehicles, Office equipment (approx. 5.81 million yen)
- Activity cost: workshops, meeting, local consultants, printing guidelines, expansion of the office of C/CGDES etc. (approx.14.7 million yen)
- Training in Japan: 5 participants

Niger side:

- 17 Counterparts
- Activity cost: (KR) Approx. 52 millions Fcfa, allocated national budget: approx. 35 millions Fcfa (of approx. 76 millions Fcfa disbursed)

II Evaluation Team

Members of Evaluation Team	Leader	Hideharu TACHIBANA	Director, Basic Education Division 2, Basic Education Group, Human Development Department, JICA
	Cooperation Planning	Mizuki MATSUZAKI	Deputy Director, Health Division 1, Health Group 2, Human Development Department, JICA
	Evaluation and Analysis	Kumiko ABE	Consultant
	Interpreter	Akemi NISHIYAMA	JICE
Period of Evaluation	28/07/2014 ~ 14/08/2014		Type of Evaluation: Mid-term Evaluation

III Results of Evaluation

1. Project Performance

(1) Outputs of the project

Output 1: A system to sustain functioning CGDES for educational development (access and quality) is established

- Forum approach was initially to be implemented nationwide but the plan has been modified to a pilot activity only in Taoua Region, in order to establish sustainable structure of the approach. The Regional forum was held in Taoua in June 2014, and was followed by the all 44 General Assemblies of FCCs. The sustainable mode is expected to be established by the end of the project through two more regional forum scheduled in 2015 in Taoua. (Indicator 1)
- Activities which aim at improving the quality of education were carried out in 92% of the CGDES in the school year of 2013-2014. (Indicator 2)
- The number of CGDES monitoring meetings is not increased; however, the meeting of CGDES supervisors came to be regularly held after the disbursement of KR had resumed in May 2013. Also the national budget was allocated to the CGDES monitoring, so the stabilization of monitoring meetings is expected. Toward the institutionalization of the morning system, capacity development of C/CGDES in data collection and analysis, and monitoring activities on their own initiative from C/CGDES side, are necessary. (Indicator 3, 4)
- Introduction of COGES into the secondary school had been started in 3 pilot schools in Niamey, but the activities were interrupted because of re-organization of ministries in August 2013, and the secondary school was no more under the jurisdiction of the counterpart ministry. (Indicator 5, 6)
- “Quality Minimum Package” has been tested after the development of 7 workbooks of Math and 3 of Pre-Math. The result of the pre- and post-test proved the effectiveness of the workbooks in all grades.
- The introduction of the CGDES module into the teacher’s training is scheduled for summer 2015.

Output2: A role and function of CGDES in educational management is reinforced for better resource management in the target area of piloting

- The guidelines of resource management 1st edition and revised edition were developed, and the activities were implemented in 120 pilot schools (Indicator 1). The submission rate of the receipt is 100% regarding the management of the subsidy. The financial resources which was managed by CGDES has been doubled in 2012, and increased 2.5 times in 2013, based on the amount before the intervention in 2011. (Indicator 2) In addition, the CGDES which carried out the activities for improvement of the educational quality has increased overall. (Indicator 3)

Output3: Strategies to reinforce CGDES’ function in decentralized education system is developed and implemented

The activity summary of CGDES has been inserted in the Directory of Educational Statistics 2012, issued in April 2014. It proves the high recognition of the government toward CGDES.

(Indicator 1) Moreover, the CGDES monitoring was integrated into the action plan of C/CGDES and the national budget was allocated to CGDES monitoring activities, which fulfilled the indicator 2. Accordingly the capacity development of C/CGDES needs to be further strengthened. Furthermore, the CGDES monitoring system is expected to be approved and institutionalized by the end of the project.

The pilot activities of resource management has been completed (indicator2), and now the established model will be further improved and modified, in order to be integrated into the national policy. In fact, this model will soon be applied by the co-funding project of GPE/AFD this year, which shows a great potentiality for the appropriation by the government of Niger. (Indicator 3)

(2) Project Purpose

The function and capacity of CGDES is strengthened to contribute to educational development (access and quality) in Niger

The submission rate of CGDES activity summary has certainly increased (88.1% in 2011, 89.2% in 2012, and 92.1% in 2013) (Indicator 1). The financial resource in the pilot schools for the resource management has also been doubled in 2012 and increased 2.5 times in 2013 based on the amount before the intervention in 2011 (Indicator 2). However, while the project purpose is targeted nationwide, the indicator 2 is limited to the pilot area. So the modification of the indicator is suggested.

(3) Overall Goal

The quality and the access of basic education are improved by school management through community participation

The educational indicator (rate of enrollment, repetition, dropout and completion of primary school) shows a slight improvement in general (Indicator 1). The Progress in learning achievement is also recognized from the success rate of final exam of primary education; 56.7% in 2011, 57.2% in 2012 (Indicator 2). However, since this final exam no longer exists, another indicator to measure the learning achievement needs to be set.

2. Summary of Evaluation Results

(1) Relevance : Very High

The education policy of Niger “PSEF 2014-2024” emphasizes the reinforcement of role, capability and authority of CGDES as well as educational administration at each level (region, department and commune) in the movement of decentralization. As for the aid policy of Japan for Niger, Japan pledged in TICADIV in 2008 and TICAD V in 2012, to expand the project of school-based management based on the model “School for All” to 10,000 schools in West Africa. Thus, the project purpose corresponds well to both the education policy in Niger and Aide policy of Japan.

The project approach is also relevant to the situation in Niger. The role of CGDES has been becoming more and more important in the movement of the decentralization, especially in terms of

local resource mobilization because of Government's limited resources to provide good educational services. Since the CGDES is given the authority to manage the schools, the project aiming at strengthening CGDES to create better access and quality of education is very appropriate, and so the relevance of the project is very high overall.

(2) Effectiveness : High but modification of the indicators is necessary

The project purpose has been already achieved according to the current indicators. However, It is questioned if these indicators were appropriate (especially the indicator 2). In other words, although these two indicators were fulfilled, it remains a question if the project purpose, "The function and capacity of CGDES is strengthened to contribute to educational development (access and quality) in Niger," was really achieved. In fact, while many important activities are being implemented in the project, they are not properly reflected in the indicators. When taking that into consideration, the effectiveness of the project is still evaluated as relatively high but in order to measure the achievement of the project purpose more accurately, modification of the indicators is necessary.

(3) Efficiency : High

Almost all outputs are favorably being produced, except the activity for the secondary school because of the re-organization of the ministries. The project is properly monitored through monthly meeting with C/CGDES. As for the efficiency of the activities, the role-play method in all the trainings is highly evaluated as an effective and efficient transfer of knowledge to all levels. In addition, the effectiveness of the workbook in the "Quality Minimum Package" is widely recognized and there is a high demand for its expansion. Thus the expansion process is expected to be realized smoothly.

Because of the high security level in Niger, there were some delays and cancellations of dispatch of several Japanese experts. Also the restriction of traveling out of Niamey caused the Japanese experts to monitor remotely the activities outside of Niamey. Under this unavoidable circumstances, the project exerts the maximum effort by utilizing local consultants and NGOs, and frequent communication with C/CGDES. As a result, the outputs produced against the inputs is more than expected.

(4) Impact : High

Outlook on achieving the overall goal is rather optimistic according to the stakeholders of the project since the CGDES is now focusing on improving the quality of education. In fact, the rate of enrollment, drop-out and completion of primary education has shown a slight improvement.

As a positive impact, it is identified that the "School for All" in Niger is now a model to neighboring countries. From 2013 through 2014, several study tours for experience sharing were held in cooperation with Burkina Faso, Senegal and Cote d'Ivoire. It is noteworthy that the guidelines developed in Niger were utilized as a base in a project in Cote d'Ivoire. Through the study tours, networking between the countries is being established, consequently it contributes to

the school based management in West Africa as a whole in a great deal.

(5) Sustainability : Medium

Sustainability in policy/institutional aspect is as mentioned in (1) Relevance. When the CGDES monitoring system is institutionalized by the end of the project as planned, the whole system of CGDES activity will be supported by the government of Niger. Thus, the sustainability in the policy/institutional aspect is rather ensured but the project must reach the institutionalization of the monitoring system.

In organization/financial aspect, the national budget has already been allocated to the monitoring activities of CGDES as an outcome of the project's effort. As for the FCC, close coordination with local government is a key because FCCs are supported not only by the contribution of each CGDES but also by the local government; however the local governments are not always cooperative, as identified during the interview with FCC members. The project is currently establishing a coordination committee with FCC and local government in the framework of the forum approach. If the organization of this committee is expanded to other regions, that would bring stabilization of the FCC.

CGDES at school level is supported by contribution of parents of students. It was found that the parents became more cooperative because their awareness toward importance of school has been increased considerably since the start of CGDES. On the other hand, in the pilot schools for introduction of subsidy, some parents stopped their contribution to CGDES. In order to solve this problem and to avoid such a negative effect, the project needs to ensure the quality of the training on management of subsidy.

Otherwise, the introduction and management of subsidy by the project is widely recognized for its effectiveness, so it will be applied as a model in 2800 schools in five regions in the framework of the project supported by GPE/AFD. It will start in academic year of 2014 for four years. For its successful outcome, providing the trainings before distribution of the subsidy is a key. Effective coordination between financial and technical cooperation is expected.

In the technical aspect of the sustainability, acceleration of technical transfer concerning the CGDES monitoring, and development of sustainable "Quality Minimum Package" is necessary. While the technical transfer to C/CGDES in organization of monitoring meetings and workshops have been ensured through the joint monitoring missions, C/CGDES has requested a capacity development in data collection and analysis of CGDES activities. Furthermore, C/CGDES is not yet fully capable to develop and evaluate their annual action plan, assessed by themselves. As for the "Quality Minimum Package," discontinuity of facilitators of the workbooks was identified. Sustainability of the facilitators needs to be taken into consideration in the process of the model development.

(6) Factors promoting better sustainability and impact

(1) Thorough training at all levels

The knowledge transfer in the various activities was successfully done through the simulation method during training. It is a learning method by role-play of the participants, and it is very effective in Niger where adult literacy is low. In addition, the trainings were cascaded to all levels, down to community level, which made it possible to spread the knowledge thoroughly.

(2) Proper monitoring and sharing of its outcome

The activities of resource management with subsidy were properly monitored, and its outcome was widely known to the concerned bodies. As a result, the project received a high recognition, so the model is applied to other project supported by other donor organizations accordingly.

(3) Selection of trainees for training in Japan

After having participated in the training in Japan, the counterparts showed more understandings and cooperation toward the project. In fact, it was a strong backing of SG, one of the participants to the training in Japan, that the national budget for the CGDES monitoring was allocated. It explains the importance of selecting key persons for the training in Japan, at the right time.

(7) Factors inhibiting better sustainability and impact

Concerning the capacity development of C/CGDES, it was found that the project office has been in charge of collecting and analyzing the data of CGDES activity summaries, which is actually the duty of C/CGDES. This problem had been already discussed between the C/CGDES and the project office, and the transfer of this technical work started lately. Not having identified all the skills to be improved among the duties of C/CGDES, it caused the delay of transfer of skills/knowledge.

3-5 Conclusion

Among the 5 evaluation criteria, relevance and effectiveness are evaluated as high. Efficiency is also high as the outputs are being produced properly while the project encountered some difficulties in terms of input. As for impact, a rather optimistic outlook on achieving the overall goal was identified, especially with the introduction of “Quality Minimum Package.” On the other hand, sustainability remains to be strengthened particularly in the financial and technical aspects. Transfer of skills and knowledge to the Niger side, and strengthening the coordination between CGDES and local government need to be enhanced.

Otherwise, as mentioned in (2) effectiveness, revision of PDM is necessary in order to clarify the orientation of the project, by re-organizing the outputs and activities and modifying the indicators.

3-6 Recommendations

(1) Strengthening capability of C/CGDES and acceleration of technical transfer (for MEP/A/PLN/EC and the Project)

In addition to the skills in data collection and analysis, C/CGDES needs to improve its capability of developing, implementing and evaluating of an action plan. To do so, the project needs to

develop a plan on technical transfer within six month and start the activities.

(2) Strengthening the CGDES monitoring system and Ensuring the sustainability (for MEP/A/PLN/EC and the Project)

It was found that the CGDES monitoring system is well functioning from regional to community level through institutionalization of FCC, etc. Now it is the C/CGDES who should monitor/supervise the regional level, and evaluates the CGDES activities nationwide. After that the strategies, orientation of CGDES and a concrete action plan should be developed and implemented. Moreover, for the sustainability of CGDES in the long term, integration of CGDES guidelines with the teacher's training curriculum is crucial. The C/CGDES needs to manage to draw the budget for the monitoring of its introduction.

(3) Strengthening the coordination between FCC and local government (for MEP/A/PLN/EC and the Project)

Decentralization is a pillar of Niger's Policy, to which CGDES activities contribute as its strategic action. In order to make the activities more effective and sustainable, it is necessary to strengthen the coordination with concerning bodies such as governor, local government and educational offices, etc. Currently the activities to challenge educational issues at regional level, through developing and implementing an action plan, are being tested in the form of sustainable forum approach in Taoua Region. The project has to continue and evaluate the activities, and demonstrate its effectiveness with an outlook of expansion. Moreover, it is indispensable for the MEP/A/PLN/EC to secure the budget for the expansion. For the fiscal year of 2016, it is by March 2015 when the necessary costs must be determined and preparation needs to be started.

(4) Developing an action plan toward the expansion of the pilot activities nationwide (for MEP/A/PLN/EC, the Project and JICA)

(a) Pilot of Subsidy

It is becoming evident, based on the outcome of the pilot activities, that capacity development of CGDES and concerned personnel is indispensable for the proper management of subsidy, and ultimately for the improvement of school based management and quality of education. So the model should be promoted for its institutionalization and expansion nationwide for any other projects that come with subsidy. Therefore, the project needs to continue the pilot activities for the further improvement in order to reach its ultimate goal of better quality of education.

(b) "Quality Minimum Package"

The positive result in learning achievement through the activity of the math workbooks was observed by many stakeholders. The model of this package should be established with outlook of its expansion, through more trials ensuring its effectiveness in learning improvement. Furthermore, the positive outcome should be shared with all non-pilot areas through the workshop of experience sharing, as a good example of improving the quality of education. Besides, since the students made rapid progress in the workbook, JICA and the project are required to develop

further contents rapidly.

(5) Adjustment of activity for the secondary school (for MES and the Project)

In the Ministry of Secondary Education, an office in charge of COGES already exists but its organization is not yet in process. As soon as the office is ready, the project needs to resume the activity for establishment of a model of a functional COGES, applying the experiences of CGDES of primary schools, by the end of the project.

(6) Communications among the stakeholders of the project (for MEP/A/PLN/EC and the Project)

To produce the outcome of the project to the maximum, communication among all stakeholders of the project is indispensable. Based on the action plan of the next six months (from August 2014 to February 2015) already developed, the project is expected to clarify who the leading actor is for each activity in order for both the project office and the C/CGDES to better organize and coordinate the project. At the same time, the activities of the action plan mentioned above should be broken down into more concrete actions, and be shared at the monthly meeting of the project. Japanese experts are encouraged to visit the C/CGDES more often, and arrange necessary meetings as the activities demand.

In addition, to spread the project information, its outcome and particularly newly started activities, it is necessary to mobilize all possible mediums such as TV and newspapers.

(7) Revision of PDM (for MEP/A/PLN/EC, MES and the Project)

Based on the revised PDM proposed by the mid-term evaluation team, the project is expected to discuss and finalize the revision at the JCC by the end of October 2014. An action plan should be revised accordingly.

4 Lessons Learned

(1) Effectiveness of bottom-up approach in the decentralization

During the phase 1 and phase 2 of the project, under the movement toward decentralization, the system to support schools by community participation was established. Accordingly, the capacity development of community was realized in order for them to become capable to identify and bring up educational issues. At that point, the project began to build a system to share these issues with administrative organs of each level up to the Ministry, in order to respond the community. The whole structure was being formed this way, creating bottom-up pressure to the upper level. It can be said that the bottom-up approach is effective in countries and areas who promote decentralization but whose administrative management system and capability do not allow to make actions toward decentralization.

(2) Importance of networking with neighboring countries

In the movement toward decentralization in West Africa, the school-based management has been implemented in each country, so there has been experience sharing through study tours. Learning

the others' activities and their outcome has a great impact such as creating a positive competitive environment, and eventually producing a higher sense of ownership to the project.

(3) Effective method of knowledge transfer in case of low literacy rate

In all the trainings, role-play is found to be very effective for stabilizing the knowledge. It is noteworthy that in a country such as Niger where adult literacy rate is low, this method made it possible to transfer the knowledge to the community level thoroughly. It could be a good example as an effective training method for other countries and regions with low literacy rate.

(4) Approach for the improvement of learning achievement, and importance of information sharing

In the activity of "Quality Minimum Package," positive outcome was identified, such as an increase in school hours thanks to the supplementary classes and improvement in learning achievement by the introduction of the math workbooks. This success could be attributed to the training effect it has on the facilitators/teachers, but more importantly, to its impact on the students who came to know the joy of learning and to have a feeling of achievement through the progress of the workbook. Having parents acknowledge the existence of serious learning problems of their children is very important. This way it creates a high demand from the parents for the improvement of educational quality. As a result, CGDES plans and implements the activities in order to respond to the demand.

It is worth mentioning that the exercises in the math workbooks contribute to the improvement of quality of teaching, through careful observation of the students solving the questions. While JICA has been implementing many projects of teacher's training for improvement of teaching quality, this new finding provides a new potential.

5 Other remarks

Followed by the creating of the Ministry of Secondary Education, the three parties, the Ministry of Secondary Education, the Ministry of Primary Education and JICA, have agreed on assigning the director of the office of COGES of the Ministry of Secondary Education as a new member of JCC.

第1章 調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

(1) 経緯

ニジェール共和国（以下、「ニジェール」と記す）は、2003年10月に基礎教育のセクタープログラム「教育開発 10 カ年計画（PDDE）2003-2012」を策定し、「万人のための教育」（Education for all : EFA）達成に向けた取り組みを行ってきた。PDDEではアクセス、質、制度改善を柱として就学前や初等教育の充実、農村部における教育サービスへのアクセス改善などに重点的に取り組んできた。また、PDDE開始以降、教育セクターの地方分権化を進めるとし、学校分権化運営委員会（Comité de Gestion de Décentralisation d'Établissements Scolaires : CGDES）¹の設立、制度化を進めてきた。これらニジェール政府の取り組みにもかかわらず、同国の教育指標は依然として低く、初等教育就学率は2011年現在76%にとどまっているほか、修了率も49%（2010年）と著しく低い。また、PASEC（旧フランス宗主国を対象とした共通学力テスト Programme d'Analyse des Systemes Educatifs de la CONFEMEN）や国内標準テストの結果から、学習達成度が低いことも確認されている。

国際協力機構（JICA）はこれまで「住民参画型学校運営改善計画（みんなの学校プロジェクト）フェーズ1」を通じてCGDES設置のモデル確立を支援、また、同プロジェクトのフェーズ2により、確立したモデルの全国普及を支援し、結果として全国のすべての小学校（約13,700校）においてCGDESによる教育改善活動が行われるに至った。学校レベルにおける教育マネジメント改善にCGDESが果たす役割は大きく、CGDESはこれまでも学校活動計画の策定・実施を中心に、補習を通じた授業時間の確保や、コミュニティのリソース動員による施設改善など、教育改善に貢献してきており、これら取り組みを通じて、生徒の卒業試験合格率の向上など一定の成果が見られつつある。他方、高い退学率や留年率といった著しく低い内部効率（教育投資に比して教育された人材が輩出されない）及び教育の質の問題について依然として解決できていない。その背景には、教員の質や少ない授業時間のほか、教育システムのマネジメントの問題や、予算や資機材といった教育開発に必要なリソース配分の分権化は進んでおらず、学校レベルで活用できる教育リソースは極めて限られているなど、依然として教育セクターの課題が山積している状況がある。

このような背景のもと、ニジェール政府からわが国に対して、教育の質とアクセスの更なる改善のためにはフェーズ2までに全国に確立されたCGDESを通じて学校レベルで活用できるリソースを拡大し、その適正な活用に向けたCGDESの能力強化を含む制度の確立を目的としたプロジェクトの要請がなされた。同要請を受けて2012年5月から2016年5月までの4年間の予定で「みんなの学校：住民参加による教育開発プロジェクト」（以下、本プロジェクト）が開始されており、現在、長期専門家3名（COGES²能力強化、COGESモニタリング、業務調整）が派遣中である。

本プロジェクトの目的は、ニジェールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDESの学校運営の役割と能力強化を行いつつ、最終的に住民参加型の学校運営を通じて基

¹ CGDES（学校分権化運営委員会）は、初等教育・識字・国語推進・市民教育省（MEP/A/PLN/EC）のみ旧称 COGES から改称した名称を表記しています。

² COGES（学校運営委員会）現在は、中等教育省（MES）のみ本名称を表記しています。

基礎教育の質とアクセスが向上することであり、その実現のために CGDES の継続的活動の実施体制の確立やリソース管理・運営、教育行政分権化における CGDES を生かした政策の策定などの取り組みが実施中である。

(2) 調査の目的

以下の活動を実施する目的で中間レビュー調査を実施する。

- 1) これまで実施した協力活動について当初の計画に照らし、投入実績、活動実績、計画達成度を確認し、問題点を整理する。
- 2) 合同評価委員会を組織し、計画達成度を踏まえつつ、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）の観点からプロジェクトの中間レビューを行う。
- 3) 上記の評価結果に基づき、プロジェクト終了までの課題及び今後の活動計画について合同評価委員会で協議し、プロジェクトチームやニジェール側関係機関に対し提言を行う。
- 4) 評価・協議結果を合同評価報告書に取りまとめ、双方の合意事項として協議議事録（M/M）を締結する。

1-2 調査団構成

(1) 日本側調査団メンバー

担当分野	氏名	所属
団長	橘 秀治	JICA 人間開発部基礎教育第二課 課長
協力企画	松崎 瑞樹	JICA 人間開発部基礎教育第二課 主任調査役
評価分析	阿部 久美子	個人コンサルタント
通訳（日-仏）	西山 明美	一般財団法人日本国際協力センター

(2) ニジェール側合同評価メンバー

CGDES 調整部関係者（部長及び課長）

1-3 調査期間

2014年7月28日（月）現地入り～8月13日現地発

※現時点での調査日程案は、付属資料1のとおり

1-4 プロジェクト計画概要

（詳細は付属資料7 PDM（英・仏）を参照）

(1) 上位目標

住民参加型の学校運営を通じて基礎教育の質とアクセスが向上する。

(2) プロジェクト目標

ニジェールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDES の学校運営の役割と能力が強化される。

(3) 成果

成果 1：教育開発（教育のアクセス及び質）に貢献する CGDES の活動が継続して実施される制度が確立される。

成果 2：パイロット実施対象地域において、リソース管理・運営のための CGDES の役割と能力が強化される。

成果 3：教育行政分権化において、CGDES を生かした関連政策が策定され、実施される。

第2章 評価方法

2-1 評価グリッド

本中間レビュー調査は、Project Design Matrix (PDM) と関係資料に基づいて評価設問（調査すべき項目）を検討し、プロジェクトの実績、実施プロセス、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）に関する評価グリッドを作成し、同評価グリッドに沿って評価を行う。実績、実施プロセス、評価5項目の定義は以下のとおりである。なお、中間レビューにおいては、それまでの実績、実施プロセスの情報をベースに、基本的には妥当性と効率性を、貢献・阻害要因とともに重点的に見る。それらの貢献・阻害要因の分析も行う。有効性やインパクトの発現は、アウトプットの実績や活動状況に基づき今後の動向、実現可能性を検証し、持続性はその見込みについて検討する。特に、有効性は、残り半分の協力期間で達成できる見込みがあるか十分に検討する。評価グリッドは、2012年4月署名の討議議事録（Record of Discussions：R/D）に添付されたPDMに対応して作成した。また、詳細調査項目については、付属資料3. 評価グリッドのとおり。

2-2 評価実施方法

中間レビュー調査は、JICA作成「新JICA事業評価ガイドライン（実践編）第1版」に基づいて、以下の手順で実施した。

(1) 合同評価の目的の確認

本中間レビュー調査は、プロジェクトの中間地点において、プロジェクトが順調に効果発現に向けて実施されているかどうかを検証し、結果をプロジェクト内容の改善のために活用すべく実施するものであることを、ニジェール側の評価者と確認した。

(2) 評価対象プロジェクトの情報整理

事前評価報告書及び専門家の報告書などを精査し、本プロジェクトの概要を把握した。さらに、調査団員及び関係者で勉強会の場をもち、現状についての情報も共有した。

(3) 評価のデザイン

JICAでは、プロジェクトの評価における価値判断の基準として、評価5項目を採用している。評価5項目とは1991年に経済協力開発機構（OECD）の開発援助委員会（DAC）で提唱された開発援助事業の評価基準であり、以下の5つの項目から成る。

① 妥当性（relevance）

プロジェクトのめざしている効果がニジェールのニーズに合致しているか、問題や課題の解決策として適切か、ニジェールと日本側の政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当かなどといった「援助プロジェクトの正当性・必要性」を問う視点。

② 有効性（effectiveness）

プロジェクトの実施により、本当に受益者もしくは社会への便益がもたらされているのか（あるいは、もたらされるのか）を問う視点。

③ 効率性 (efficiency)

主にプロジェクトのコストと効果の関係に着目し、資源が有効に活用されているか（あるいはされるか）を問う視点。

④ インパクト (impact)

プロジェクト実施によりもたらされる、より長期的、間接的効果や波及効果を見る視点。予期していなかった正・負の効果・影響を含む。

⑤ 持続性 (sustainability)

援助が終了しても、プロジェクトで発現した効果が持続しているか（あるいは持続の見込みはあるか）を問う視点。

(4) データ収集・分析方法

評価グリッドに基づいて、関連文献等資料の収集及び関係者から聞き取り情報収集を行った。訪問先及び面談者については、付属資料 1. 調査日程と付属資料 2. 主要面談者リストを参照されたい。これを取りまとめて、実績の検証、プロセスの検証、5 項目評価として、付属資料 3. 評価グリッドにまとめた。

(5) 評価結果の報告

上記を中間レビュー調査報告書に取りまとめた。

第3章 プロジェクトの実績

3-1 投入実績

(1) (日本側投入実績)

以下に 2014 年 8 月時点の日本側からの投入を記す (詳細は付属資料 5 参照)。

構 成	投 入
専門家派遣	長期専門家延べ 5 名 : CGDES モニタリング、CGDES 能力強化、業務調整 短期専門家 2 名 : チーフアドバイザー/教育アドバイザー、ベースライン調査
供与機材	モニタリング用車両、事務用機器 : 27,807,000 Fcfa
建設	CGDES 調整部執務室建設、それに伴う事務家具、コピー機など
運営費	総額 : 704,276,804 Fcfa (2014 年 8 月時点) 内容 : 研修実施、マニュアル作成等にかかる活動経費
本邦研修	参加者 : 5 名

(2) (ニジェール側投入実績)

以下に 2014 年 8 月時点のニジェール側からの投入を記す (詳細は付属資料 5 参照)。

構 成	投 入
カウンターパートの配置 :	17 名
活動経費	CGDES 活動モニタリング費 : 見返り資金 : 52,234,143 Fcfa 国家予算 : 350,248,000 Fcfa、うち執行額 : 7,132,700 Fcfa

3-2 プロジェクト達成度

3-2-1 成果の達成度

成果の達成度は PDM Version 1 (2012 年 3 月) (付属資料 7 参照) に設定されている指標を基にしているが、その他、指標が設定されていないが各成果に貢献している活動が多く認められることから、達成度をより包括的に検証するためにも【補足評価指標】として設定し併せて評価した。

以下、各成果の達成状況を記す。

(1) 成果 1

成果 1 は各活動コンポーネントの達成見込みは比較的高い。なお、活動方針の変更や評価に適切でない指標が認められることから、指標の再設定が必要である。特に、指標 5 及び指標 6 の中等学校への機能する COGES モデル導入については、省庁改編の影響により活動が中断しているため、指標の修正が必要と判断される。成果 1 の達成度は以下のとおり。

成果 1：教育開発（教育のアクセス及び質）に貢献する CGDES の活動が継続して実施される制度が確立される。			
指標	達成状況		
指標 1：州レベルで開催されるフォーラムに参加した 95%以上の CGDES 連合が、フォーラム後に少なくとも 1 回以上の連合総会を開催する。	<p>プロジェクト開始当初は、全国で州教育フォーラムを実施する計画であったが、教育フォーラムのあり方について更なる検討を要するという結論になり、2014 年 2 月の合同調整委員会 (JCC) にてタウア州でパイロット活動を実施することが決定された。タウア州での教育フォーラムの実施状況は以下のとおり。</p> <p>2014 年 6 月タウア州にて州教育フォーラムを実施。その後タウア州の全 44 連合が連合総会を 1 回開催している (100%)。なお、プロジェクト終了までにタウア州にて今後 2 回の州フォーラムを開催予定であり、その過程で「持続するフォーラムモデル」の開発をめざす。したがって、計画当初と活動内容に変更があるため、「フォーラムモデル開発」に係る適切な指標への修正が必要である。</p>		
指標 2：80%以上の CGDES が学校改善計画を教育の質の改善を重視した活動（学習達成度の向上に効果がある補習授業等）を含むものに改訂する。	<p>2013～2014 年度において 92%の CGDES が教育の質の改善を重視した活動を含む学校改善計画を実施している。詳細は表 - 1 参照。</p> <p>今後もプロジェクトのモニタリング活動が適切に実施されれば、プロジェクト終了までに達成される見込み。</p>		
指標 3：中央、州、県で実施される行政官による連絡会議の回数が増加する。		2012/2013	2013/2014
	【中央】経験共有セミナー	2 回	2 回
	【州】視学官会議	8 回 (8 州×1 回)	2 回 (タウア州のみ 2 回)
	【州】CGDES 監督官会議	25 回 (全国 1 回 +8 州×3 回)	24 回 (8 州×3 回)
	<p>連絡会議開催実績：現時点で各レベルの連絡会議の回数に増加は見られないものの、2013 年 3 月からの見返り資金拠出再開により、CGDES 監督会議はその後定期的に開催。今後は、CGDES 監督会議及び経験共有セミナーに関しては国家予算に組み込まれたことから安定的な会議開催が見込まれる。</p> <p>なお、これら会議の目的は CGDES 活動モニタリングであるため、現在、取り組んでいるモニタリングシステムの指標として適切な指標への修正の検討が必要と判断される。</p>		
補足評価指標①：CGDES 調整部のモニタリング能力が向上する。	<p>CGDES 活動のモニタリングシステムは、以下の 3 つの会議で構成され、これらの会議が着実に実施される必要がある。</p> <p>① 中央での経験共有セミナー (年 2 回)</p>		

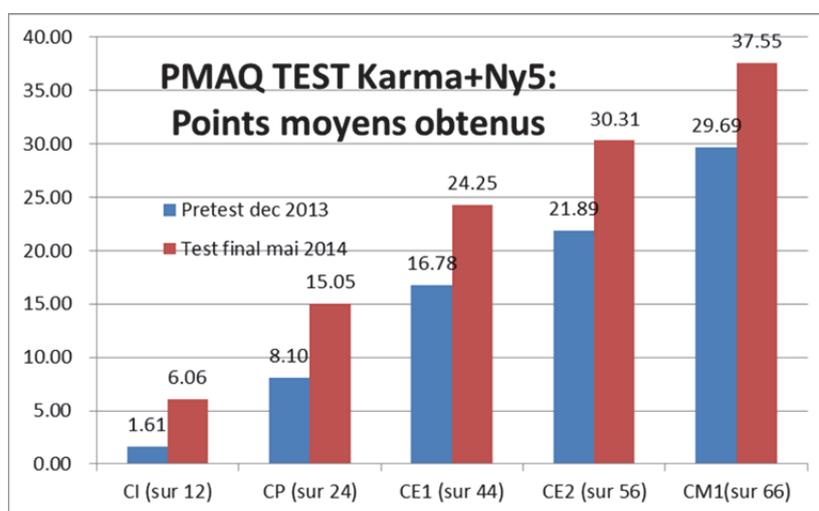
	<p>② CGDES 連合総会（年 3 回）</p> <p>③ CGDES 監督案会議</p> <p>これらの会議の開催を通じて学校活動計画及びその活動総括の集計・分析作業等を CGDES 調整部が実施しており、その作業を通じて CGDES の能力強化が図られている。また、CGDES 連合総会の合同モニタリング、経験共有セミナー開催を通じて、調整部のセミナー準備能力が向上しつつある。今後は、データ集計・分析能力について更なる強化が必要である旨確認され、研修を開始したところであるためプロジェクト終了までに達成される見込みである。</p>
<p>指標 4：CGDES による活動のモニタリング制度が初等教育・識字・国語推進・市民教育省（以下、「初等教育省」）に正式に承認される。</p>	<p>2012 年 2 月の省令にて、CGDES 調整部に対し、州・県レベルにその出先行政官としての CGDES 監督官を配置、CGDES モニタリング・活動支援が任務として規定されている。また、2013 年、2014 年初等教育省予算計画にて、CGDES モニタリングに係る CGDES 監督官会議並びに CGDES 監督官モニタリング費の国費支出が承認。</p> <p>今後は、上記【補足評価指標①】のモニタリング活動を調整部がより主体性をもって取り組み、2015 年 6～7 月にモニタリングシステムの外部もしくは内部評価の実施。同時に戦略文書作成を支援し、モニタリングシステム承認アトリエ開催を経て、制度化を予定している。プロジェクト終了前までに達成される見込み。</p>
<p>指標 5：90%以上の中等学校で、匿名方式の選挙等民主的な方法で選出したメンバーで構成される COGES が設立される。</p>	<p>中等学校に関しては、2013 年 3 月より活動開始、ニアメ市内のパイロット 3 校を対象に COGES 設立研修を実施しているが、同年 8 月の省庁改編により中等学校が他省の管轄となり、活動が中断している。その後、2014 年 2 月の合同調整委員会にて活動の継続が承認されているが、具体的な活動の再開には至っていない。</p>
<p>指標 6：80%以上の中学校で、1つ以上の学校活動計画が実施される。</p>	
<p>補足評価指標②：「質のミニマム・パッケージ」が開発され、有効性が実証される。</p>	<p>【ドリル開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2012/2013 年度：算数ドリル（初稿）開発（7 冊作成：No.1～No.5、回答集 No.1、No.2） ・ 2012 年 9～11 月対象校 1 校、及び 2013 年 2 月～プロジェクト事務所にて、開発ドリルの試行 ・ 2013 年 6～12 月：算数ドリル開発（3 冊作成：プレ算数・No.1、No.2） ・ 【有効性の実証】 ・ 算数ドリルのテスト結果からは、すべての学年において成績向上が認められており（図－1 参照）、有効性が実証される見込みである。

補足評価指標③：教員初期研修へのCGDES モジュールが導入される。	2015年夏実施予定。
------------------------------------	-------------

表－１ 教育の質改善を重視した活動に係る学校活動計画実施総括表

	2011/2012	2012/2013	2013/2014
全国 CGDES 数	15,046	15,810	16,587
学校活動計画提出率	95.3%	91.2%	94.7%
学校活動計画総括表回収率	88.1%	89.2%	92.1%
質の改善にかかる分析総括表回収数（対全 CGDES 数の割合）	13,262 (88.1%)	14,096 (89.2%)	15,278 (92.1%)
質の改善にかかる実施活動数平均	5.1	5.1	5.1
①教室建設（実施 CGDES 数/分析総括表数）	70.5% (9346/13262)	82.12% (11576/14096)	81.1% (12387/15278)
②補習授業	65.7% (7912/12036)	71.30% (9531/13366)	61.7% (9420/15278)
③夜間学習/チュートリアル	48.5% (5835/12036)	51.93% (6942/13366)	43.5% (6639/15278)

出所：プロジェクト報告書



出所：プロジェクト報告書

図－１ 「質のミニマム・パッケージ」算数ドリルの成果

(2) 成果 2

成果 2 の達成度は高いと判断される。ただし、プロジェクト計画策定時での活動計画と実際の活動に相違点があることが確認された。成果 2 は、パイロット地域を対象としたリソース管理・運営のためのモデル開発であり、現在の指標は既に達成されている。今後は開発されたモデルの更なる改良が必要であり、プロジェクトとしてはパイロット活動を継続するため、指標を再設定する必要がある。

成果 2 の達成度を以下に示す。

成果 2 : パイロット実施対象地域において、リソース管理・運営のための CGDES の役割と能力が強化される。	
指 標	達成状況
補足評価指標① : リソース管理・運営の研修モジュールが開発される。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2012 年 11、12 月 : リソース管理モジュール、計画策定モジュール (リソース運用) モジュール作成。モジュールの共有セミナー実施。 ・ 2013 年 7 月～10 月 : これまでのモニタリング結果、経験、各種事例を分析し、上記 2 種のモジュール改訂。 <p>今後、更なるモジュール内容の改善を図る予定であり、プロジェクト終了までに達成の見込み。</p>
指標 1 : パイロット実施対象地域において、リソース管理・運営の研修を受けた CGDES の割合が増加する。	<p>パイロット実施対象 : ティラベリ州サイ県・トロディ県の 120 校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2012 年 12 月、対象 120 校 (各 CGDES より 3 名)、対象 5 連合 (各 2 名)、計 370 名がリソース管理研修を受講。うち、60 校及び連合の合計 190 名が計画策定 (リソース運用) 研修を受講。 ・ 2013 年 10 月、モジュール改訂版を使用して、上記対象者が研修を再受講。
指標 2 : パイロット実施対象地域において、CGDES により管理・運営されたリソースの割合が増加する。	<p>介入前の 2011/2012 年度と比較して、2012/2013 年度は約 2 倍、2013/2014 年度は約 2.5 倍の増加が見られた。詳細は表 - 2 を参照。</p> <p>なお、リソース管理のうえで重要な証憑書類の提出率は 100% であり、適切に運営管理されたことが確認されている。対象地域での活動は終了し、指標は達成された。</p>
指標 3 : パイロット実施対象地域において、学校改善計画における教育の質の改善を重視した活動割合の増加。	<p>2012/2013 年度と 2013/2014 度を比較において、教育の質改善重視の活動計画を行った CGDES の割合は全体として増加している。詳細は表 - 3 参照。対象地域での活動は終了し、指標は達成された。</p>

表－２ 【指標 2】に係る CGDES により管理・運営されたリソースの増加

	2011/2012	2012/2013	2013/2014	特記事項
補助金供与額合計		26,846,000	30,066,000	
補助金 1 校当たり平均		223,717	250,550	
学校活動計画額 1 校当たり平均	194,332	398,529	471,552	介入前と比較して、2012/2013 年度は約 2 倍、2013/2014 年度は約 2.5 倍
補助金以外の資金源の割合 1 校当たり (③－②)		174,812	221,002	約 1.3 倍の増加

出所：プロジェクト報告書

表－３ 【指標 3】に係る対象校内活動別計画策定 CGDES 割合

(%)

	補習授業	夜間授業	練習問題 実践補習	教材・文 具購入
2012/2013	64.4	76.3	31.4	65.2
2013/2014	76.7	75.8	41.7	90.0

出所：プロジェクト報告書

(3) 成果 3

成果 3 の達成見込みは比較的高い。指標 1 は教育政策への反映、指標 2 が CGDES 活動を盛り込んだ調整部による年間活動計画策定、指標 3 はリソース運営管理の制度化である。今後の活動の継続により各指標の達成見込みは比較的高いといえる。しかし、成果 1、成果 2 と同様に、達成すべき目標をより明確にするために、指標の整理・修正が必要である。成果 3 の達成度を以下に示す。

成果 3：教育行政分権化において、CGDES を生かした関連政策が策定され、実施される。	
指標 1：CGDES に関連した政策が作成される。	<ul style="list-style-type: none"> ・2012 年 2 月（詳細策定調査実施後、CGDES、CGDES 連合の設立、権限、機能等に係る省令、及び CGDES 調整部の設立・権限・機能に係る省令が発出されている。 ・ニジェール国教育・研修セクタープログラム（2014～2024）戦略文書において、女子就学促進、学校インフラ管理、学校分権化運営改善等、教育改善にかかるアクターとして CGDES の役割強化を明記。それらに係る CGDES 能力強化を含む活動が計画されている。 ・2014 年 4 月に発行された 2012 年度教育統計年鑑に CGDES 活動成果が挿入された。 <p>今後は、CGDES 活動モニタリングシステム制度の承認をめざしており、プロジェクト終了まで達成される見込み。</p>

指標 2：CGDES に関連した政策を反映した初等教育省の年間計画が作成される。	・2013 年、2014 年度ともに、CGDES 活動支援モニタリングに係る活動が調整部の活動計画に挿入され、初等教育省年間活動予算計画へ盛り込まれ、指標は達成された。しかし、年間計画策定能力については、調整部の更なる能力強化の必要性が認められるため、引き続き強化支援を継続する必要がある。
指標 3：リソース管理・運営における CGDES の機能強化を含む初等教育省の政策ないしは計画の有無。	リソース管理・運営に係るパイロット活動は終了し（成果 2 参照）、今後モデルの改良を図り政策への反映をめざしている。既にパイロット活動成果を活用した GPE/AFD コモンファンド基礎教育支援プロジェクトによる補助金供与が 2014 年から予定されていることから、今後、初等教育省の政策または計画に組み込まれる見込みは高い。

3-2-2 プロジェクト目標

プロジェクト目標は、既に一部の成果は達成されており、プロジェクト期間中にプロジェクト目標は達成される見込みが高い。しかしながら、プロジェクト目標が全国の CGDES を対象としているのに対して、指標 2 はパイロット地域に限定した指標設定となっているため、指標の修正が示唆される。「第 4 章 4-1-2 有効性」の項目でプロジェクトのコンポーネントの整理と指標の適切性について検証する。プロジェクト目標に対する指標の達成度を以下に示す。

プロジェクト目標：ニジェールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDES の学校運営の役割と能力が強化される。				
指 標		達成状況		
指標 1：CGDES が CGDES 連合及び初等教育省に学校改善計画総括表を提出する割合が増加する。	総括表回収率は確実に増加しており、指標は達成された。			
		2011/2012	2012/2013	2013/2014
	全国 CGDES 数	15,046	15,810	16,587
	学校活動計画提出率 (%)	95.3	91.1	94.7
	学校活動計画総括表回収率 (%)	88.1	89.2	92.1
指標 2：パイロット対象地域において CGDES が管理・運営する資源の割合が増加する。	介入前の 2011/2012 年度と比較して、2012/2013 年度は約 2 倍、2013/2014 年度は約 2.5 倍の増加が見られたことから、指標は達成された。詳細は表-2 参照			

3-2-3 上位目標

上位目標の達成見込みは高いと予測される。教育指標においては緩やかな改善傾向が見られ、今後も CGDES による教育のアクセスと質向上のための活動が継続されることで、教育指数の向上が期待される。

上位目標に対する現時点での指標の推移は、以下のとおり。

上位目標：住民参加型の学校運営を通じて基礎教育の質とアクセスが向上する。																				
指 標	達成状況																			
指標 1：教育指標（就学率、留年率、中退率、修了率など）の向上	<p>2011 年度と 2012 年度を比較して、以下のとおりほとんどの指標において緩やかな改善が確認される。プロジェクト目標が確実に達成され、活動が継続されることで、これらの指標の改善に貢献することが見込まれる。</p> <p style="text-align: right;">(%)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>2011 年度</th> <th>2012 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粗入学率</td> <td style="text-align: center;">97.9</td> <td style="text-align: center;">99.2</td> </tr> <tr> <td>粗就学率</td> <td style="text-align: center;">79.2</td> <td style="text-align: center;">82.0</td> </tr> <tr> <td>留年率</td> <td style="text-align: center;">4.44</td> <td style="text-align: center;">4.40</td> </tr> <tr> <td>初等中退率</td> <td style="text-align: center;">12.2</td> <td style="text-align: center;">13.0</td> </tr> <tr> <td>初等修了率</td> <td style="text-align: center;">55.8</td> <td style="text-align: center;">56.4</td> </tr> </tbody> </table>			2011 年度	2012 年度	粗入学率	97.9	99.2	粗就学率	79.2	82.0	留年率	4.44	4.40	初等中退率	12.2	13.0	初等修了率	55.8	56.4
	2011 年度	2012 年度																		
粗入学率	97.9	99.2																		
粗就学率	79.2	82.0																		
留年率	4.44	4.40																		
初等中退率	12.2	13.0																		
初等修了率	55.8	56.4																		
指標 2：学習達成度の改善	<p>指標 1 同様に、初等終了試験合格率も以下のとおり緩やかな改善が確認される。他方で、初等終了試験が 2013 年度より廃止となったため、学習達成度の改善を図るための他の指標を設定する必要がある。</p> <p style="text-align: right;">(%)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>2011 年度</th> <th>2012 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初等終了試験合格率</td> <td style="text-align: center;">56.7</td> <td style="text-align: center;">57.2</td> </tr> </tbody> </table>			2011 年度	2012 年度	初等終了試験合格率	56.7	57.2												
	2011 年度	2012 年度																		
初等終了試験合格率	56.7	57.2																		

3-2-4 実施プロセスにおける特記事項

(1) 活動の進捗・実施状況

プロジェクトの活動は以下の点において、計画されていた活動に遅れや変更が生じている。ニジェールの治安状況により日本政府・JICA の安全対策レベルが上がり、中等学校の COGES 導入を担当する予定であった短期専門家派遣が中止となり活動の遅れが生じた。さらに 2013 年 8 月の省庁改編により中等学校を管轄する省が変わり、活動が中断する事態となっている。同様の理由で、質のミニマム・パッケージに係るドリル開発を担当する短期専門家の派遣も中止となり、現場での日本人専門家の移動制限も踏まえ、ドリル開発のための試行をプロジェクト事務所周辺の児童の協力の下に行うとともに、パイロット地域をニアメ市内へ変更した。

フォーラム・アプローチについては、当初計画では複数州を対象とする予定であったが、フェーズ 2 までのフォーラム・アプローチの手法では持続性に課題があることが認識されたことから、2014 年 2 月の合同調整委員会（JCC）での議論の結果、まずはタウア州にて持続性のあるフォーラム・アプローチのモデル開発を実施することで合意した。

その他、補助金供与によるリソース運営・管理に係る活動が計画に対して若干の遅れが確認されたが、成果の達成に大きな影響を与えていない。

(2) プロジェクト運営管理

プロジェクトの運営管理としては、主に CGDES 調整部と計画局プロジェクト担当者との月例会が実施されており、活動の進捗報告、計画、問題解決の場として機能している。毎月関係者は積極的に参加しており、情報共有も円滑である。プロジェクト事務所と CGDES 調整部の事務所が物理的に離れてはいるものの、プロジェクト活動を通じたコミュニケーションによりカバーしており、両者の関係は良好であるといえる。しかしながら、今後プロジェクトの終了を見据えてより一層の CGDES 調整部の能力強化に資する取り組みが必要であり、両者のより密な連携が期待される。

プロジェクト事務所内では、日本との電話会議で原チーフアドバイザーとほぼ毎週会議を実施しており、各活動が円滑に進むように日本からの技術支援がなされている。

他方で、プロジェクト専門家間の情報共有不足も指摘された。その原因として、プロジェクト PDM 及び PO が活動実施のためのツールとして効果的に活用されていないことが挙げられる。プロジェクトの目標と達成までの工程を明確に整理し、プロジェクト運営管理のモニタリング・ツールとして PDM 及び PO を関係者と共有していく必要がある。

(3) カウンターパートのオーナーシップ

これまでのプロジェクトフェーズ 1、フェーズ 2 の支援により CGDES の制度は既に初等教育省の政策に反映され、研修モジュールなどもニジェール政府の文書として認識、活用されている。本プロジェクトでもカウンターパートは積極的に活動に参加している一方で、より調整部が主体性をもった形で活動を進めていきたいという意見が聞き取り調査から確認された。これは、カウンターパートの活動に対する高い意欲がうかがえるものである。今後は、円滑なコミュニケーションを更に進めながら、技術移転と活動の主体性の観点から、活動方針を双方で話し合っていくことが期待される。

(4) 他ドナーとの連携

PTF 会合への参加をはじめ、ユニセフや世界銀行の教育担当者とは頻繁な会合を通じて情報共有を行っている。その成果として、プロジェクトの補助金供与の活動実績が認められ、GPE/AFD コモンファンド基礎教育支援プロジェクトにより、全国 5 州内全 2,800 校へ 4 年間にわたる補助金供与が決定した。2014 年度から開始予定で、プロジェクトが開発した研修モジュールの活用が計画されている。他ドナーの資金支援による成果拡大は、プロジェクトの活動が高く評価された結果である。

第4章 評価結果

4-1 5項目ごとの評価

4-1-1 妥当性

以下の理由から、プロジェクトの妥当性は非常に高い。

(1) ニジェールの教育政策とプロジェクト目標の整合性

2011年に実施された詳細計画策定調査時点では、「教育開発10カ年計画（PDDE）2003～2012」に沿って教育開発が進められており、これは①アクセス、②質、③制度開発の3つの要素から構成され、初等教育分野においては特に就学率の向上及び教育の質の改善に加えて、学校運営にコミュニティを巻き込む点が目標として設定されていた。プロジェクト開始後、2012年5月には教育政策文書“La Lettre de Politique Educative pour la période 2013-2020”が発表され、これを実践していく戦略文書として「教育及び研修セクター計画（PSEF 2014～2024）」が策定された。PSEF 2014～2020は先行のPDDEの経験と課題を引き継ぐ内容となっており、具体的活動として、地方分権化に伴うCGDESの役割や能力強化、権限の強化を図ること、州・県・コミューンそれぞれの教育行政レベルの能力強化が明記されている。

したがって、プロジェクト目標である「ニジェールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDESの学校運営の役割と能力が強化される」は、中間レビュー調査時点においてもニジェールの教育政策の柱の1つであり、確実に合致している。

(2) 日本の援助方針とプロジェクト目標の整合性

日本の対アフリカ支援の基軸である「アフリカ開発会議（TICAD）」では、教育を優先項目の1つとして掲げ、2008年のTICAD IVで採択された行動計画のなかに、西アフリカにおける「みんなの学校」モデルを基礎に学校運営改善のためのプロジェクトを1万校に拡大することを目標としており、さらに2013年実施のTICAD Vでも引き続きこの拡大を推進していくとしており、日本の政策との整合性も高い。

(3) ターゲットグループのニーズとプロジェクト目標の整合性

ニジェールの教育指標のアクセスについては、緩やかな改善が見られるものの、2012年度の初等教育粗就学率は82%であり、中退率は13%にのぼり、いまだアクセスの改善が必要とされている。教育の質においては、2012年度の初等教育修了率は56%、初等終了試験合格率は57%と、学習達成度が著しく低い。本プロジェクトはフェーズ2までに設立された全国のCGDESを通じて、教育のアクセスと質の向上をめざすものであり、プロジェクトの直接裨益対象者は中央レベルから学校までCGDES活動に係るすべてのアクターであることから、ターゲットグループのニーズに確実に合致している。

(4) 実施方針の適切性

ニジェールの地方分権化の流れのなかで、CGDESは教育政策でも重要な役割を担うものとして学校運営の権限が与えられている。教育環境整備のためのリソースが限られているニジェールでは、CGDESによるリソース動員、運営管理がますます求められている。したがって、CGDESの役割と能力強化による教育のアクセスと質の向上をめざす本プロジェクトのア

アプローチは適切である。

4-1-2 有効性

以下の理由から、プロジェクトの有効性は高いが、成果の整理及びプロジェクト目標と成果の指標の修正、それに伴う活動の整理が必要である。

(1) プロジェクト目標の達成度

本プロジェクトの目標は、現在設定されている指標のうちでは既に達成されている。指標 1 では、学校改善計画の年間総括表の提出率が 2011 年度は 88.1% だったのに対し、2012 年度は 89.2%、さらに 2013 年度では 94.7% と着実に成果を発現している。指標 2 では、リソース運営管理活動のパイロット地域において CGDES によって運営管理された資源の割合であるが、プロジェクト目標の達成度 3-2-2 に記述のとおり、プロジェクト介入前と比較して 2011 年度は約 2 倍、2012 年度は約 2.5 倍と大きく増加している。したがって、2 つのプロジェクト指標からは、既に目標を達成しているといえるが、その一方で、その指標が妥当であったのか（特に 2 つ目の指標）という問題がある。すなわち、現在設定されている指標が達成されたとしても、プロジェクト目標である「ニジュールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDES の学校運営の機能と能力が強化される」が達成されたとは言い切れない。CGDES の機能と能力強化のためにプロジェクトでは、指標に反映されていない重要な活動にも多く取り組んでおり、本来これらの活動や成果に関する指標を含める必要がある。指標設定を含めたプロジェクト目標と成果の因果関係について、(2) にて考察するとともに、PDM の改訂について提案する。

(2) プロジェクト目標と成果の因果関係

プロジェクトは大きく 2 つのコンポーネントで構成されている。1) 機能する CGDES 活動のモニタリング強化、2) 教育の質及びアクセスに係るモデル開発（「質のミニマム・パッケージ」、「リソース運営管理」、「フォーラム・アプローチ」、「中等学校への機能する COGES 導入」）。1) では、これまでのフェーズ 1、フェーズ 2 の支援で確立された CGDES 活動の全国展開の成果を継続させるため、特に中央レベルにおけるモニタリング能力強化を図るものである。そして、CGDES 活動を更に活性化させ、CGDES 活動によって教育の質向上をめざすために、2) の 4 つの活動が試行的に実施されている。

「質のミニマム・パッケージ」は生徒の学力向上のためのドリル導入であるが、このドリル学習の活動を CGDES 活動として学校と地域を巻き込んだアプローチをとっている。住民集会でドリル学習のファシリテータを教員及び住民から選出し、さらにドリル学習の成果を公表することで、コミュニティの教育課題を認識し対策を議論することを促し、自発的な住民参加による教育開発の可能性を秘めている。

「リソース運営管理」は、地方分権が進められる一方で、学校レベルでのリソース配分が限られている現状から、CGDES 活動に対する補助金供与の支援を実施。各 CGDES が適切に透明性をもった資金管理を実現するとともに、教育の質改善のために有効活用されるようにするための支援である。この活動についても、「質のミニマム・パッケージ」同様、資金管理活動を適切に住民（保護者）へ公表することで、資金の適切な運用を踏まえた学校活動計画を住民参加型で実践させるためのアプローチである。

そして「フォーラム・アプローチ」はフェーズ2でその有効性が認められたものの、持続性に係る課題が残ったことから、新たな手法としてコミュニケーションとCGDES連合の連絡協議会を設置し、これまで以上に地域が一体となって教育開発に取り組む手法が試行されている。地方自治体を巻き込むことで、財政面におけるCGDES連合の活動の継続性も期待される。

最後に「中等学校への機能するCOGESモデルの導入」に至っては、これまでの初等教育分野へのCGDES活動支援が効果的に成果を発現していることから、次のステップとして中等学校へのこれまでの成果の応用によるモデル開発を組み入れ、中等学校への波及の第一歩をニジェール側に提示するものである。

このように、2)の4つのパイロット活動は、全国展開を果たしたCGDES活動の更なる活性化を図る手段であり、CGDES活動を通じた教育の質改善という目的を満たすものである。

以上のように、プロジェクトの各コンポーネントはプロジェクト目標を達成させるうえでいずれも必要不可欠かつ十分なものである。しかしながら、現在設定されている3つの成果では、これらコンポーネントの役割とプロジェクト目標への貢献が分かりにくい整理となっている。成果1：モニタリング、「質のミニマム・パッケージ」、「フォーラム・アプローチ」、そして「中等学校への機能するCOGES導入」、成果2：「リソース運営管理」、成果3：政策策定、そして活動レベルにおいてCGDES調整部のモニタリング能力強化が含まれている。さらに、「質のミニマム・パッケージ」においては成果を評価するための指標の設定がなく、プロジェクト目標の指標に至っては重要なプロジェクトのコンポーネントが適切に反映されていない。したがって、成果の整理と成果及びプロジェクト目標の指標の修正、さらに活動の整理が必要である。

プロジェクト目標の達成度では、現在設定されている2つの指標を基準に達成度を検証したが、前述のとおりプロジェクトを構成する重要なコンポーネントとその活動を照らし合わせた場合においても、プロジェクト目標達成の見込みは高いといえる。すべての活動はプロジェクト目標達成に寄与するものであり、「3-2-1成果の達成度」の項で示しているとおり、ほぼすべての活動は成果を発現している。したがって、プロジェクトの有効性は高いが、これを維持するためには、成果の整理及びすべての指標の見直し、それに伴う活動の整理が必要とされる。

(3) 成果からプロジェクト目標に至る外部条件

外部条件①「経済・治安状況が著しく悪化しない」の状況

ニジェールの治安状況の関係から日本政府・JICAのニジェールにおける安全対策レベルが上がり、プロジェクト専門家の移動制限によるモニタリング活動の遠隔操作を与儀なくされた。日本人専門家は活動モニタリングを間接的に行うことにより、問題への適切な対応や活動に係る的確な判断ができにくい状況となっている。また、予定していた短期専門家の一部の派遣が中止された。

しかしながら、長期専門家の尽力により、プロジェクト活動への影響を最小限に抑えており、現時点でのプロジェクト目標達成に大きな支障はない。

4-1-3 効率性

プロジェクトの効率性は高い。

(1) 成果達成状況

「3-2-1 成果の達成度」で示しているとおり、中等学校に対する活動が省庁再編の影響により中断を余儀なくされているが、それ以外については、成果はおおむね達成される見込みである。活動の進捗も、調整部との月例会を通じて円滑なコミュニケーションにより効率的な情報共有が行われている。また、すべての研修にロールプレイ（寸劇）を取り入れた手法により、学校レベルまでの技術移転がより効果的、効率的に実現されていることが、聞き取り調査でも確認された。さらに、実施中の質のミニマム・パッケージに係るドリル学習の評価は大変高く、拡大を望む声も多いことから、今後の展開活動がスムーズに実施されることが見込まれる。

安全管理上の理由などにより、専門家派遣の遅れや中止、さらに日本人専門家の移動制限によるモニタリングの遠隔操作を余儀なくされている状況のなかで、ローカルスタッフやNGOを最大限に活用し、またCGDES調整部とのコミュニケーションを密にすることで、効率的に業務が実施されている。こうした観点から、日本人専門家や現地業務の投入に対して、中間レビュー調査時点で発現されている成果は期待以上であるといえる。

(2) 活動と成果の因果関係

「4-1-2 有効性」の項目、「(3)プロジェクト目標と成果の因果関係」で記述しているとおり、成果の整理及び指標の修正が必要とされているため、それに伴い活動も整理する必要がある。

(3) 活動から成果に至る外部条件

外部条件①：「多数のカウンターパートが短期間において異動しない」の状況

カウンターパートの異動は多いが、短期間の単位での異動はない。カウンターパートが代わった場合は、速やかにプロジェクト活動に係る説明や必要に応じて研修を実施しており、現時点ではこの外部条件による負の影響は少ない。

外部条件②「経済、治安状況が著しく悪化しない」の状況

「4-1-2 有効性」の外部条件の項参照。

(4) 投入の実施状況

専門家派遣については、任期短縮や安全管理上の問題による派遣中止などがあったが、現地リソース（ローカルスタッフ・NGO）を活用することで対応している。供与機材に関して、プロジェクト事務所内の事務機器等が予定どおり投入され、有効に活用されている。しかし、供与機材の位置づけについて、日本・ニジェール側双方で適切に理解されておらず、供与機材購入のためのニジェール側の署名の遅れが確認された。協議によりプロジェクト事務所内の事務機器はプロジェクト終了後にCGDES調整部へ引き渡すことで円満な合意に至っている。その他モニタリング活動に係る車両及び調整部執務室拡大とそれに伴う事務機器の供与はスムーズに実施された。

(5) コスト効率性

ローカルスタッフ雇用に関し、NGO コンサルタントに業務委託を行うことにより膨大な業務量を円滑かつ効果的に進めることができています。

4-1-4 インパクト

プロジェクト実施によって一定のインパクトが確認された。したがって、上位目標の達成見込みも以下に示す理由から現時点ではおおむね高いと判断される。

(1) 上位目標達成予測

本プロジェクトでは「住民参加型の学校運営を通じて基礎教育の質とアクセスが向上する」ことをプロジェクト終了後3年から5年以内に達成すべき上位目標としている。具体的には、就学率、留年率、中退率、修了率といった教育指標の改善と、生徒の学力向上をめざしている。

中間レビュー調査時点での上位目標の達成見込みは、聞き取り調査から多くの関係者が可能であると認識している。就学率、留年率に関しては、「3-2-3 上位目標の達成度」に記述のとおり改善傾向が確認されている。また、教育の質向上をめざす CGDES 活動が中心に実施されているため、修了率及び学力向上に貢献することが見込まれる。さらに、パイロット活動中であるドリルの反響は大きく、全国展開を望む声が中央から学校の保護者まですべてのレベルから聞かれた。実際、ドリル導入により、学力向上と出席率向上が現時点で認められている。質のミニマム・パッケージが確実に普及し、各 CGDES によって継続されることにより、学力向上、それに伴う留年率、中退率の改善、修了率の向上が見込まれる。

(2) 上位目標とプロジェクト目標の因果関係

上位目標である各教育指標の改善を図る手段として、プロジェクトでは CGDES の機能強化の支援をしている。地方分権化を進めるニジュールにおいて教育開発（教育のアクセス及び質）を進めるうえで CGDES が果たすべき役割は大きく、したがって、プロジェクト目標「ニジュールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDES の学校運営の役割と機能が強化される」が達成され、COGES 活動が継続されることで、上位目標が達成されるという因果関係は理に適っている。

(3) プロジェクト目標から上位目標達成に至る外部条件

外部条件①：「教育省の予算が確保される」の現状

この外部条件は、満たされる見込みが高い。詳細は「持続性」の項目で検証することとする。

外部条件②：「各学校に必要な教員の措置が適切に行われる」の現状

「PSEF 2014-2024」によると、教員数は、1998年より契約教員の大量雇用により、1999年の11,000人から2011年は45,000人に増加しており、この教員増加が続けば10年後には教員1人に対して生徒45人となることが推測される。一方、教員配置に関して、都市部に教員数が集中し、地方では十分な教員供給がされていない現状も指摘されている。今後も、この状況が続けば、上位目標達成の阻害要因となる可能性が高い。したがって、この外部条件につ

いては引き続き状況確認を行う必要がある。

(4) その他の波及効果

ニジェールの「みんなの学校」は西アフリカで最初に開始され、現在は近隣諸国のモデル国となっている。2013年4月にはブルキナファソ教育省によるスタディツアー、2013年10月は学校補助金供与に係るセネガルとの経験共有セミナー、そして2014年8月にはコートジボワール教育省より視察団が訪問している。コートジボワールで実施中のJICAプロジェクトでは、ニジェールで開発された学校運営改善モジュールが、参考事例として有効に活用されていることが確認された。このように、モデル国として近隣諸国に及ぼす影響は大きく、また視察を通じて近隣諸国とのネットワークも構築されつつあり、西アフリカ全体としての学校運営改善の効果発現に寄与しているといえる。

そのほか、予期していなかったインパクトとして、地方行政の住民管理が挙げられる。リソース運営管理のパイロットサイトにて、銀行口座を開設する際にIDカードが必要であるが、それを機に住民がIDカードの存在を知り、皆がIDカードを持つようになった。同様の例では、学校へ行くためには出生証明が必要であり、子どもたちが学校へ行くようになったことで、現在は出生証明を持つようになっている。

さらに、構築されたCGDESを、他の目的に活用している村がある。ヘルスポストがCGDESを通じた啓発活動などを実施して、人々の健康を守るための活動が実現している。住民集会在活動の軸であるCGDESは多くの可能性を秘めているといえる。

(5) その他の負のインパクト

本プロジェクトの活動が原因となる負のインパクトは、中間レビュー調査時点で特に観察されていない。

4-1-5 持続性

中間レビュー調査時点で、プロジェクトの成果が今後継続され定着していく可能性は中程度といえる。

(1) 政策面・制度的側面

政策・制度面での持続性は高い。

「4-1-1 妥当性」の項目でも述べているとおり、「教育及び研修セクタープログラム（PSEF 2014～2024）」では、地方分権化に伴うCGDESの役割や能力強化、権限の強化を図ること、そして州・県・コミューンそれぞれの教育行政レベルの能力強化を図ることがめざされている。プロジェクトがめざすCGDES活動モニタリングの制度化については、プロジェクト終了までに達成される見込みであることから、それが実現されることでCGDES活動を包括的に支援するための政策が構築されることとなる。したがって、政策面での持続性は担保されているが、プロジェクト終了までモニタリングシステムの確実な制度化が期待される。

(2) 組織・財政面

財政面での持続性は高いが、CGDES/CGDES連合のより安定した体制構築が期待される。

CGDES モニタリング費用は、既にプロジェクトの成果として国家予算への計上が実現した。現在、プロジェクト支援により、中央レベルのモニタリング機会である CGDES 経験共有セミナーの開催費用も国家予算に計上されるよう取り組んでおり、これが実現すれば、モニタリング活動にかかるすべての費用を国が支出することになる。

CGDES 連合については、地方自治体との連携が重要である。連合の予算は各 CGDES からの拠出と市町村からの支援により賄われているが、連合によっては市町村が協力的でないケースも見受けられる。モニタリングに必要な年 3 回の連合総会の開催は CGDES からの拠出金でカバーできるようなのであるが、その他の CGDES 支援のための活動は限られる。実施中のフォーラム・アプローチでは、CGDES 連合と地方自治体の連絡協議会の設置に取り組んでいるため、このような体制が広がり、連合活動が安定することが期待される。

CGDES は保護者からの分担金により成り立っている。強制的な会費ではないため、経済状況によって動員金額は CGDES により異なるが、以前に比べて、保護者の学校に対する意識が格段に向上し、協力的であることが聞き取り調査で確認された。しかしながら、補助金供与のパイロット地域では、補助金が供与されたことにより、保護者が分担金を払わないという問題も発生している。補助金は住民参加により機能する CGDES にのみ供与される旨説明して住民からの分担金の支払いを促したという意見が聞かれた。今後、補助金供与の際には、このような補助金供与による負の影響を最小限に抑えるように、CGDES に対して質の高い研修を確実に実施するなどの留意が必要である。

なお、CGDES への補助金に関しては、GPE/AFD コモンファンド基礎教育支援プロジェクトによる支援が 5 州 2,800 校を対象に供与されることが決まり、2014 年度より 4 年間補助金が対象校に供与される。これらの補助金が適切に活用・管理されるようにするため、プロジェクトの成果を活用して、CGDES 調整部が研修等を実施する予定である。補助金供与が成果を上げるためには、供与の前に適切な研修等が必要であり、GPE/AFD コモンファンドによる資金協力と JICA 技術協力の有効な連携が期待される。

(3) 技術面

技術面での持続性は中程度であり、モニタリングに係る技術移転の加速と、継続性を踏まえた質のミニマム・パッケージのモデル開発が期待される。

CGDES 活動モニタリングに係る各種セミナー・会議の開催については、これまでの CGDES 調整部との合同モニタリングにより技術移転が確実に実施されてきた。一方で、CGDES 活動のデータの収集・分析方法についてはまだ十分な技術移転がされているとはいえ、カウンターパート側からも、この点の能力向上を望んでいることが確認された。さらに、調整部の年間活動計画策定能力及びその評価に係る能力が不足しているとの自己評価をしている。

その他の CGDES 連合及び学校レベルの CGDES に関しては、これまでのフェーズ 1、フェーズ 2 の成果もあり、活動は比較的安定しているが、異動などによる新任者への適切な研修実施を関係者が確実に実施することが望ましい。

質のミニマム・パッケージのパイロットサイトからは、ドリル学習のファシリテータの継続性の問題が指摘された。現在はパイロット段階であることから、今後の活動展開においては、こういった継続性の問題も考慮しつつ、モデル開発をすることが重要となる。

4-2 効果発現の阻害要因

4-2-1 効果発現に貢献した要因

(1) 徹底した研修の実施

各種研修は、シミュレーション手法という、実際の活動を想定したロールプレイを研修受講者が自ら演ずることで、効果的な技術移転に成功している。識字率の低いニジェールにおいて、住民への知識伝達が容易ではないため、こうした研修手法は大変効果的であった。さらに、カスケード方式によるすべてのレベルへの研修、特に住民レベルまで徹底されたことも、効果発現に貢献している。

(2) 適切なモニタリングと成果の発信

補助金供与導入に伴う「リソース管理・運営」活動では、適切なモニタリングとその結果を広く公表することで、その成果が認められ、他ドナーによる補助金供与支援において、プロジェクトが開発した研修ツールが活用されるに至った。

(3) キーパーソンの本邦研修への参加

本邦研修参加を契機に、カウンターパートのプロジェクトに対する理解度が増した。CGDES モニタリング費用が国家予算に計上された背景には、本邦研修に参加した事務次官の強いバックアップがあったことで実現しており、タイミングよくキーパーソンを本邦研修に招聘したことが効果の発現に寄与している。

4-2-2 効果発現を阻害した要因

(1) 技術移転の確認

CGDES 調整部の能力強化に関し、調整部が本来担うべき学校活動計画総括表の集計・分析作業をプロジェクト事務所側が実施していたという点が確認された。この作業の技術移転については既に議論され、活動が開始されたところである。調整部が担うべき業務のなかで、技術移転が必要なものを早い段階で話し合い、合意されてなかったことが、技術移転の遅れにつながった。

4-3 結論

全体としてプロジェクトの各コンポーネントの達成度は高く、プロジェクト目標達成の見込みも高いと判断される。

評価5項目に関し、妥当性、有効性については高い。効率性についても限られた投入で、必要な活動を担保するためのさまざまな工夫がなされ、比較的高い効果が発現していることが確認された。インパクトについては、特に質のミニマム・パッケージによる上位目標達成見込みが確認された。他方、持続性については政策・組織面では比較的高いと判断されるものの、持続性の確保をより確実なものにするためには特に財政面、技術面に関してニジェール側への確実な技術移転と、CGDES と地方自治体との連携強化の必要性が確認された。

なお、「有効性」の項目で述べているとおり、今後のプロジェクトの方向性をより明確にするためにも、成果の整理と指標の修正及びこれに伴う活動の整理による PDM の改訂が必要である。

第5章 提言と教訓

5-1 提言

(1) CGDES 調整部の能力強化・技術移転の加速（初等教育省、プロジェクトに対して）

情報集計や統計、分析能力に関する能力強化に加え、将来の調整部に関連する活動や予算等に関する計画策定能力、実施、評価に関する能力を強化する必要がある。これらの能力強化を行うために、今後、半年以内に技術移転計画を策定、実施する必要がある。

(2) CGDES モニタリングシステムの強化及び持続性確保（初等教育省、プロジェクトに対して）

CGDES モニタリングシステムは、既に CGDES 連合などの制度化等により住民レベルから州レベルまでは機能していることが確認された。今後は、州レベルでの取り組みを中央の CGDES 調整部が管理・監督しつつ、全国の CGDES 活動を総合的に評価し、今後の方向性・戦略を策定しつつ、具体的活動の計画立案、実施につなげていく必要がある。そうした観点では、上記(1)の CGDES 調整部の能力強化を促進することが重要である。CGDES 調整部が主体的にモニタリングシステムの強化を図ることで、持続的なモニタリングシステムを確立することが可能となる。したがって、まずは、プロジェクト活動を通じて現行のモニタリングシステムを CGDES 調整部とともに評価し、同評価に基づき具体的なモニタリング体制強化策を立案する。同強化策の実施を通じてモニタリングシステムの改善を図り、最終的にプロジェクト期間中に公式なモニタリング体制として承認されるようにすることが肝要である。

また、CGDES 活動の中長期的な持続性確保の観点から教員養成課程へ CGDES モジュールが導入されることが重要であり、教員養成課程へ着実に導入されるように、そのためのモニタリング費用を CGDES 調整部にて措置する必要がある。

(3) CGDES 連合と地方自治体の連携強化（初等教育省、プロジェクトに対して）

地方分権化政策は、ニジェール政府が掲げる重要な政策であり、CGDES 活動は同政策に掲げられた目標の具現化に貢献している。この CGDES 活動より効果的、持続的にするために、州知事をはじめとする地方分権に関連する地方自治体関係者や教育行政関係者などとの連携を更に強化する必要がある。州レベルの教育課題解決のための計画策定、実施を行う枠組みづくりの試みが、タウア州にて持続性を高めた形でフォーラム・アプローチとして開始されている。この枠組みのなかで、各関係者の役割が明確化され教育の質の改善活動が実践されるなど、一定の成果が確認されている。今後も同取り組みを継続し、評価を行いつつ、他州への拡大を見据えて取り組みの成果を実証していく必要がある。

なお、この枠組みの他州への拡大にあたっては、初等教育省が予算を確実に確保することが必須であることから、2016 年度予算計画策定時である 2015 年 3 月までに予算額を確定し予算策定への反映のための準備に取りかかる必要がある。

(4) 各種パイロット活動の全国展開に向けた計画策定（初等教育省、プロジェクト、JICA に対して）

1) 補助金パイロット活動

補助金に係るパイロット活動の結果から、補助金を有効に活用し、学校運営の改善、特

に子どもの学力向上に寄与する活動を促進するためには、CGDES 及び関係者に対する補助金の管理と補助金を有効活用するための能力強化が必須であることが明らかになりつつある。したがって、同能力開発のための研修パッケージが、ニジェール国内での学校に対するあらゆる補助金導入の際の必須パッケージとして初等教育省にて承認され、全国展開を実施する基盤となるよう働きかけを行う必要がある。このためには、確実に教育の質の改善につながるよう補助金モデルの完成度を高めるために、引き続きプロジェクト活動において補助金パイロット活動を継続して実施していくことが求められる。

2) 質のミニマム・パッケージ

これまでのパイロット活動の成果として関係者の聞き取り調査結果から、質のミニマム・パッケージの取り組みによる成果として生徒の算数ドリルを通じた学力向上が確認されている。今後、引き続きパイロット活動の実施を通じて、学習効果の確認を行い、同パイロット活動の拡大に向けて経験を蓄積してモデルを確立する。また、質の向上に向けた効果的な取り組みとして同成果をパイロット地域以外の州の CGDES にも、経験共有セミナーの機会を通じて共有する。なお、算数ドリルのコンテンツについては、関係者の聞き取りから、子どもの学習進度が早く更なるコンテンツの必要性が確認できたことから、JICA とプロジェクトは、速やかに更なるコンテンツの開発に着手する必要がある。

(5) 中等レベルのプロジェクト活動の軌道修正（中等教育省、プロジェクトに対して）

中等教育省では COGES 担当部署が既に存在しているものの体制整備が進んでいないことから、体制整備がなされた後、速やかにパイロット活動を再開し、初等教育での経験を生かし、機能する中等学校の COGES モデル確立に向けたパイロット活動を実施する必要がある。また、プロジェクト終了までには、パイロット活動を完了し、機能する COGES モデルを完成させることが期待される。

(6) プロジェクト関係者間での情報共有等のあり方（初等教育省、プロジェクトに対して）

プロジェクト成果発現の最大化に向けて、今後、更なる関係者間での情報共有が不可欠である。特に CGDES 調整部、プロジェクトスタッフ及び日本人専門家間で中長期的な計画を策定・共有し、予見性の高い計画に沿った活動実施を通じての CGDES 調整部の能力強化、及びプロジェクト活動全体の持続性の向上が期待される。具体的には、策定済みの次期半年間活動計画（2014年8月～2015年2月）に基づき、プロジェクトチームと CGDES 調整部が各活動の実施主体と体制を確認することで協働のための体制を整備していく。また、半年間の活動計画をブレイクダウンした月間活動計画を基に月 1 回のプロジェクトチームと CGDES 調整部の定例会を着実に実施するとともに、プロジェクト専門家は CGDES 調整部をより頻繁に訪問し、テーマに応じた打合せなどを随時行うことが必要である。

また、プロジェクトの基本情報や成果、特に新たな取り組みの情報発信が重要であることから、広報のための映像や媒体を通じた発信ツールの更なる整備が必要である。

(7) PDM の改訂（初等教育省、中等教育省、プロジェクトに対して）

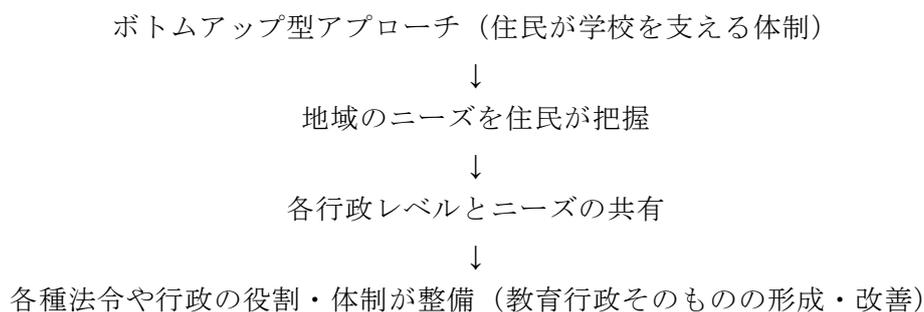
今回の中間レビュー調査で提示する PDM の改訂案をもとに、関係者間で検討を行い、10月末までに合同調整委員会（JCC）を開催のうえ、改訂を行う。また、これに併わせて活動

計画（PO）についても改訂を行う。

5-2 教訓

(1) 地方分権化におけるボトムアップ型アプローチの有効性

フェーズ1及びフェーズ2を含む本プロジェクトでは、地方分権化の下、ボトムアップ型アプローチにより住民が学校を支える体制づくり、地域のニーズを住民が自ら把握する能力の強化を行った。その住民らに把握されたニーズを、各行政レベルと共有する仕組みをつくることで、それらのニーズに対応するための行政や教育省の役割体制が整備されてきたといえる。



地方分権化を進めようとしている国のうち、必ずしも教育行政の体制や能力が十分に整備されていない国や地域において、このような形でのボトムアップ型アプローチは有効である。

(2) 近隣諸国との経験共有によるネットワーク構築の重要性

西アフリカの地方分権化の動きのなかで、各国で学校運営活動が実施されており、経験共有のための視察がこれまでも実施されてきた。他国の試みや成果を知ることの影響は大きく、互いの経験を共有することでポジティブな競争心が生まれ、プロジェクトに対するオーナーシップの醸成にもつながっている。

(3) 識字率を踏まえた効果的な知識伝達

各種研修実施において、受講者参加型のロールプレイ（寸劇）が果たす役割は大きく、知識伝達に大変効果的である。特に大人の非識字率の高いニジェールにおいて、この手法により、住民レベルまでの包括的な研修を実現させた。識字率の低い国や地域などでの効果的な研修方法として参考になると思われる。

(4) 子どもの学力向上への取り組みと関係者への情報共有

質のミニマム・パッケージでのパイロット活動の取り組みから、補習による学習時間の確保や補助教材（算数ドリル）の導入により子どもの学力向上が確認された。これは、指導する教員（指導者）へのファシリテータ研修の効果もあるが、何より副教材での学習を通じて子どもが自ら学ぶことの楽しさや、学びを通じて得る達成感が大きな要因と推察される。また、この取り組みの開始時に実施されるプレテストにより明らかになる子どもの学力に関する深刻な現状を保護者や CGDES 関係者と共有することで、教育の質（子どもの学力）の向

上の必要性から住民のニーズが高まり、結果としてそのニーズに応えるべく CGDES 活動として実施されていることから、子どもの学力に関する情報共有は極めて重要である。

さらに、補助教材による子どもへの指導を通じて、子どもの学びの過程を丁寧に観察することで教員自身が子どもへの指導力を向上させる機会となっていることも特筆すべきである。副教材の活用を通じて子どもの学力のみならず教員の指導力向上に寄与している取り組み事例は、教員研修を通じて教員の指導力向上をめざしてきた他の JICA 基礎教育案件とは異なるアプローチであり、新たな可能性を提示するものである。

5-3 PDM 改訂

「4-1-2 有効性」の項目に記述のとおり、成果を2つのコンポーネントに整理し、成果とプロジェクト目標の指標を修正する。

主な変更は以下のとおり（活動を含む詳細内容は、付属資料9のPDM改訂案を参照）。

① 成果

変更前	改訂案
成果1：教育開発（教育のアクセス及び質）に貢献するCGDESの活動が継続して実施される制度が確立される	変更なし
成果2：パイロット実施対象地域において、リソース管理・運営のためのCGDESの役割と能力が強化される	成果2：CGDES活動を通じた教育のアクセス及び質の改善のために、次のモデルが開発される。 2-1. 持続するフォーラム・アプローチモデル 2-2. 質のミニマム・パッケージ 2-3. リソース管理・運営モデル 2-4. 中等学校の機能するCOGESモデル
成果3：教育行政分権化において、CGDESを生かした関連政策が策定され、実施される	削除（成果の1へ統合）

上記に伴い、成果1には、CGDESモニタリング能力強化及び教員養成課程へのCGDESモジュールの導入に係る活動を整理する。また、成果2には、4つのモデル開発に係るパイロット活動の実施として整理する。

② 成果の指標

変更前	改訂案
成果1： 1. 州レベルで開催されるフォーラムに参加した95%以上のCOGES連合が、フォーラム後に少なくとも1回以上の連合総会を開催する 2. 80%以上のCOGESが学校改善計画を教育の質の改善を重視した活動（学習達成度の向上に効果ある補習授業等）を含むものに改訂する	成果1： 1. CGDESモニタリングシステムが構築され、公式化される 2. CGDESモニタリングのための各会議（経験共有セミナー（年2回）、州CGDES監督官会議（規定回数）、CGDES連合総会（年3回））が全国で80%以上開催される

<p>3. 中央、州、県で実施される行政官による連絡会議の回数が増加する</p> <p>4. COGES による活動のモニタリング制度が初等教育省に正式に承認される</p> <p>5. 90%以上の中等学校で匿名方式の選挙等民主的な方法で選出したメンバーで構成される COGES が設立される</p> <p>6. 80%以上の中学校で、1 つ以上の学校活動計画が実施される</p>	<p>3. CGDES 年間活動総括表の提出率が 90%以上維持される</p> <p>4. CGDES 調整部の年間活動計画が策定され、それに沿った国家予算が配分される</p> <p>5. 7 割以上の教員養成校において CGDES モジュールが導入される</p>
<p>成果 2 :</p> <p>パイロット実施対象地域において、</p> <p>1. リソース管理・運営の研修を受けた COGES の割合が増加する</p> <p>2. COGES により管理・運営されたリソースの割合が増加する</p> <p>3. 学校改善計画における教育の質の改善を重視した活動割合が増加する</p>	<p>成果 2 :</p> <p>1. 対象地域の 8 割以上のコミュニティにおいてフォーラム参加のための予算が確保される</p> <p>2. 対象校の 9 割以上で、子どもの算数ドリルの結果が向上する（各学校において学年ごとに集計）</p> <p>3. リソース管理・運営モデルが開発され、補助金等が配賦される CGDES の 80%以上で同モデルが活用される</p> <p>4-1. 対象校の 9 割の中等学校で民主的な選挙でメンバーが選出される</p> <p>4-2. 対象校の 8 割の中学校で学校活動計画が実施される</p>
<p>成果 3 :</p> <p>1. COGES に関連した政策が作成される</p> <p>2. COGES に関連した政策を反映した教育省の年間計画が作成される</p> <p>3. リソース管理・運営における COGES の機能強化を含む教育省の政策ないしは計画の有無</p>	<p>削除（成果の 1、2 へ統合）</p>

③ プロジェクト目標の指標

変更前	改訂案
<p>1. CGDES が CGDES 連合及び初等教育省に学校改善計画総括表を提出する割合が増加する</p>	<p>1. (アクセスの指標) 就学児童数に見合った全国の小学校の教室数が確保される</p>
<p>2. パイロット対象地域において CGDES が管理・運営する資源の割合が増加する</p>	<p>2. (質の指標) CGDES 活動による補習時間（補習授業及び夜間学習）について年間 150 時間以上を維持する</p>
	<p>3. (役割) コミュニティから支援を受けている CGDES 連合の割合（80%以上）</p>

変更前指標 1. は、CGDES モニタリング強化能力の指標として成果 1 へ整理する。変更前指標 2. は成果 2 のモデル開発の 1 つのコンポーネントに係るものであるため、成果 2 へ整理する。改訂案は、プロジェクト目標である「ニジェールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDES の学校運営の役割と能力が強化される」の達成度を適切に測るために、教育のアクセスと質のそれぞれの成果及び CGDES の役割として発現すべき内容に修正した。

④ 上位目標の指標

変更前	改訂案
指標 2：学習到達度の改善	指標 2：初等課程を終えた児童の割合

指標 2 に関して、初等修了試験が廃止され、2013 年度より年 3 回の期末試験結果の平均点（5 点以上/10 点満点中）により初等課程を終える制度に変更となった。したがって、学習到達度の改善を測定する指標の代替指標案として、この制度による初等課程を終えた児童の割合を採用することで対応が可能と考えられる。他方、統計の精度や中等学校及び職業訓練学校の受入れ態勢の問題から、合格の基準点をその都度調整するなどの対応も確認されているため、指標の達成状況確認の際にはこの点を考慮する必要がある。さらに、現在の指標である初等修了試験合格率と単純比較することは適切でない点にも留意する。

5-4 その他〔中等教育省からの合同調整委員会（JCC）メンバー〕

プロジェクト開始以降、省庁再編により中等教育省が誕生したことから、三者（初等教育省、中等教育省、JICA）は、中等教育省の COGES 推進室の室長を新たに合同調整委員会のメンバーとすることを合意した。

付 属 資 料

1. 調査日程
2. 主要面談者リスト
3. 評価グリッド
4. 質問票
5. プロジェクト投入実績
6. プロジェクト活動実績
7. PDM Version 1
8. PO Version 1
9. PDM 改訂案
10. 面談記録
11. 協議議事録（仏文）

1. 調査日程

日程案				
月日	曜日		活動	場所
7月28日	月		評価分析団員・通訳団員ニジェール着	
7月29日	火	終日	8:00 プロジェクト事務所訪問・スケジュール打ち合わせ 9:00 JICAニジェール支所表敬 10:00 CGDES調整部訪問(調整部員インタビュー) 14:30 プロジェクト事務所(プロジェクト専門家・スタッフインタビュー等)	ニアメ
7月30日	水	終日	9:00 ニアメ州教育事務所表敬 9:15 ニアメ州CGDES監督官インタビュー 10:20 視学官インタビュー(ニアメV視学官) 11:30 ニアメ市内学校訪問(CGDES委員インタビュー) 15:00 CGDES連合インタビュー(ニアメ内)	ニアメ
7月31日	木	終日	質のミニマムパッケージ対象地域関係者インタビュー 9:00 視学官インタビュー(カルマ) 10:30 指導主事インタビュー(フランコ・アラブカルマ) 11:30 CGDES連合代表インタビュー(カルマ) 14:30 質のミニマム実施CGDESインタビュー(カルマ内学校)	ニアメ
8月1日	金	終日	補助金対象地域関係者インタビュー 9:00 県CGDES監督官インタビュー(サイ県) 10:00 視学官インタビュー(トロディ) 11:00 CGDES連合インタビュー(トロディ) 14:30 補助金対象CGDESインタビュー(トロディ内学校)	ニアメ
8月2日	土		資料整理	ニアメ
8月3日	日		資料整理	ニアメ
8月4日	月	午前	地方分権化政策調査 ・内務・国家安全・分権化省 (Ministère de l'Intérieur, de la Sécurité Publique et de la Décentralisation)「地方分権化局(Direction de la Décentralisation)」局長インタビュー	ニアメ
		夕刻	15:35 松崎団員ニアメ着 到着後、団内協議	ニアメ
8月5日	火	午前	8:30 JICAニジェール支所表敬 9:30 教育省事務次官表敬・協議 10:30 教育省計画局長表敬 11:00 教育省CGDES調整部表敬・協議 12:30 プロジェクト専門家との協議	ニアメ
		午後	14:00 現地視察(ニアメ内学校):活動視察、CGDES委員、保護者、教員、コミュニティメンバーインタビュー等	ニアメ
8月6日	水	終日(夕刻まで)	ドナー関係との面会 (AFD、世銀、UNICEF、Coopération Suisse)	ニアメ
		夕刻	15:35 橋団長到着 到着後、団内協議	ニアメ
8月7日	木	午前	『CGDES/CGDES連合経験共有セミナー』視察 タウア州教育事務所長、CGDES監督官インタビュー	ニアメ
		午後	団内協議	
8月8日	金	午前	8:00~11:00 合同調整委員会(中間評価内容の発表)	ニアメ
		午後	11:00~13:00 『コートジボワール視察結果報告発表会』視察	ニアメ
		午後	ミニッツドラフト手交	ニアメ
8月9日	土	午前	『コートジボワール視察団とタウア州のフォーラム・アプローチに係る意見交換会』視察	ニアメ
		午後	資料整理	
8月10日	日	終日	資料整理	ニアメ
8月11日	月	終日	10:00 中等教育省大臣面会 午後: ミニッツドラフト協議	ニアメ
8月12日	火	終日	9:00 ミニッツ合意(事務次官、計画局長、CGDES調整部長・課長) ミニッツ合意(中等教育省 事務次官) 15:00 プレスリリース 16:00 JICAニジェール支所報告	ニアメ
8月13日	水	終日	午前: ニアメ市第24中等学校視察 ニアメ市第35中等学校視察 調査団、ニアメ発	ニアメ

2. 主要面談者リスト

(1) 初等教育・識字・国語推進・市民教育省

氏名	役職
Dr. Abouzeidi DANMAZA	次官
Mr. Abdoulaye SOULEY	計画局プロジェクト担当
Mr. Tahirou Elhadji MOUSSA	CGDES 調整部 部長
Mr. Sandi MAHAMADOU	CGDES 調整部パートナー調整課 課長
Mr. Rabiou SANI	CGDES 調整部パートナー調整課
Mr. Oumarou ROHO	CGDES 調整部研修イノベーション課 課長
Ms. Halidou MAIMOUNA	CGDES 調整部研修イノベーション課
Mr. Abdoli AHAYA	CGDES 調整部評価モニタリング課 課長
Mr. Yayaha HAROUNA	CGDES 調整部評価モニタリング課

(2) 中等教育省

Mr. Elhadji BOUBE Mamane	次官
--------------------------	----

(3) 内務国家安全分権化省

Mr. Ousséni MAHAMANE Rabiou	地方分権化局 局長
-----------------------------	-----------

(4) ニアメ市教育事務所

Mr. Oumarou SEIDOU	就学課課長（教育事務所長代理）
Mr. Aboudou HAMIDOU	CGDES 監督官

(5) ニアメ市2区 CGDES 連合

Mr. Moussa SALEY Hima	会長（赤十字 Boukoki 小学校）
Mr. Wissilimane RAMSRANTNE	事務次官
Mr. Yacouba Djibo	副事務次官
Mr. Ousseini MAIGUIZO	秘書
Mr. Harouna KONI	パートナー連携調整担当
Mr. Halimatou ADAMOU	就学促進担当
Mr. Katoumi AMADOU	活動モニタリング担当
Mr. Abdou ALFARI	教育の質向上担当
Mr. Mounkaila BOUBACAR	問題解決/予防担当
Mr. Ousmane COUMAILA	アドバイザー（地域の伝統的リーダー）
Mr. Garba ABDOU	アドバイザー（区の就学担当）

(6) ニアメ5区視学官事務所

Mr. Moutari ABRCHI	視学官
Mr. Ali Hassan	CGDES 監督官（旧 Observateur Relais）

(7) ニアメ市5区 BangaBana 1 小学校

Mr. Abdera HAMIDOU	校長
Mr. Hassane HAMIDOU	CGDES 会長
Mr. Seydou CARBA	CGDES 副会長

Mr. Tali ABOUBACAR	CGDES 秘書
Ms. Ousseina GAOH	会計役
Mr. Maimouna MOUNKAILA	保護者代表
Ms. Aichatou DIALLO	ニアメ 5 区 CGDES 監督官

(8) ティラベリ州

Mr. Rissa SEIDI	カルマ県視学官
Mr. Moussa Sounna HAMADOU	カルマ市フランコ・アラブ学校教育主事
Mr. Abdoulaye HAMIDOU	カルマ市 CGDES 連合会長
Mr. Hamadou AMADOU	カルマ市内小学校校長 (CGDES 代表)
Mr Moctar DJIBO	同上 CGDES 会長
Mr. Issoufou AMADOU	サイ県 CGDES 監督官
Mr. Yaye Amadou HOSSANE	トロディ県視学官
Mr. Boubakar Kindo	トロディ県内 CGDES 連合会長
Mr. Salou MAMA	同上 CGDES 連合秘書
Mr. Soumaila ZOKOU	トロディ県内小学校校長 (CGDES 代表)
Mr. Soumana BOUKARI	同上 CGDES 会長

(9) タウア州

Mr. Mohamed Moussa	州教育事務所 所長
Mr. Fakaria SEYBOUE	州 CGDES 監督官

(10) 中等学校

ニアメ市第 24 中等学校	校長、教員、CGDES 会長
ニアメ市第 35 中等学校	校長、教員、CGDES 会長、副会長

(11) ドナー

Ms. Cynthia Mela	フランス開発庁 担当
Ms. Trapsida Ramatou	ユニセフ 担当
Mr. Philippe Fayet	スイス協力庁 現地事務所長
Mr. Stefano Berti	スイス協力庁 担当

(12) プロジェクト事務所

原 雅裕	チーフアドバイザー/教育アドバイザー
影山 晃子	CGDES 能力強化
羽田野 絹恵	CGDES モニタリング強化/業務調整
岩田 明子	業務調整/研修運営
Mr. Djibo HAMZA	コンサルタント (ONEN)
Mr. Yawalé Moussa	コンサルタント (ONEN)
Ms. Awa SEYMI	業務調整アシスタント

3. 評価グリッド

評価項目	評価設問		判断基準・方法	必要なデータ・情報	情報源	収集方法	
	大項目	小項目					
実績の検証	投入実績	(日本側) 投入は計画どおりか。	(計画) ・長期専門家4名(COGES モニタリング、COGES 能力強化、COGES 普及(中等分野)、業務調整)、短期専門家(チーフアドバイザー/教育アドバイザー)及び教育評価等必要に応じ ・車両、事務用機器 ・活動経費 ・本邦・第三国研修費	投入計画と実績	・プロジェクト活動報告書 ・事前評価報告書	資料レビュー 聞き取り	
		(セネガル側) 投入は計画どおりか。	(計画) ・カウンターパート人件費 ・プロジェクト執務室及び執務室維持経費 ・モニタリング費用				
実績の検証	成果の達成度	成果1：教育開発(教育のアクセス及び質)に貢献するCGDESの活動が継続して実施される制度が確立される	【指標1】州レベルで開催されるフォーラムに参加した95%以上のCGDESES 連合が、フォーラム後に少なくとも1度以上の連合総会を開催する。	フォーラム実施後の連合総会開催実績	・プロジェクト報告書 ・連合総会開催報告書	資料レビュー 聞き取り ドキュメント 入手	
			【指標2】80%以上のCGDESES が学校改善計画を教育の質の改善を重視した活動(学習達成度の向上に効果がある補修授業等)を含むものに改訂する。	学校活動計画年間総括表 集計/分析結果	・プロジェクト報告書 ・CGDES 監督官		
			【指標3】中央、州、県で実施される行政官による連絡会議の回数が増加する。	連絡会議開催議事録	・プロジェクト報告書 ・教育省、CGDES 監督官		
			CGDES 活動のモニタリングシステムが構築される。	構築されたモニタリングシステム	・プロジェクト報告書 ・教育省		
			【指標4】CGDES 活動のモニタリング制度が初等教育省に正式に承認される。	活動モニタリング制度が正式に承認された記録			
			【指標5】90%以上の中等学校で、匿名方式の選挙等民主的な方法で選出したメンバーで構成されるCGDESS が設立される。	CGDES 設立の記録	・プロジェクト報告書 ・CGDES 監督官		
			【指標6】80%以上の中等学校で、1つ以上の学校活動計画が実施される。	学校活動計画年間総括表 集計/分析結果	・プロジェクト報告書 ・教育省		
			「質のミニマム・パッケージ」が開発され、有効性が実証される。	開発された「質のミニマム・パッケージ」			
			「質のミニマム・パッケージ」パイロット地域において、当該活動を通じてCGDES 活動が活発に機能する。	関係者の意見			
			教員初期研修へのCGDES モジュールが挿入される。	教員初期研修実施機関	・プロジェクト報告書 ・教育省		
			成果2：パイロット実施対象地域において、リソース管理・運営のためのCGDES の役割と能力が強化される	リソース管理・運営の研修モジュールが開発される。	研修モジュール		
				【指標1】パイロット対象地域において、リソース管理・運営の研修を受けたCGDES の割合が増加する。	研修実施報告書 研修モジュール		・プロジェクト報告書 ・研修受講者
				【指標2】パイロット対象地域において、CGDES により管理・運営されたリソースの割合が増加する。	リソース管理・運営に係る報告書		・プロジェクト報告書 ・CGDES/CGDES 連合活動報告
				【指標3】パイロット対象地域において、学校改善計画における教育の質の改善を重視した活動割合が増加する。	学校活動計画年間総括表 集計/分析結果		
				上記【指標3】の結果として、生徒の学力向上が認められる。	テスト結果		・プロジェクト報告書 ・JICA 研究所中間報告資料
補助金導入のインパクト評価が実施される。	インパクト評価実施実績						
パイロット対象地域において、リソース管理・運営能力強化により、CGDES が活発に機能する。	関係者の意見						
リソース管理・運営に係るCGDES の役割に関する教育省への提言がされる。	提言実施までのプロセスの確認	・プロジェクト報告書 ・教育省					
成果3：教育行政分権化において、CGDES を生かした関連政策が策定され、実施される	【指標1】CGDES に関連した政策が作成される。	作成された政策の有無	資料レビュー 聞き取り				
	【指標2】CGDES に関連した政策を反映した教育省の年間計画が作成される。	作成された年間計画の有無					
	【指標3】リソース管理・運営におけるCGDES の機能強化を含む教育省の政策ないしは計画の有無。	政策及び計画の有無					
	ドナー・パートナー会合でプロジェクト活動結果が共有される。その成果。	会合参加記録、その成果					
プロジェクト目標の達成度	プロ目：ニジュールの教育開発(教育のアクセス及び質)に向けて、CGDES の学校運営の役割と能力が強化される。	【指標1】CGDES がCGDES 連合及び初等教育省に学校改善計画の年間レポートを提出する割合が増加する。	学校改善計画年間レポートの提出率集計結果	・プロジェクト報告書 ・CGDES 監督官	資料レビュー 聞き取り ドキュメント 入手		
		【指標2】パイロット対象地域において、CGDES が管理・運営する資源の割合が増加する。	リソース管理・運営活動に係る報告書				
上位目標達成の見込み	上位目標「住民参加型の学校運営を通じて基礎教育の質をアクセスが向上する」の達成見込み度。	【指標1】教育指標(就学率、留年率、中退率、終了率など)の向上	教育指標	・教育省統計	資料レビュー 聞き取り ドキュメント 入手		

評価項目	評価設問		判断基準・方法	必要なデータ・情報	情報源	収集方法	
	大項目	小項目					
実施プロセスの検証	活動の進捗・実施状況	活動は計画どおりに実施されたか	活動計画と実施状況の確認	活動実施状況報告	・プロジェクト報告書 ・C/P、JICA 専門家	資料レビュー 聞き取り	
		十分に実施されていない活動や効果が十分でない活動はあるか、その要因は何か	活動実施状況の確認	十分でない活動・効果の確認、その要因			
		活動の実施過程で生じた問題はあるか、その要因は何か	活動実施状況と生じた問題の確認	生じた問題とその要因			
	プロジェクト運営管理	モニタリングと実施状況	モニタリングはどのように実施されたか モニタリング結果はどのようにフィードバックされたか、問題への対応は十分だったか	プロジェクト関係会議の実施状況など	プロジェクト関係会議の実施状況など		・プロジェクト報告書 ・C/P、JICA 専門家
		プロジェクト内のコミュニケーションは十分であったか	専門家とC/Pのコミュニケーション状況	プロジェクト活動共有のための会議開催記録及び日常のコミュニケーションなど	プロジェクト活動共有のための会議開催記録及び日常のコミュニケーションなど		・プロジェクト報告書 ・C/P、JICA 専門家
		本部・在外事務所のプロジェクト支援は適切であったか	本部・在外事務所とプロジェクトのコミュニケーション、支援状況	会議頻度やコミュニケーション方法、問題の有無・問題に対する対処法、支援内容	会議頻度やコミュニケーション方法、問題の有無・問題に対する対処法、支援内容		・プロジェクト活動報告書 ・C/P、JICA 専門家、本部、在外事務所
	C/P のオーナーシップ	C/P の配置は適切であったか	適切な能力と人数のC/Pが配置されたか	配置表、配置期間 活動内容と成果	配置表、配置期間 活動内容と成果		・プロジェクト報告書 ・C/P、JICA 専門家
		C/P のプロジェクト活動参加の度合い	プロジェクト活動にC/Pは積極的に参加、活動しているか	活動実績とC/Pの参加度	活動実績とC/Pの参加度		
		実施機関のプロジェクト運営費の負担の度合い	研修、会議費などの負担の度合い	プロジェクト経費負担割合	プロジェクト経費負担割合		
		本邦研修の成果	本邦研修の参加者5名は、研修成果及び今後その成果をどのようにプロジェクトに反映させていくか	参加者及び関係者の意見	参加者及び関係者の意見		
他ドナーとの連携	他ドナーとの連携は効果的に行われたか	他ドナーとの連携状況、連携活動による効果	連携活動の状況確認	連携活動の状況確認	・プロジェクト報告書 ・C/P、JICA 専門家、関連ドナー		
妥当性	必要性	プロジェクト目標、上位目標は現在のニジェール国の開発政策及びターゲットグループのニーズに合致しているか。	整合性の確認	国家教育政策	・国家教育政策 ・詳細策定調査報告書	資料レビュー	
		プロジェクトはニジェールの地方分権化政策を支援するものであるか。		地方分権化政策	内務・国家安全・分権化省 地方分権化局、地方分権化自治体局	聞き取り	
	日本側の優先度	日本の援助政策、JICA 国別事業実施計画との整合性はあるか。		日本の援助政策 JICA 国別事業実施計画	日本の援助政策 JICA 国別事業実施計画 ・詳細策定調査報告書	資料レビュー	
	手段の適切性	質のミニマム・パッケージ及びフォーラム・アプローチはCOGES 機能強化を通じたニジェールの教育課題に貢献する手法として適切か。	手段の適切性確認	関係者の意見	関係者の意見	・詳細策定調査報告書 ・プロジェクト報告書 ・C/P、JICA 専門家	資料レビュー 聞き取り
		補助金を導入した手法はリソース運営・管理能力強化に効果的なアプローチか。	関係者の意見	聞き取り	聞き取り		
		研修に取り入れられているシミュレーション手法は効果的か。	各活動のターゲットグループ選定理由	選定理由	選定理由		
ターゲットグループの選定は適切であったか。(対象、規模、男女比等)		波及効果の有無	波及効果の有無	波及効果の有無			
事前評価以降、プロジェクトをとりまく環境(政策、経済、社会等)の変化はないか。	環境変化の有無	環境変化の有無	環境変化の有無	環境変化の有無			
有効性	プロジェクト目標の達成	プロジェクト目標の達成見込みはあるか。 プロジェクト目標の指標設定は適切か。	因果関係の確認	指標の検証	(実績の検証結果)		
	プロジェクト目標と成果の因果関係	成果はプロジェクト目標を達成されるために十分か。 成果の指標設定は適切か。 プロジェクト目標に至るまでの外部条件は現時点においても正しいか。外部条件が満たされる可能性は高いか。	成果が達成されればプロジェクト目標が達成されるという理論に無理はなかったか。	阻害・貢献要因 外部条件の影響の確認	阻害・貢献要因	・プロジェクト報告書 ・C/P、JICA 専門家 資料レビュー 聞き取り	
	成果の産出状況	成果の達成度は適切か。 成果達成の阻害・貢献要因は何か。				(実績の検証結果)	
効率性	成果と活動の因果関係	活動は成果を達成させるために十分であったか。	因果関係の確認	活動実績、関係者意見	・プロジェクト報告書 ・C/P、JICA 専門家	資料レビュー 聞き取り	
		活動から成果に至るまでの外部条件は現時点においても正しいか。外部条件による影響はないか。	【外部条件】 1. 多数のC/Pが短期間において異動しない 2. 経済、治安状況が著しく悪化しない (詳細策定時のもの)	外部条件の影響の確認 影響の確認			
	投入の実施状況	専門家派遣、供与機材や予算手当がタイミングよく実施されたか。	投入計画に対する実績、活動、成果達成との整合性	投入コスト、関係者意見			投入コスト、関係者意見
	コスト	本邦研修の参加はプロジェクト目標達成に効果的に貢献しているか。 ローカル NGO への業務委託はコスト効率的か。 他の JICA スキームとの連携や他の援助機関との協力による成果があるか。	本邦研修にかかるコスト効率性 業務委託にかかるコスト効率性	投入実績と成果の理論性			投入実績と成果の理論性

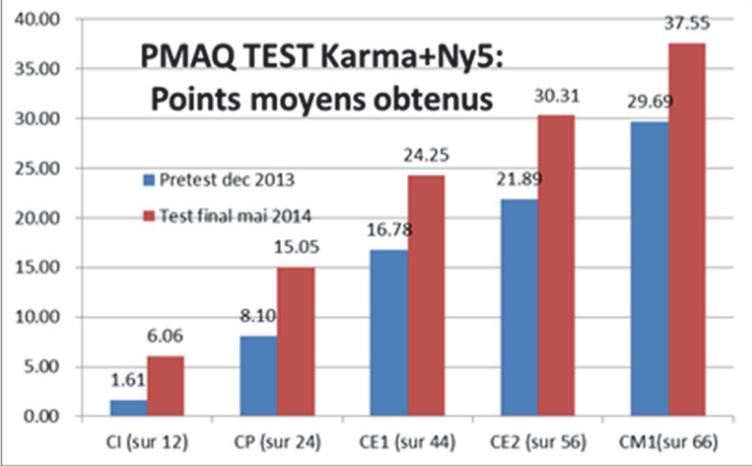
評価項目	評価設問		判断基準・方法	必要なデータ・情報	情報源	収集方法
	大項目	小項目				
インパクト (予測)	上位目標の達成予測	上位目標は、プロジェクトの効果として発現が見込まれるか。	現時点での指標の推移及び関係者の意見	指標、関係者の意見	・教育省統計 ・C/P、JICA 専門家	資料レビュー 聞き取り ドキュメント 入手
		上位目標を達成するための方策が考えられているか。	プロジェクト・アプローチの確認 関係者の意見	活動計画 関係者の意見	・詳細策定調査報告書 ・プロジェクト報告書 ・C/P、JICA 専門家	資料レビュー 聞き取り
		上位目標達成を阻害する要因はあるか。	関係者の意見	関係者の意見	想定される阻害要因	・C/P、JICA 専門家
	上位目標とプロジェクト目標の因果関係	上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか。	上位目標とプロジェクト目標の理論性	関係者の意見	・詳細策定調査報告書 ・プロジェクト報告書 ・C/P、JICA 専門家	
		プロジェクト目標から上位目標に至るまでの外部条件は現時点においても正しいか。外部条件が満たされる可能性は高いか。	【外部条件】 CGDES 活動を重要視したニジェールの教育政策が変更しない。	外部条件の影響の確認	・プロジェクト報告書 ・C/P、JICA 専門家	聞き取り
	波及効果	上位目標以外の効果・影響が想定されるか。	正のインパクト	関係者の意見	・プロジェクト報告書 ・C/P、JICA 専門家	資料レビュー 聞き取り
他仏語圏アフリカへの波及効果はあるか。		周辺国に対する技術支援、経験共有の実績				
	マイナスの影響はあるか。それを取り除くための方策は何か。	負のインパクト				
持続性 (見込み)	政策・制度面	CGDES を重要視した教育政策はプロジェクト終了後も継続される予定か。	PSEF 2014-2024	関係者の意見	・C/P、JICA 専門家	聞き取り
		プロジェクト支援により策定されるCGDES 活動に係る政策が継続される見込みはあるか。	プロジェクト支援で策定される政策の確認			
		プロジェクト成果の他地域への普及を支援する取組が担保されているか。	プロジェクトアプローチの確認 関係者の意見			
	組織・財政面	教育省 CGDES 調整部は全国に CGDES 活動を統括するために必要な人員、予算を確保しているか。	年間活動計画、予算計画の確認	年間活動計画 年間予算計画 関係者の意見	・C/P、JICA 専門家	聞き取り
		州教育事務所は州レベルで CGDES 活動を統括するために必要な人員、予算を確保しているか。				
		CGDES/CGDES 連合は活動の継続のための組織力と収入源を有しているか。				
		CGDES はリソース管理・運営活動を継続させるための組織力と収入源を確保しているか。				
		教育省から補助金が制度化される見込みはあるか。関連ドナーによる支援の見込みはあるか。				
		実施機関のプロジェクトに対するオーナーシップは十分に確保されているか。				
	技術面	教育省 CGDES 調整部は、関連政策策定、各種能力強化研修の実施及び CGDES 活動モニタリングに係る能力は十分か。	技術的持続性の確認	関係者意見	・プロジェクト報告書 ・C/P、JICA 専門家	資料レビュー 聞き取り
州教育事務所は教育フォーラムの開催及び CGDES 連合総会、CGDES モニタリングに係る十分な能力を有しているか。						
CGDES はリソース管理・運営活動を継続させるための十分な能力を有しているか。						
質のミニマム・パッケージが展開・継続されるための関係者の能力は確保されているか。						
活動の普及のメカニズムはプロジェクトに取り込まれているか。						
社会・文化・環境面	女性、貧困層、社会的弱者への配慮不足により、持続的効果を妨げる可能性はないか	配慮不足の可能性の有無		・C/P、JICA 専門家	聞き取り	
その他	持続性を阻害するその他の要因はあるか。	持続性阻害要因の有無			聞き取り	

ニジェール国「みんなの学校：住民参加による教育開発プロジェクト」
評価グリッド評価調査結果

1. プロジェクトの実績		
評価項目	判断基準（指標）	結果調査
投入実績		
（日本側） 投入は計画どおりか。	（計画） ・長期専門家4名〔COGES モニタリング、COGES 能力強化、COGES 普及（中等分野）、業務調整〕、短期専門家（チーフアドバイザー/教育アドバイザー及び教育評価等必要に応じ） ・車両、事務用機器 ・活動経費 ・本邦・第三国研修費	・長期専門家延べ5名（COGES モニタリング、COGES 能力強化、業務調整） ・短期専門家2名（チーフアドバイザー/教育アドバイザー、ベースライン調査） ・モニタリング用車両、事務用機器：27,807,000 Fcfa（2014年8月時点）（2013年8月、ティラベリ州及び調整部へ車両の機材供与授与式実施） ・調整部執務室建設、事務家具、コピー機など ・研修実施・マニュアル作成等にかかる費用等活動経費：704,276,804 Fcfa（2014年8月現在） ・本邦研修参加者5名
（ニジェール側） 投入は計画どおりか。	（計画） ・カウンターパート人件費 ・プロジェクト執務室及び執務室維持経費 ・モニタリング費用	・カウンターパート人件費 ・プロジェクト執務室はプロジェクトがニアメ市内に借りている ・モニタリング経費 Fond de contrepartie：52,234,143(Fcfa)、Budget National(Progrmmme)：350,248,000(Fcfa)、(Débloqué)：76,132,700(Fcfa)
成果の達成度		
成果1：教育開発（教育のアクセス及び質）に貢献するCGDESの活動が継続して実施される制度が確立される。	【指標1】州レベルで開催されるフォーラムに参加した95%以上のCGDES連合が、フォーラム後に少なくとも1回以上の連合総会を開催する。	・2014年2月タウア州にてフォーラム開催準備会合、4月にはCGDES連合とコミューンの連携強化のための「コミューン連絡協議会」の設置で合意。「コミューン協議会設置研修」モジュールの開発〔タウア州内の州及び県CGDES監督官（9名）への講師研修用（5月講師研修実施）〕。 ・2014年6月11日「来年度新入学児童における男女格差改善」をテーマとしたタウア州教育フォーラム開催 ・フォーラム翌日、タウア州内44のCGDES連合代表者（各連合2名）及び44コミューンの市長を対象に、CGDES連合とコミューン（市）の連携を通じたコミューン内教育開発のための「コミューン連絡協議会」設置に係る研修を実施。その後、タウア州の全44連合が連合総会を実施した（100%）。 今後の予定は①活動モニタリングのための「州教育フォーラム執行委員会」開催、②同執行委員会によるモニタリング活動、③活動結果のモニタリング及び次回フォーラム準備に係る執行委員会並びに視学会会議開催。このサイクルに沿って、タウア州にて州教育フォーラムを2015年1月、2015年5～6月に実施予定。 また、上記と並行して、コミューンレベルにおいては①「コミューン連絡協議会」設置・コミューンによる当該協議会設置承認文書発出（7月）、②第1回「コミューン連絡協議会」開催（7～8月）、③同協議会によるモニタリング活動、④第2回「コミューン連絡協議会」開催（9～10月：活動・予算計画案協議）予定。 そして最終的にフォーラムモデルの確立をめざす。

<p>【指標2】80%以上の CGDES が学校改善計画を教育の質の改善を重視した活動（学習達成度の向上に効果がある補習授業等）を含むものに改訂する。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2011/2012</th> <th>2012/2013</th> <th>2013/2014</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全国 CGDES 数</td> <td>15,046</td> <td>15,810</td> <td>16,587</td> </tr> <tr> <td>学校活動計画提出率</td> <td>95.3%</td> <td>91.8%</td> <td>94.7%</td> </tr> <tr> <td>学校活動計画総括表回収率</td> <td>88.1%</td> <td>89.2%</td> <td>92.1%</td> </tr> <tr> <td>質の改善に係る分析総括表回収数</td> <td>13,262</td> <td>14,096</td> <td>15,278</td> </tr> <tr> <td>質の改善に係る実施活動数平均</td> <td>5.1</td> <td>5.1</td> <td>5.1</td> </tr> <tr> <td>① 教室建設（実施 CGDES 数/分析総括表数）</td> <td>70.5%(9346/13262)</td> <td>82.12%(11576/14096)</td> <td>81.1%(12387/15278)</td> </tr> <tr> <td>② 補習授業</td> <td>65.7%(7912/12036)</td> <td>71.30%(9531/13366)</td> <td>61.7%(9420/15278)</td> </tr> <tr> <td>③ 夜間学習/チュートリアル</td> <td>48.5%(5835/12036)</td> <td>51.93%(6942/13366)</td> <td>43.5%(6639/15278)</td> </tr> </tbody> </table>		2011/2012	2012/2013	2013/2014	全国 CGDES 数	15,046	15,810	16,587	学校活動計画提出率	95.3%	91.8%	94.7%	学校活動計画総括表回収率	88.1%	89.2%	92.1%	質の改善に係る分析総括表回収数	13,262	14,096	15,278	質の改善に係る実施活動数平均	5.1	5.1	5.1	① 教室建設（実施 CGDES 数/分析総括表数）	70.5%(9346/13262)	82.12%(11576/14096)	81.1%(12387/15278)	② 補習授業	65.7%(7912/12036)	71.30%(9531/13366)	61.7%(9420/15278)	③ 夜間学習/チュートリアル	48.5%(5835/12036)	51.93%(6942/13366)	43.5%(6639/15278)
	2011/2012	2012/2013	2013/2014																																		
全国 CGDES 数	15,046	15,810	16,587																																		
学校活動計画提出率	95.3%	91.8%	94.7%																																		
学校活動計画総括表回収率	88.1%	89.2%	92.1%																																		
質の改善に係る分析総括表回収数	13,262	14,096	15,278																																		
質の改善に係る実施活動数平均	5.1	5.1	5.1																																		
① 教室建設（実施 CGDES 数/分析総括表数）	70.5%(9346/13262)	82.12%(11576/14096)	81.1%(12387/15278)																																		
② 補習授業	65.7%(7912/12036)	71.30%(9531/13366)	61.7%(9420/15278)																																		
③ 夜間学習/チュートリアル	48.5%(5835/12036)	51.93%(6942/13366)	43.5%(6639/15278)																																		
<p>【指標3】中央、州、県で実施される行政官による連絡会議の回数が増加する。</p>	<p>開催実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2012/2013</th> <th>2013/2014</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【中央】経験共有セミナー</td> <td>2回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>【州】視学官会議</td> <td>8回（8州×1回）</td> <td>2回（タウア州のみ2回）</td> </tr> <tr> <td>【州】CGDES 監督官会議</td> <td>25回（全国1回+8州×3回）</td> <td>16回（8州×2回）</td> </tr> </tbody> </table> <p>・2013年3月からの見返り資金拠出再開により、CGDES 監督会議はその後定期的に開催。今後は、CGDES 監督会議及び経験共有セミナーに関しては国家予算に組み込まれたことから安定的な会議開催が見込まれる。他方、CGDES/CGDES 連合活動モニタリング支援に係る視学官会議については、予算化への動きはまだなく、現時点ではプロジェクト支援にとどまっている。</p>		2012/2013	2013/2014	【中央】経験共有セミナー	2回	2回	【州】視学官会議	8回（8州×1回）	2回（タウア州のみ2回）	【州】CGDES 監督官会議	25回（全国1回+8州×3回）	16回（8州×2回）																								
	2012/2013	2013/2014																																			
【中央】経験共有セミナー	2回	2回																																			
【州】視学官会議	8回（8州×1回）	2回（タウア州のみ2回）																																			
【州】CGDES 監督官会議	25回（全国1回+8州×3回）	16回（8州×2回）																																			
<p>CGDES 活動のモニタリングシステムが構築される。</p> <p>【指標4】CGDES 活動のモニタリング制度が初等教育・識字・国語推進・市民教育省（以下、「初等教育省」）に正式に承認される。</p>	<p>【CGDES 活動モニタリング支援】</p> <p><u>CGDES 連合総会モニタリング（CGDES 調整部との合同ミッション）</u></p> <p>・2013年5月（マラディ2連合年間総括総会）、11～12月（ザンデール2連合、マラディ2連合、ドッソ1連合第1回総会）：合計7連合総会モニタリングを実施。</p> <p><u>CGDES/CGDES 連合活動状況に係るデータ収集・分析支援</u></p> <p>・全国学校活動計画及び年間総括の集計・分析の実施支援（年度初め及び年度末） 全国の CGDES/CGDES 連合活動に係る各種指標集計・分析の実施支援（通年）</p> <p>CGDES/CGDES 連合活動にかかるモニタリング指標の収集・分析について、CGDES 調整部が自立的なデータ集計・分析が可能となるよう、今後集中的な能力強化を実施予定。</p> <p>2015年7月ごろモニタリング・システムの評価実施（外部評価もしくは内部評価）、その後、承認アトリエ開催、制度化までもって行く予定。</p>																																				

	<p>【指標 5】90%以上の中等学校で、匿名方式の選挙等、民主的な方法で選出したメンバーで構成される CGDES が設立される。</p>	<p>中学校の機能する CGDES 設置に係る実施された活動</p> <table border="1" data-bbox="869 199 1680 560"> <tr> <td>2013 年 2 月</td> <td>中学校 CGDES 基礎調査（ニアメ市内 18 校対象） 3 校をモデルパイロット校に選定</td> </tr> <tr> <td>～3 月</td> <td>CGDES 設立研修実施・パイロット校にて選挙集会開催（保護者会・CGDES メンバー選挙実施）</td> </tr> <tr> <td>3 月</td> <td>学校活動計画策定研修実施</td> </tr> <tr> <td>4 月</td> <td>各校で主要アクターと協議、住民集会 活動開始：補習の実施</td> </tr> <tr> <td>5 月</td> <td>経験共有アトリエ：卒業資格試験合格率向上へ向けた取り組み</td> </tr> <tr> <td>6 月</td> <td>3 校で模擬試験実施</td> </tr> <tr> <td>7 月</td> <td>卒業試験結果</td> </tr> <tr> <td>8 月</td> <td>CGDES/CGDES 連合経験共有セミナーでのテーマとなる 内閣改造により中学校が他省の管轄となり、活動中断</td> </tr> </table> <p>・3 校中 2 校（66.6%）が民主的選挙で CGDES 設立した。</p> <p><中等教育省との面会実績>2013 年 10 月（同省大臣・次官）、11 月（同省計画局長）、12 月、2014 年 3 月、5 月（就学局長）： 2014 年 2 月の合同調整委員会にて、「機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動」の継続が承認。その後、中等教育省大臣並びに事務次官との面談において、以下を提案、合意。 ・本プロジェクトで可能な支援はモデル開発に係るパイロット活動の実施のみで全国展開の支援はできない。 ・CGDES 政策に係る活動を管轄する担当部署の設置 ・当プロジェクトのフォーカルポイントの任命 ・モデル開発に併わせた CGDES 関連省令等の順次見直し ・今後、モデル確立後の全国展開支援に関しては、JICA への新規プロジェクト申請は可能。また、申請書作成に係る技術支援の意向があればプロジェクトにて協力可能。 現在、中等教育省内 COGES 担当部署の体制強化に係る省内協議・省令整備中。</p>	2013 年 2 月	中学校 CGDES 基礎調査（ニアメ市内 18 校対象） 3 校をモデルパイロット校に選定	～3 月	CGDES 設立研修実施・パイロット校にて選挙集会開催（保護者会・CGDES メンバー選挙実施）	3 月	学校活動計画策定研修実施	4 月	各校で主要アクターと協議、住民集会 活動開始：補習の実施	5 月	経験共有アトリエ：卒業資格試験合格率向上へ向けた取り組み	6 月	3 校で模擬試験実施	7 月	卒業試験結果	8 月	CGDES/CGDES 連合経験共有セミナーでのテーマとなる 内閣改造により中学校が他省の管轄となり、活動中断				
2013 年 2 月	中学校 CGDES 基礎調査（ニアメ市内 18 校対象） 3 校をモデルパイロット校に選定																					
～3 月	CGDES 設立研修実施・パイロット校にて選挙集会開催（保護者会・CGDES メンバー選挙実施）																					
3 月	学校活動計画策定研修実施																					
4 月	各校で主要アクターと協議、住民集会 活動開始：補習の実施																					
5 月	経験共有アトリエ：卒業資格試験合格率向上へ向けた取り組み																					
6 月	3 校で模擬試験実施																					
7 月	卒業試験結果																					
8 月	CGDES/CGDES 連合経験共有セミナーでのテーマとなる 内閣改造により中学校が他省の管轄となり、活動中断																					
	<p>【指標 6】80%以上の中等学校で、1 つ以上の学校活動計画が実施される。</p>	<p>パイロット 3 校中 3 校ともに学校活動計画の活動を実施。内容は卒業試験合格率向上のための補習・模擬試験実施。パイロット 3 校の活動実施による卒業資格試験結果（2013 年 8 月号）</p> <p style="text-align: right;">(%)</p> <table border="1" data-bbox="869 1046 1655 1193"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>2011 年度</th> <th>2012 年度</th> <th>2013 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CEG ガウエイ</td> <td>29.20</td> <td>47.06</td> <td>53.00</td> </tr> <tr> <td>CEG 24</td> <td>43.88</td> <td>41.33</td> <td>74.54</td> </tr> <tr> <td>CEG 35</td> <td>-</td> <td>43.01</td> <td>62.45</td> </tr> <tr> <td>全国平均</td> <td>35.89</td> <td>48.10</td> <td>46.80</td> </tr> </tbody> </table>	学校名	2011 年度	2012 年度	2013 年度	CEG ガウエイ	29.20	47.06	53.00	CEG 24	43.88	41.33	74.54	CEG 35	-	43.01	62.45	全国平均	35.89	48.10	46.80
学校名	2011 年度	2012 年度	2013 年度																			
CEG ガウエイ	29.20	47.06	53.00																			
CEG 24	43.88	41.33	74.54																			
CEG 35	-	43.01	62.45																			
全国平均	35.89	48.10	46.80																			
	<p>「質のミニマム・パッケージ」が開発され、有効性が実証される。</p>	<p>【ドリル開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2012/2013 年度：本部専門員支援による算数ドリル（初稿）開発（7 冊作成：No.1~No.5、回答集 No.1、No.2） ・2012 年 9～11 月対象校 1 校、及び 2013 年 2 月～現在まで、プロジェクト事務所にて、開発ドリルの試行 ・2013 年 6～12 月：本部支援（プロジェクト研究）による算数ドリル開発（3 冊作成：プレ算数・No.1、No.2） ・2013 年 4 月～：フランス語ドリル開発、試行中 																				

		<p>【質のミニマム・パッケージ開発パイロット活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2012/2013 年度対象 2 校：学力テスト（事前・事後）、住民集会支援、質のミニマム・パッケージ導入 CGDES 研修、ドリル活動ファシリテータ研修、及びドリル配布、活動モニタリングの実施 ・2013/2014 年度対象 107 校（ニアメ、ティラベリ州）：学力テスト（事前・中間・事後）、質のミニマム・パッケージ活動講師研修（視学官・指導主事・CGDES 監督官・CGDES 連合参加）、<u>質のミニマム・パッケージ導入 CGDES 研修</u>（各 CGDES 2 名、連合代表 2 名：計 120 名受講）、<u>ドリル活動ファシリテータ研修</u>（各 CGDES2 名、連合代表 2 名：計 120 名受講）、対象校への<u>ドリル配布（16,100 冊配布）</u>、及び活動モニタリングの実施  <table border="1"> <caption>PMAQ TEST Karma+Ny5: Points moyens obtenus</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Pretest dec 2013</th> <th>Test final mai 2014</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CI (sur 12)</td> <td>1.61</td> <td>6.06</td> </tr> <tr> <td>CP (sur 24)</td> <td>8.10</td> <td>15.05</td> </tr> <tr> <td>CE1 (sur 44)</td> <td>16.78</td> <td>24.25</td> </tr> <tr> <td>CE2 (sur 56)</td> <td>21.89</td> <td>30.31</td> </tr> <tr> <td>CM1 (sur 66)</td> <td>29.69</td> <td>37.55</td> </tr> </tbody> </table> <p>（出所：プロジェクト報告書） 図. ドリル導入の事前・事後テスト比較結果</p>	Category	Pretest dec 2013	Test final mai 2014	CI (sur 12)	1.61	6.06	CP (sur 24)	8.10	15.05	CE1 (sur 44)	16.78	24.25	CE2 (sur 56)	21.89	30.31	CM1 (sur 66)	29.69	37.55
Category	Pretest dec 2013	Test final mai 2014																		
CI (sur 12)	1.61	6.06																		
CP (sur 24)	8.10	15.05																		
CE1 (sur 44)	16.78	24.25																		
CE2 (sur 56)	21.89	30.31																		
CM1 (sur 66)	29.69	37.55																		
<p>成果 2：パイロット実施対象地域において、リソース管理・運営のための CGDES の役割と能力が強化される</p>	<p>リソース管理・運営の研修モジュールが開発される。</p> <p>【指標 1】パイロット対象地域において、リソース管理・運営の研修を受けた CGDES の割合が増加する。</p>	<p>2015 年夏ごろ実施予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2012 年 11、12 月：リソース管理モジュール、計画策定モジュール（リソース運用）モジュール作成。モジュールの共有セミナー実施。 ・2013 年 7 月～10 月：これまでのモニタリング結果、経験、各種事例を分析し、上記 2 種のモジュール改訂。 <p>パイロット実施対象：ティラベリ州サイ県・トロディ県の 342 校中 120 校（35%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2012 年 12 月、対象 120 校（各 CGDES より 3 名）、対象 5 連合（各 2 名）、計 370 名がリソース管理研修を受講。うち、60 校及び連合の合計 190 名が計画策定（リソース運用）研修を受講。講師はティラベリ州・県の CGDES 監督官（計 7 名） ・2013 年 10 月、モジュール改訂版を使用して、上記対象者が研修を再受講。 <p><今後の予定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画策定（リソース運用）モジュール内容の改善。 ・GPE/AFD コモンファンドの資金にて CGDES への補助金供与と活動が実施予定であり、当プロジェクトの研修モジュールを活用した研修実施が見込まれている。 																		

<p>【指標2】パイロット対象地域において、CGDESにより管理・運営されたリソースの割合が増加する。</p>	(単位：Fefa)				
		2011/2012	2012/2013	2013/2014	特記事項
	① 補助金供与額合計		26,846,000	30,066,000	
② 補助金 1 校当たり平均		223,717	250,550		
③ 学校活動計画額 1 校当たり平均	194,332	398,529	471,552	介入前と比較して、2012/2013 年度は約 2 倍、2013/2014 年度は約 2.5 倍	
④ 補助金以外の資金源の割合 1 校当たり (③-②)		174,812	221,002	約 1.3 倍の増加	
出所：プロジェクト報告書より取りまとめ					
<p>【指標3】パイロット対象地域において、学校改善計画における教育の質の改善を重視した活動割合が増加する。</p>	対象校内活動別計画策定 CGDES 割合				
	(%)				
		補習授業	夜間授業	練習問題実践補習	教材・文具購入
2012/2013	64.4	76.3	31.4	65.2	
2013/2014	76.7	75.8	41.7	90.0	
出所：プロジェクト報告書					
JICA 研究所による介入評価調査中間報告					
活動別実施 CGDES 割合 (グループ別)					
(%)					
	コントロールグループ (60 校)	グループ 1 (60 校) : 補助金/管理研修のみ	グループ 2 (60 校) : 補助金/管理研修+計画策定研修		
補習授業	67.9	73.2	87.5		
夜間学習	43.4	51.8	87.5		
教科書購入	37.7	75.0	90.0		
教員ガイド購入	35.8	69.6	76.8		
出所：プロジェクト報告書					
<p>パイロット対象地域において、リソース管理・運営能力強化により、CGDES が活発に機能する。</p>	<p>優良事例聞き取り調査より (2013 年 7 月号)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CGDES、校長、教員、保護者、住民間の活発なコミュニケーション (CGDES 会合、教員会議、住民集会を通じた目的の共有、活動への合意、各自の役割認識、結果の共有が徹底)。 ・住民内の人的資源の積極的活用 [卒業生 (保護者) や中学生等によるグループ学習支援] 				

成果3：教育行政分権化において、CGDES を生かした関連政策が策定され、実施される	【指標1】CGDES に関連した政策が作成される。	<p>(フェーズ2までの成果として)</p> <ul style="list-style-type: none"> CGDES/CGDES 連合の設立、権限、機能等に係る省令発出 (2012年2月22日付) CGDES 関連活動担当部署として中央のCGDES 調整部設立・権限・機能に係る省令発出 (2012年2月22日付) (本プロジェクト開始後) ニジェール国教育・研修セクタープログラム (2014~2024) 戦略文書において、女子就学促進、学校インフラ管理、学校分権化運営改善等、教育改善に係るアクターとしてCGDES の役割強化を明記。それらに係るCGDES 能力強化を含む活動が計画されている。 2012年度教育統計年鑑にCOGES 活動成果を挿入することとなった。2014年4月発行。
	【指標2】CGDES に関連した政策を反映した教育省の年間計画が作成される。	<ul style="list-style-type: none"> 2013年、2014年度ともに、CGDES 活動支援モニタリングに係る活動が教育省年間活動予算計画内へ盛り込まれた。 2013年度予算にCGDES 活動モニタリング費用 (76,132,700 Fcfa) が承認された。(内訳2014年1月号) 2014年度予算は、2013年度の倍の額が承認。CGDES モニタリング費用のほか、新設校研修費、CGDES 監督官及び連合の強化費、地域経験共有セミナー開催費 (213,576,000 Fcfa)。(内訳2014年4月号)
	【指標3】リソース管理・運営におけるCGDES の機能強化を含む教育省の政策ないしは計画の有無。	<ul style="list-style-type: none"> ニジェール国教育・研修セクタープログラム (2014~2024) 支援の一環として、GPE/AFD コモンファンドによる基礎教育支援プロジェクト内サブコンポーネントとしてCGDES への補助金供与が計画(5州の2,800校対象予定)。 2014年度教育省計画内CGDES 調整部活動において、CGDES への補助金供与 (200校対象) が計画・省内承認済み。

プロジェクト目標の達成度																													
プロジェクト目標：ニジェールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDES の学校運営の役割と能力が強化される。	【指標 1】 CGDES が CGDES 連合及び初等教育省に学校改善計画の年間レポートを提出する割合が増加する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2011/2012</th> <th>2012/2013</th> <th>2013/2014</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全国 CGDES 数</td> <td>15,046</td> <td>15,810</td> <td>16,587</td> </tr> <tr> <td>学校活動計画提出率 (%)</td> <td>95.3</td> <td>91.1</td> <td>94.73</td> </tr> <tr> <td>学校活動計画総括表回収率 (%)</td> <td>88.1</td> <td>89.2</td> <td>92.1</td> </tr> </tbody> </table>				2011/2012	2012/2013	2013/2014	全国 CGDES 数	15,046	15,810	16,587	学校活動計画提出率 (%)	95.3	91.1	94.73	学校活動計画総括表回収率 (%)	88.1	89.2	92.1									
		2011/2012	2012/2013	2013/2014																									
全国 CGDES 数	15,046	15,810	16,587																										
学校活動計画提出率 (%)	95.3	91.1	94.73																										
学校活動計画総括表回収率 (%)	88.1	89.2	92.1																										
【指標 2】 パイロット対象地域において、CGDES が管理・運営する資源の割合が増加する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2011/2012</th> <th>2012/2013</th> <th>2013/2014</th> <th>特記事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 補助金供与額合計</td> <td></td> <td>26,846,000</td> <td>30,066,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 補助金 1 校当たり平均</td> <td></td> <td>223,717</td> <td>250,550</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ 学校活動計画額 1 校当たり平均</td> <td>194,332</td> <td>398,529</td> <td>471,552</td> <td>介入前と比較して、2012/2013 年度は約 2 倍、2013/2014 年度は約 2.5 倍</td> </tr> <tr> <td>④ 補助金以外の資金源の割合 1 校当たり (③-②)</td> <td></td> <td>174,812</td> <td>221,002</td> <td>約 1.3 倍の増加</td> </tr> </tbody> </table>					2011/2012	2012/2013	2013/2014	特記事項	① 補助金供与額合計		26,846,000	30,066,000		② 補助金 1 校当たり平均		223,717	250,550		③ 学校活動計画額 1 校当たり平均	194,332	398,529	471,552	介入前と比較して、2012/2013 年度は約 2 倍、2013/2014 年度は約 2.5 倍	④ 補助金以外の資金源の割合 1 校当たり (③-②)		174,812	221,002	約 1.3 倍の増加
	2011/2012	2012/2013	2013/2014	特記事項																									
① 補助金供与額合計		26,846,000	30,066,000																										
② 補助金 1 校当たり平均		223,717	250,550																										
③ 学校活動計画額 1 校当たり平均	194,332	398,529	471,552	介入前と比較して、2012/2013 年度は約 2 倍、2013/2014 年度は約 2.5 倍																									
④ 補助金以外の資金源の割合 1 校当たり (③-②)		174,812	221,002	約 1.3 倍の増加																									
上位目標の達成見込み																													
上位目標：「住民参加型の学校運営を通じて基礎教育の質をアクセスが向上する」の達成見込み度。	【指標 1】 教育指標（就学率、留年率、中退率、終了率など）の向上	(%)																											
		粗新入学率	男子	2010/2011		2011/2012	2012/2013																						
			女子	106.6		103.9	106.9																						
			全体	92.7		91.7	91.3																						
		粗就学率	男子	99.8		97.9	99.2																						
			女子	84.9		87.8	89.5																						
			全体	67.3		70.7	74.7																						
		留年率	男子	76.1		79.2	82.0																						
			女子	-		4.37	4.4																						
			全体	-		4.53	4.5																						
		初等中退率	男子	-		4.44	4.4																						
			女子	9.9		11.7	12.6																						
			全体	11.4		12.7	13.5																						
初等修了率	男子	10.5	12.2	13.0																									
	女子	59.7	63.9	65.5																									
	全体	42.6	47.7	49.1																									
初等修了試験合格率	男子	51.2	55.8	56.4																									
	女子	64.9	57.6	57.7																									
	全体	61.6	55.4	56.4																									
		63.5	56.7	57.2																									

2. 実施プロセスの検証		
評価項目	判断基準（指標）	結果調査
活動の進捗・実施状況		
活動は計画どおりに実施されたか	活動計画と実施状況の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・フォーラム開催において、当初計画では複数州を対象とする予定であったが、現在のフォーラムアプローチ体制では、継続性の課題が残るため、まずはタウア州を対象として自立発展するフォーラムアプローチのモデル開発を実施することとなった。 ・安全対策レベルが上がったことにより、「質のミニマム・パッケージ」開発に係る西方専門員の出張が中止となった。専門家の移動制限も踏まえ、パイロット予定地を変更しプロジェクト事務所周辺の小学生を対象にドリルの試行を実施。プロジェクトがファシリテータを務め、より直接的に細部までの見分を可能とした。 ・同じ理由で中等学校の CGDES 活動促進の短期専門家の募集が中止となり、プロジェクトスタッフと調整部の担当が活動を開始した。そのため、活動開始が遅れ、パイロットの規模も3校と限定された。そしてその後、省庁改編により中等学校の管轄が中等教育省という別の省となり、活動が停止している。中等教育省と話し合いを重ね、2015年度から活動再開予定。
十分に実施されていない活動や効果が十分でない活動はあるか、その要因は何か	活動実施状況の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・CGDES モニタリングの活動において、調整部への技術移転プロセスという点において遅れをとっている。原因としては担当専門家の任期短縮や、業務調整と兼任のため活動に専念できなかったことが挙げられる。
活動の実施過程で生じた問題はありますか、その要因は何か	活動実施状況と生じた問題の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・COGES モニタリングに係る見返り資金再開の遅延によるモニタリング費用の不足が生じ、プロジェクトの支援で賄ったが、2013年4月より資金再開。 ・2013年8月の省庁改編により、中等学校管轄が中等教育省に変わり、新たなC/P設置の遅れにより、成果1の中等学校への介入が一時中断している。 ・2014年2月に全国8州中6の州教育事務所長の交代があり、さらに州・県CGDES監督官の交代も多く、能力のばらつきが懸念される（2014年4月号）。
プロジェクト運営管理		
モニタリングと実施状況	モニタリングはどのように実施されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・CGDES 調整部及び計画局との月例会議を実施している。 ・プロジェクト事務所と調整部は物理的に離れているものの、日常的なコミュニケーションでカバーしている。
	モニタリング結果はどのようにフィードバックされたか、問題への対応は十分だったか。	
プロジェクト内のコミュニケーションは十分であったか	日本人専門家とC/P、日本人専門家間のコミュニケーション状況、	<ul style="list-style-type: none"> ・月1の定例会議（調整部、計画局） ・プロジェクト事務所内では、週1のスタッフ会議（日本から電話会議で原チーフアドバイザーも参加）及び、その会議後に日本人専門家のみで翌週の活動確認を実施している。 ・プロジェクトスタッフ（コンサルタント）との関係は良好であるが、プロジェクト全体の方向性について日本人専門家間での議論がもっとできることが望ましいという意見も聞かれた。
本部・在外事務所のプロジェクト支援は適切であったか	本部・在外事務所とプロジェクトのコミュニケーション、支援状況	<ul style="list-style-type: none"> ・チーフアドバイザーが本部所属という利点。電話やスカイプなどで会議に参加している実績多数あり。

C/P のオーナーシップ		
C/P の配置は適切であったか	適切な能力と人数の C/P が配置されたか	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト開始直前 2012 年 5 月に CGDES 調整部の人員の任命・配置が行われ、新体制とともに活動開始ができたことはプロジェクトの新しい展開の良い契機となった。3 課長ともプロジェクトとの協働に積極的であった。
C/P のプロジェクト活動参加の度合い	プロジェクト活動に C/P は積極的に参加、活動したか	<ul style="list-style-type: none"> 月例会には毎月積極的に皆出席し、活動についての議論を行っている。その他の活動についても、同様。 他方で、調整部からは、活動の主体は JICA プロジェクトという印象をもっているとの意見も聞かれた。調整部側が主体性をもって活動していきたい意向が聞かれ、プロジェクト側としても問題意識を抱えており、その点について今後もっと話し合いのうえ技術移転を効率的に実施していきたい旨確認された。
実施機関のプロジェクト運営費の負担の度合い	研修費、日当などの負担の度合い	<ul style="list-style-type: none"> 2013 年度から国家予算にて CGDES モニタリング費が賄われることとなり、プロジェクト活動の重要な部分をニジェール側の負担で実施するようになった。
本邦研修の成果	本邦研修の参加者 5 名は、研修成果をどのようにプロジェクトに反映させていくか	<ul style="list-style-type: none"> 研修参加に先立って、プロジェクトにて事前報告書作成、プレゼンテーション作成、また各種パイロット活動対象校訪問などを行い、協議・意見交換に取り組むことで、教育省中央関係者のプロジェクト活動に対する更なる理解促進が図られた。 また参加者からの意見では、日本における学校運営においては、保護者と地方自治体の参加のみならず地域の企業の支援も得ながら教育に取り組んでいる。地域全体の連携体制という部分をニジェールに応用していきたいと考えている。
他ドナーとの連携		
他ドナーとの連携は効果的に行われたか	他ドナーとの連携状況、連携活動による効果	<ul style="list-style-type: none"> PTF 会合への参加、ユニセフ、世銀担当者との比較的頻繁な会合実績、その他プロジェクト活動に興味をもつドナーの訪問実績。 2014 年 3 月 GPE/AFD コモンファンド基礎教育支援プロジェクトにより、全国 5 州内全 2,800 校への補助金供与が決定（うち、プロジェクト対象 180 校含む）。 ユニセフ、USAID、スイス協力庁が連携活動を希望している。日常的なコミュニケーションもあり、適宜情報共有を行っている。
3. 5 項目評価		
評価項目	判断基準（指標）	結果調査
妥当性		
必要性		
プロジェクト目標、上位目標は現在のニジェールの開発政策及びターゲットグループのニーズに合致しているか。	整合性の確認	<ul style="list-style-type: none"> 2005 年の法令で全校への COGES 設置が義務化→「みんなの学校フェーズ 1」にて具現化支援 「教育開発 10 カ年計画（PDDE）2003～2012」 教育政策文書 'La Lettre de Politique Educative pour la période 2013-2020'(2012 年 5 月発表) を実践していく戦略書として「教育及び研修セクター計画 戦略文書（PSEF 2014～2024 年）」が策定、先の PDDE の経験と課題を引き継ぐ内容。具体策として、地方分権に伴う CGDES の役割や能力強化、権限の強化を図ること、州・県・コミュニケーションそれぞれの教育行政レベルの能力強化などが明記。

日本側の優先度		
日本の援助政策、JICA 国別事業実施計画との整合性はあるか。	整合性の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・対ニジュール事業展開計画では、ニジュールの教育課題に沿って、学校建設、現職教員研修及びコミュニティを巻き込んだ学校運営委員会等を継続に支援。これまで重点的に支援を実施してきた初等教育分野に加え、中等教育分野及び女性を含む脆弱層にも配慮する旨明記。 ・人間開発指数 187 カ国中 187 位（2014 年）であり（詳細計画策定時の 2011 年データでは 186 位）、人間の安全保障の観点から、JICA では教育を 1 つの重点支援分野としている。 ・2013 年の TICAD V では、「適切な教育施設の供給、教員の能力向上及び関係者の管理行政能力の改善を通じた、初等及び中等教育への衡平性に配慮したアクセス及び質の改善向上」と明記。活動として 2008 年 TICAD IV から引き続き「みんなの学校」拡充が言及。
手段の適切性		
プロジェクトのアプローチは適切であるか。		ニジュールの地方分権化の流れのなかで、CGDES は教育政策でも重要な役割を担うものとして学校運営の権限が与えられている。教育環境整備のためのリソースが限られているニジュールでは、CGDES によるリソース動員、運営管理がますます求められている。したがって、CGDES の役割と能力強化による教育のアクセスと質の向上をめざす本プロジェクトのアプローチは適切である。
	研修に取り入れられているシミュレーション手法は効果的か。 →有効性もしくは成果達成貢献要因に移動	<ul style="list-style-type: none"> ・非識字者の多い住民により効果的に研修を実施するために考案されたロールプレイ（寸劇）による技術移転方法であるが、大変効果的である。これまで講師によりばらつきがあった研修の質が均一化し、研修への参加者の集中度、内容の理解度、研修効果の持続度などが飛躍的に改善。研修時間も短縮できた（2012 年 12 月号より）。 ・研修参加者からの意見からは、シミュレーション手法は知識の習得に有効である旨確認された。
ターゲットグループの選定は適切であったか（対象、規模、男女比等）。	（ターゲットグループ） ・教育省 C/P：約 20 名 ・州 CGDES 担当/監督官：約 60 名 ・州レベル視学官：約 80 名 ・校長約：14,500 名（全国 初等学校約 13,700 校及び中等学校約 800 校） ・CGDES の代表：約 14,500 校	ニジュールの教育指標はアクセスにおいては緩やかな改善が見られるものの、2012 年度の初等教育粗就学率は 82% であり、中退率は 13% にのぼり、いまだアクセスの改善が必要とされている。教育の質においては、2012 年度の初等教育終了率は 56%、初等終了試験合格率は 57% と、学習達成度が著しく低い。本プロジェクトはフェーズ 2 までに構築された全国の CGDES を通じて、教育のアクセスと質の向上をめざすものであり、プロジェクトの直接裨益対象者は中央レベルから学校まで CGDES 活動に係るすべてのアクターであることから、ターゲットグループのニーズに確実に合致している。
ターゲットグループ以外への波及性はあるか。	波及効果の有無	本プロジェクト実施にあたっては、一部の活動を現地 NGO へ業務委託している。プロジェクトスタッフにも複数の NGO コンサルタントを雇用しており、プロジェクト活動を通じて彼らの CGDES に係る能力が向上している。今後も地方分権化の流れのなかで CGDES に係る能力強化が望まれるところ、彼らの貢献も期待される。
事前評価以降、プロジェクトをとりまく環境（政策、経済、社会等）の変化はないか。	環境変化の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト開始直前に CGDES 調整部の人事が刷新されたが、プロジェクトの新しい展開を開始するにあたり、良い契機となった。 ・2013 年に省庁改編があり、中等教育の管轄が中等教育省となった。

有効性		
プロジェクト目標の達成		
プロジェクト目標の達成見込みはあるか。	(実績の検証結果)	
プロジェクト目標の指標設定は適切か。	<p>【指標 1】CGDES が CGDES 連合及び教育省に学校改善計画の年間レポートを提出する割合が増加する。</p> <p>【指標 2】パイロット対象地域において CGDES が管理・運営する資源の割合が増加する。</p>	<p>指標 1 は CGDES モニタリングが機能しているかを測る指標として、成果レベルに移動する方が適切。代替案として、プロジェクト目標のとおり、「アクセス」「質」「役割」が強化された指標を設定する。</p> <p>指標 2 については、パイロット地域に補助金を供与している以上、管理・運営する資源の割合が増加するのは当然である。また、指標 1 同様に、リソース管理・運営能力強化は、CGDES の役割と能力が強化されるために必要なコンポーネントであることから、成果レベルに移動する方が適切。</p>
達成の阻害・貢献要因は何か。		<ul style="list-style-type: none"> 関係者全員への徹底した研修体制が貢献している。カスケード式に確実に一番の裨益者であるべき学校レベルまで研修が実施されていることは良い。 本邦研修参加を契機に、C/P のプロジェクトに対する理解が深まり、モニタリング費の国家予算計上も、本邦研修に参加した事務次官の強いバックアップがあった。
プロジェクト目標と成果の因果関係		
成果はプロジェクト目標を達成させるために十分か。	成果が達成されればプロジェクト目標が達成されるという理論に無理はなかったか	<p>プロジェクトは大きく 2 つのコンポーネントで構成されている：1) 機能する CGDES 活動のモニタリング強化、2) 教育の質及びアクセスに係るモデル開発（「質のミニマム・パッケージ」「リソース運営管理」「フォーラム・アプローチ」中等学校の COGES 導入）。1) では、これまでのフェーズ 1、フェーズ 2 の支援で確立された CGDES 活動の全国展開の成果を継続させるため、特に中央レベルにおけるモニタリング能力強化を図るものである。CGDES 活動をさらに活性化させ、CGDES 活動によって教育の質向上をめざすために、2) の 4 つのパイロット活動が試行的に実施されている。「質のミニマム・パッケージ」は生徒の学力向上のためのドリル導入であるが、このドリル学習の活動を CGDES 活動として学校と地域を巻き込んだアプローチをとっている。住民集会でドリル学習のファシリテータを教員及び住民から選出し、さらにドリル学習の成果を公表することで、コミュニティの教育課題を認識し対策を議論することで自発的な住民参加による教育開発の可能性を秘めている。「リソース運営管理」は、地方分権が進められる一方で、学校レベルでのリソース配分が限られている現状から、CGDES 活動に対する補助金供与の支援を実施。各 CGDES が適切に透明性をもった資金管理を実現させ、教育の質の改善のために有効に活用されるための支援である。この活動についても、「質のミニマム・パッケージ」同様、資金管理活動を適切に住民（保護者）へ公表することで、資金の適切な運用を踏まえた学校活動計画を住民参加型で実践させるためのアプローチである。そして「フォーラム・アプローチ」はフェーズ 2 でその有効性が認められたものの、継続性に係る課題が残ったことから、新たな手法としてコミュニケーションと CGDES 連合の連絡協議会を設置し、これまで以上に地域が一体となって教育開発に取り組む手法が試行されている。地方自治体を巻き込むことで、財政面における CGDES 連合の活動の継続性も期待される。最後に中等学校への機能する COGES モデルの導入に至っては、これまでの初等教育分野への CGDES 活動支援が効果的に成果を発現していることから、次のステップとして中等学校へのこれまでの成果の応用によるモデル開発を組み入れ、中等学校への波及の一步をニジュール側に提示するものである。このように、2) の 4 つのパイロット活動は、全国展開を果たした CGDES 活動の更なる活性化を図る手段であり、CGDES 活動を通じた教育の質改善という目的を満たすものである。</p> <p>以上のように、プロジェクトの各コンポーネントはプロジェクト目標を達成させるうえでいずれも必要不可欠かつ十分なものである。しかしながら、現在設定されている 3 つの成果では、これらコンポーネントの役割とプロジェクト目標への貢献が分かりにくい整理となっている。したがって、成果の整理と、成果及びプロジェクト目標の指標の修正、さらに活動の整理が示唆される。</p>

成果の指標設定は適切か。		<ul style="list-style-type: none"> ・「質のミニマム・パッケージ」に係る指標がない。 ・教員養成校（教員初期研修）へのモジュール挿入にかかる指標がない。 ・教育フォーラムは、当初計画から「モデル開発」へと方向転換があったため、それに沿った指標設定の必要。 ・「リソース管理・運営」は、既にパイロット活動が終了したことから、今後の活動に沿って指標の再設定が必要。 ・CGDES モニタリングに係る指標も、評価指標として適切でないため、モニタリング能力強化に関する指標に変更。
プロジェクト目標に至るまでの外部条件は現時点においても正しいか。外部条件が満たされる可能性は高いか。	【外部条件】 <ul style="list-style-type: none"> ・経済、治安状況が著しく悪化しない 	安全管理レベルが上がり、日本人専門家がニアメ市外へ移動できなくなった。これにより、日本人専門家による遠隔モニタリングを余儀なくされた。集中的なモニタリングが必要とされるパイロット活動においては、遠隔モニタリングにより適切な判断ができないという不安はあるものの、調整部、プロジェクトスタッフ、業務委託 NGO から最大限に情報を収集できるように努め、活動を継続している。
効率性		
成果の産出状況		
成果の達成度は適切か。	(実績の検証結果)	
成果達成の阻害・貢献要因は何か。	阻害・貢献要因	<ul style="list-style-type: none"> ・パイロット活動への集中的投入と、結果の広い公表により、他ドナーによる補助金支援が決まった。
活動は成果を達成させるために十分であったか。		<ul style="list-style-type: none"> ・調整部への技術移転に関し、計画段階で能力強化に係る活動方針が明確でなかったために、CGDES モニタリングに係るデータ回収、集計・分析能力、また計画策定能力の技術移転が実施されていないことが確認された。 ・その他のモデル開発活動については、現時点までの活動はおおむね十分であったといえるが、今後プロジェクト終了までめざすものを明確にし、具体的な活動計画を策定する必要がある。
活動から成果に至るまでの外部条件は現時点においても正しいか。外部条件による影響はないか。	【外部条件】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 多数の C/P が短期間において異動しない 2. 経済、治安状況が著しく悪化しない 	<ol style="list-style-type: none"> 1. C/P の異動は実際多いが、中央レベルでの異動は現場の活動に直接影響を与えない。モニタリング活動を担う CGDES 監督官が異動となる場合は活動に支障をきたすため、速やかにプロジェクト活動に係る説明や必要に応じて研修を実施して対応。中央レベルも同じ対応をしている。したがって、現時点ではこの外部条件による負の影響はない。 2. 成果からプロジェクト目標達成に至るまでの外部条件の項目参照。
投入の実施状況		
専門家派遣、供与機材や予算手当がタイミングよく実施されたか。		<ul style="list-style-type: none"> ・見返り資金の抛出の遅れがあったが、プロジェクト支援により滞りなく活動が実施された。 ・専門家派遣については、任期短縮や安全管理上の問題により専門家派遣の中止などが余儀なくされた。 ・プロジェクト事務所内の機材については供与機材の位置づけであるが、C/P 側には活動開始後にその旨伝わったこともあり、若干の混乱が生じたが、議論の末、プロジェクト終了後に引き渡すことで合意した。
コスト		
投入コストに見合ったプロジェクト目標の達成が見込めるか。	本邦研修への参加はプロジェクト目標達成に効果的に貢献しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・本邦研修へ参加後、参加者のプロジェクト活動に対する姿勢が変わり、より協力的になった。CGDES モニタリング予算が国家予算に計上されたのも、研修参加者である事務次官の強いバックアップがあったお陰である。 ・また、研修では、CGDES 活動に係る戦略の立て方、取り組み方法を学んだという声も聞かれた。
	ローカル NGO への業務委託はコスト効率的か。	<ul style="list-style-type: none"> ・ローカルスタッフ雇用に関し、コンサル、NGO に業務委託を行うことにより膨大な業務量を円滑かつ効果的に進めることができた。他方で、ニジェール側への技術移転・能力強化という観点からは、業務委託は適切でないとの意見も C/P から聞かれた。
他の JICA スキームとの連携や他の援助機関との協力による成果はあるか。		<ul style="list-style-type: none"> ・関係ドナーにもプロジェクト活動の経験共有を日常的に行っていることから、補助金供与のリソース管理・運営の成果が認められ、GPE/AFD コモンファンド基礎教育支援プロジェクト資金による補助金供与にプロジェクトが開発した研修モジュールが採用される計画がある。このプロジェクトのターゲット地域に JICA プロジェクトの対象地域も含まれることもあり、今後の相乗効果が期待される。なお、AFD での聞き取りでは、JICA の研修モジュールを使うことはほぼ確定している。

インパクト（予測）		
上位目標の達成予測		
上位目標は、プロジェクトの効果として発現が見込まれるか。	現時点での指標の推移及び関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・「質のミニマム・パッケージ」の活動による学力向上が既に示唆されている。CGDES 活動の一環としてこのパッケージが全国普及すれば、プロジェクト終了 5 年後には学力向上及び終了率の向上、また学力不足による留年・中退率の低下が見込まれる。→パッケージの今後の活動確認 ・これまで COGES 活動を通じて、就学率の向上や退学率が改善されてきた。現在は質の向上に重点をおいた CGDES 活動を実施しているため、以前と同様に確実に学力の向上も期待できる。
上位目標を達成するための方策が考えられているか。		上位目標である各教育指標の改善を図る手段として、プロジェクトでは CGDES の役割と機能強化を実現しようとしている。したがって、プロジェクト目標が確実に達成され、さらにプロジェクトコンポーネントである「継続する」教育フォーラムが構築されることで、上位目標が達成されるといえる。また「質のミニマム・パッケージ」の普及もこれに大きく貢献するものである。
上位目標達成を阻害する要因はあるか。		
上位目標とプロジェクト目標の因果関係		
上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか		（上記「上位目標を達成するための方策」参照）
プロジェクト目標から上位目標に至るまでの外部条件は現時点においても正しいか。外部条件が満たされる可能性は高いか。	【外部条件】 1. 教育省の予算が確保される 2. 各学校に必要な教員の措置が適切に行われる	1. CGDES モニタリング費については、既に国家予算が計上されているため、調整部が適切に年間活動計画を策定すれば、プロジェクト終了後も引き続き国家予算で賄われる。 2. 「PSEF 2014-2024」によると、教員数は 1998 年より契約教員の大量雇用により、1999 年の 11,000 人から 2011 年は 45,000 人に増員しており、この教員増加が続けば 10 年後には教員 1 人に対して生徒 45 名となることが推測される。一方、教員配置に関して、都市部に教員数が集中し、地方では十分な教員供給がされていない現状がある。今後も、この状況が続けば、上位目標達成の阻害要因となる可能性が高い。したがって、この外部条件については、引き続き状況確認を行う必要がある。
波及効果		
上位目標以外の効果・影響が想定されるか。		<ul style="list-style-type: none"> ・リソース運営管理のパイロットサイトにて、銀行口座を開設した際に ID カードが必要であるが、それを機に住民が ID カードの存在を知って、皆が ID カードを持つようになった。同様の例では、学校へ行くためには出生証明が必要であるが、皆が学校へ行くようになったことで、現在は出生証明を持つようになり、こうした地方行政の住民管理という側面において、予期しなかったインパクトが確認された。 ・構築された CGDES を、保健分野は水分野でも活用している村がある。保健分野ではヘルスポストが CGDES を通じた啓発活動などを実施している。
他仏語圏アフリカへの波及効果はあるか。	周辺国に対する技術支援、経験共有の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・2013 年 4 月ブルキナファソ教育省 COGES 政策関係者スタディツアー ・2013 年 10 月セネガル・ニジュール学校補助金供与に係る経験共有セミナー ・コートジボワールで開始した地方分権化に係る JICA プロジェクトにおいて、学校運営活動支援コンポーネントのモジュール作成の際に、ニジュールで開発されたモジュールがたたき台として活用された。
マイナスの影響はあるか。それを取り除くための方策は何か。		マイナスの影響は特に見受けられない。

持続性（見込み）		
政策・制度面		
CGDES を重要視した教育政策はプロジェクト終了後も継続される予定か。		・「妥当性」の項目参照
プロジェクト支援により策定される CGDES 活動に係る政策が継続される見込みか。		プロジェクトがめざす制度化は、CGDES モニタリングシステムであるが、既に 2012 年発令の省令にはモニタリング活動は調整部の任務である旨規定されており、モニタリング活動費用も国家予算に計上されている。したがって、プロジェクト終了までにモニタリングシステムが制度化されることにより、前述の既存の規定に対する戦略文書という位置づけとなるため、政策が継続される見込みは高い。
プロジェクト成果の他地域への普及を支援する取り組みが担保されているか。		既に、補助金活動に対する GPE/AFD コモンファンド基礎教育支援プロジェクト支援が決定し、2014 年度から実施される予定である（プロジェクトは 4 年間）。これは、プロジェクト活動の成果を常に関係者に共有している結果であり、今後もこうした取り組みを継続する。
組織・財政面		
教育省 CGDES 調整部は全国に CGDES 活動を統括するために必要な人員、予算を確保しているか。		・モニタリング予算については、国家予算が割り当てられるようになり、一度組み込まれれば今後も安定的に配分されるものなので、安定が期待される。他方で、年 2 回実施の経験共有セミナーの予算については、2005 年の予算申請に入れており、これが承認されることで、すべてのレベルにおけるモニタリング活動費用が国家予算でカバーされることとなる。
州教育事務所は州レベルで CGDES 活動を統括するために必要な人員、予算を確保しているか。		・州・県 CGDES 監督官の活動費も国家予算のモニタリング費に割り当てられている。他方で、見返り資金でカバーされていた州教育事務所のモニタリング費は入っておらず、別途州教育事務所に割り当てられる予算から賄うこととなった。
CGDES 連合は活動の継続のための組織力と収入源を有しているか。		・CGDES 連合の収入源は、各 CGDES からの年会費と市町村からの支援で賄っている。各 CGDES からの年会費はある程度確保できているが、市町村からの支援は、連合によって全くないところもある。CGDES 連合の活動継続のためには、市町村との連携強化によるところも大きいので、今後の連携促進が期待される。 ・また、見込み予算に併わせて活動を計画するようになっているので、そういう意味では、資金が減ってもその範囲内で活動を実施していくことができる。
CGDES はリソース管理・運営活動を継続されるための組織力と収入源を確保しているか。		・CGDES の収入源は保護者からの年会費であり、多くの CGDES では既に学校はコミュニティのものであるとの認識が広まっていることから、会費回収率はある程度安定している。補助金供与により、年会費を払わなくなったケースも見受けられたが、補助金の位置づけを明確に保護者に説明することで既に CGDES 連合を通じて解決策を見出しており、活動の安定が見受けられる。 ・NGO より直接補助金を供与されている CGDES もあり、そういったところは、ドナーへの支援要請の申請書の書き方について学びたいという声も聞かれた。
教育省から補助金が制度化される見込みはあるか。関連ドナーによる支援の見込みはあるか。		・GPE/AFD コモンファンド基礎教育支援プロジェクトにより、全国 5 州内全 2,800 校への補助金供与が決定（うち、プロジェクト対象 180 校含む）。このプロジェクトは昨年 4 年間の予定であり、既に JICA プロジェクトが開発した研修を教育省が活用する予定がある。
実施機関のプロジェクトに対するオーナーシップは十分に確保されているか。		・フェーズ 1、フェーズ 2 を通じて、プロジェクト成果が国の政策に反映されてきた実績がある。 ・本プロジェクトでも CGDES 関連活動費用を国家予算に組み入れており、教育統計年鑑に CGDES 活動を挿入された。 ・今後は CGDES モニタリング体制についてプロジェクト活動のなかで制度化していく予定であり、プロジェクト終了までに達成することが期待される。

技術面		
教育省 CGDES 調整部は、関連政策策定、各種能力強化研修の実施及び CGDES 活動モニタリングに係る能力は十分か。	活用状況、普及状況	<ul style="list-style-type: none"> 調整部スタッフは、モニタリング活動の大きなイベントである年 2 回の経験共有アトリエの開催準備をプロジェクトとともに実施してきたことで、会議開催に係る一連の手順を習得した。 今後さらに必要な技術としては、CGDES 活動の総括表を、エクセルを使ったデータ分析できるようになる必要がある。また、調整部の活動年間計画策定能力も不足しているため、その技術支援をしてほしい旨聞かれた。
州教育事務所は教育フォーラムの開催及び CGDES 連合総会、CGDES モニタリングに係る十分な能力を有しているか。		州 CGDES 監督官のモニタリング費は、国家予算に計上された。 州教育フォーラムは、現在タウア州にてモデル構築中であり、地方自治体と FCC との連絡協議会
CGDES はリソース管理・運営活動を継続されるための十分な能力を有しているか。		パイロットサイトとなる所は、必ずその活動は継続する。なぜならプロジェクトが直接介入するため技術が定着する。フェーズ 1 ではタウア州が CGDES 設立パイロット地域であったが、その後もタウア州のパフォーマンスはいつも良い。
質のミニマム・パッケージが展開・継続されるための関係者の能力は確保されているか。		<ul style="list-style-type: none"> ファシリテータの選出について、「教員に限定すべき」や「継続できるやる気のある人のみを選定すべき」との意見が聞かれた。また住民から選出するのであれば「既婚者限定」など。 ファシリテータの選定に留意すれば、継続は可能。研修モジュールも分かりやすいため。
社会・文化・環境面		
女性、貧困層、社会的弱者への配慮不足により、持続的効果を妨げる可能性はないか。		プロジェクトは全国を対象としており、女子、貧困層、社会的弱者を含めたすべての人が教育を受けることを支援しているため、十分に配慮している。
その他		
持続性を阻害するその他の要因はあるか。		特に見受けられない。

4. 質問票

<教育省 CGDES 調整部への質問事項>

1. 実施体制/プロセス

- (1) 日本人専門家並びにプロジェクトスタッフとの関係は良好ですか。プロジェクト活動のモニタリングのための定例会などを含め、日常のコミュニケーションはどのようなものですか。
- (2) プロジェクト活動に問題があった場合の対応はどのように行われていますか。
- (3) プロジェクト開始以降、多くの C/P の人事異動が見受けられますが、新たな C/P への活動引き継ぎなどスムーズに行われていますか。課題と対策について。
- (4) ニジェール側の活動経費負担について、計画どおり予算の拠出はされていますか。

2. 5項目評価

<妥当性>

- (1) プロジェクト目標はニジェール国のニーズに合致していますか。
- (2) 州教育フォーラムをどのように評価していますか。現在タウア州で実施しているモデルは他州へ展開可能ですか。
- (3) 質のミニマム・パッケージはどのように評価していますか。今後の広がりは可能ですか。
- (4) リソース管理・運営能力強化に係るプロジェクトの手法は、CGDES 活動の活性化及び教育の質向上に効果的ですか。
- (5) プロジェクトのターゲットグループ、また各活動のターゲットグループの選定は適切ですか。

<有効性>

- (1) 調整部による CGDES 活動モニタリングはどのように行っていますか。JICA プロジェクト介入による成果は何ですか。モニタリング・システム構築に係る課題と対策は何ですか。
- (2) プロジェクト活動全般をどのように評価していますか。プロジェクト目標達成の阻害・貢献要因を含めてお話しください。

<効率性>

- (1) 本邦研修はプロジェクト目標達成に効果的に貢献していますか。参加された方は感想・評価をお聞かせください。
- (2) 他援助機関との協力による JICA プロジェクトの CGDES 機能化のための活動、相乗効果はありますか。

<インパクト>

- (1) 上位目標の達成見込みはありますか？現時点で、達成を阻害する要因はありますか。
- (2) 近隣諸国との「みんなの学校」経験共有をどのように評価していますか。
- (3) プロジェクト実施により、その他正・負のインパクトはありますか。

<持続性>

- (1) 教育省 CGDES 調整部は全国に CGDES 活動を統括するために必要な人員、能力、予算を確保していますか。
- (2) 州教育事務所は州レベルで CGDES 活動を統括するために必要な人員、能力、予算を確保していますか。
- (3) CGDES 連合は活動の継続のための組織力と能力、財源を有していますか。
- (4) その他、活動持続性に係る課題と対策。

<州教育事務所長及び州・県 CGDES 監督官への質問事項>

1. 基本情報

- (1) いつから現職ですか。前職は。
- (2) JICA プロジェクトとのかかわりについて、どのような活動、研修に参加していますか。

2. 5項目評価

<妥当性>

- (1) あなたの州の教育分野の課題は何ですか。
- (2) これまで何回州教育フォーラムを実施してきましたか。州教育フォーラムはCGDES活動を促進するものとして有効ですか。改善すべき点はありますか。
- (3) JICAプロジェクトが実施する研修はわかりやすいですか。改善点はありますか。研修モジュールの内容はどうか。

<有効性>

- (1) 中央での経験共有セミナーには何度参加していますか。どのような学びがありましたか。その学びをどのように生かしていますか。
- (2) 各種研修モジュールの作成にかかわっていますか？どのように。作成プロセスについてどう思われますか。
- (3) 州CGDES監督官会議ではどのようなことが議論されますか。この会議は今後も必要ですか。会議の改善すべき点などありますか。
- (4) 全国CGDES監督官会議には参加しましたか。どのようなことが議論されますか。この会議は今後も必要だと思いますか。会議の改善すべき点などありますか。
- (5) CGDES連合は機能していますか。連合との関係で難しい点がありますか。
- (6) CGDES活動のモニタリングはどのように行われていますか。また、各CGDES活動の年間報告書はどのように回収され、誰が集計・分析をしていますか。
- (7) 中央のCGDES調整部との関係は良好ですか。どのような支援がありますか。

<インパクト>

- (1) CGDESの学校運営の役割と能力が適切に強化されることで、ニジェール国の就学率・初等終了試験合格率の向上、留年・退学率の低下につながると思われますか。
- (2) あなたの州のCGDES活動統括表回収率及び、教育の質に係る活動率は向上していますか。要因は何ですか。
- (3) JICAプロジェクトの支援により、教育分野の改善にどのようなインパクトがありますか/今後想定されますか。

<持続性>

- (1) 州教育事務所は州レベルでCGDES活動を統括するために必要な人員、能力、予算を確保していますか。
- (2) CGDES連合及び各CGDESは活動の継続のための組織力と能力、財源を有していますか。
- (3) その他、活動持続性に係る課題と対策。

<その他>

JICAプロジェクトに対して良いと思う点、改善すべき点があれば。

<視学官への質問事項>

1. 基本情報

- (1) いつから現職ですか。CGDES活動における視学官の役割について教えてください。
- (2) JICAプロジェクトとのかかわりについて、どのような活動、研修に参加していますか。

2. 5項目評価

<妥当性>

- (1) あなたの州の教育分野の課題は何ですか。
- (2) これまで何回州教育フォーラムを実施してきましたか。州教育フォーラムはCGDES活動を促進するものとして有効ですか。どのように。改善すべき点がありますか。
- (3) JICAプロジェクトが実施する研修はわかりやすいですか。改善点がありますか。研修モジュールの内容はどうですか。

<有効性>

- (1) 各種研修モジュール作成にはどのようにかかわっていますか。作成プロセスについてどう思われますか。
- (2) 州視学官会議はこれまでいつ何回開催されましたか。どのようなことが議論されますか。この会議は今後も必要だと思いますか。会議の改善すべき点などありますか。
- (3) 視学官としてCGDES活動のモニタリングはどのように行われていますか。具体的なモニタリング活動について教えてください。

<インパクト>

- (1) CGDESの学校運営の役割と能力が適切に強化されることで、ニジェール国の就学率・初等終了試験合格率の向上、留年・退学率の低下につながると思われますか。
- (2) JICAプロジェクトの支援により、教育分野の改善にどのようなインパクトがありますか/今後想定されますか。

<持続性>

- (1) 視学官として今後CGDES活動を継続していくための技術は十分だと思いますか。活動継続のための課題は何ですか。
- (2) その他、活動持続性に係る課題と対策。

<その他>

- (1) JICAプロジェクトに対して良いと思う点、改善すべき点があれば。

<CGDES 連合メンバーへの質問事項>

1. 基本情報

- (1) あなたの連合はいつ設立され、いくつのCGDES及び小学校がありますか。連合メンバーは何名いますか。
- (2) CGDES連合の役割と業務、連合内の会議及び連合総会の頻度について教えてください。
- (3) JICAプロジェクトとのかかわりについて、どのような活動、研修に参加していますか。

2. 5項目評価

<妥当性>

- (1) あなたの地域の教育分野の課題は何ですか。

<有効性>

- (1) あなたのCGDES連合は活発に機能していますか。機能している要因は何ですか。機能していない要因は何ですか。

<インパクト>

- (1) CGDESの学校運営の役割と能力が適切に強化されることで、ニジェール国の就学率・初等終了試験合格率の向上、留年・退学率の低下につながると思われますか。
- (2) あなたの連合のCGDES活動統括表回収率及び、教育の質に係る活動率は向上していますか。要因は何ですか。
- (3) JICAプロジェクトの支援により、教育分野の改善にどのようなインパクトがありますか/今後想定されますか。

<持続性>

- (1) あなたの CGDES 連合は活動の継続のための組織力と能力、財源を有していますか。
- (2) CGDES 連合の活動継続に係る課題と対策。

<その他>

- (1) JICA プロジェクトに対して良いと思う点、改善すべき点があれば。

<「質のミニマム・パッケージ」試行対象コミュニティへの質問事項>

- (1) あなたの地域・学校の教育の課題は何ですか。
- (2) ドリルの導入について、あなたの評価。
- (3) 受講した研修内容、モジュールの内容はわかりやすかったですか。改善すべき点はありますか。
- (4) ファシリテータはどのように選出されましたか。
- (5) もし研修講師、ファシリテータとしてこの活動に参加している場合は、講師及びファシリテータとして今後も活動を継続していく自信はありますか。講師、ファシリテータの役割は難しいですか。感想をお聞かせください。
- (6) 住民集会でテスト結果を共有した際の住民（保護者）の反応はどのようなものでしたか。活動に係る住民の合意は容易に得られましたか。
- (7) この活動を実施するなかで、何等かの問題に直面しましたか？あれば、詳細を教えてください。
- (8) このドリル補修の導入が、CGDES 活動の活発化につながっている/つながると考えますか。
- (9) この活動は今後 CGDES 活動の一環として継続される見込みはありますか？技術面、予算の確保は可能だと思いますか。
- (10) この活動を実施する過程において、JICA プロジェクトの支援は適切ですか。良いと思う点、改善すべき点などあれば、教えてください。

その他、質のミニマム・パッケージに関して、ご意見があれば。

<リソース管理・運営研修受講者への質問事項>

ティラベリ州サイ県、トロディ県

- (1) あなたの地域の教育分野の課題は何ですか。
- (2) 研修内容、モジュールの内容はわかりやすかったですか。改善すべき点はありますか。
- (3) この研修によって具体的にどのようなことを学びましたか。
- (4) リソース管理・運営を行ううえで、難しいと思う点は何ですか。
- (5) 研修受講後、以前と比べて何が改善されましたか。CGDES 活動の活発化につながっていますか。どのように。
- (6) その他、リソース管理・運営に関し、何かご意見があれば。

<学校視察の際の質問事項>

- (1) CGDES 活動により改善された点。
- (2) CGDES メンバー会議、住民集会の頻度。CGDES 連合との関係は良好か。中央レベルからの情報伝達は適切に届いているか。
- (3) CGDES 活動への資金源。住民は負担金の支払いについて積極的か。地方自治体からの支援はあるか。
- (4) 資金管理の透明性はどのように確保しているか。

- (5) CGDES 活動で直面している問題。
- (6) CGDES 活動によって、生徒の学力向上が可能だと思うか。
- (7) 今後も CGDES 活動を継続していくために必要なことは何か。これから CGDES 活動を開始する学校に助言することがあれば、何か。
- (8) その他、リソース管理・運営に関し、何かご意見があれば。

<日本人専門家・プロジェクトスタッフへの質問事項>

1. 実施プロセス

- (1) C/P の関係は良好ですか。プロジェクト活動のモニタリングのための定例会などを含め、日常のコミュニケーションはどのようなものか。
- (2) プロジェクト活動に問題があった場合の対応はどのように行われていますか。
- (3) 本邦・在外支所とプロジェクトのコミュニケーションは良好ですか。
- (4) C/P の選定、人数は適切ですか。プロジェクト開始以降、多くの C/P の人事異動が見受けられますが、新たな C/P への活動引き継ぎなどスムーズに行われていますか。課題と対策について。
- (5) C/P は積極的にプロジェクト活動に参加していますか。オーナーシップの状況についてお聞かせください。
- (6) ニジェール側の活動経費負担について、計画どおり予算の抛出はされていますか。

2. 実施体制

- (1) 2013 年 8 月の省庁改編後、プロジェクト実施体制に変更はありますか。組織図があればご提供ください。
- (2) 現在の移動制限により地方での活動を現地 NGO に委託していることに関し、活動にどのような効果・影響を与えていますか。また委託業務の共有はどのように行われていますか。
- (3) 予定していた、また今後予定している短期専門家派遣について教えてください。

3. 実績

<成果 1 >

- (1) 持続的な州フォーラムモデルを確立させるためどのような対策がとられていますか。
- (2) 質のミニマム・パッケージ開発は成果 1 のなかでどのような位置づけですか。
- (3) 質のミニマム・パッケージでは、「質の向上」のために算数と仏語のみをパッケージに含めた理由は何ですか。
- (4) 各連絡会議の内容について教えてください。また、視学会議を継続させるための対策は議論されていますか。
- (5) CGDES モニタリングシステムに関し、モニタリングの方法及び今後の活動について、また国の正式な政策文書作成までの課題と対策についてお聞かせください。また、COGES 連合総会モニタリングの際に実施された、コミュニケーションと CGDES 連合の連携状況を調査するためのコミュニケーションへの聞き取り調査結果についてご提供ください。
- (6) 内閣改造に伴う省庁改編による中等学校への介入の遅れに関し、その後、中等教育省との連絡は行われていますか。
- (7) 中等学校に対する機能する CGDES の研修講師は誰が担っていますか (TOT 実績がないため、確認です)。またこの研修に係るモジュールはいつ開発されたものですか。

<成果 2 >

- (1) リソース管理・運営のためのモジュールの改善はどのように行われていますか。
- (2) リソース管理・運営の優良事例聞き取り調査について結果をご提供ください。
- (3) 補助金管理状況のモニタリング・指導巡回は誰がどのように行っていますか。このモニタリング活動も補助金管理・運営計画策定研修に含まれていますか。モニタリング継続性に係る課題と対策をお聞かせください。

- (4) 補助金モデル介入インパクト調査結果についてご提供ください。
- (5) 活動 2-6「教育リソース管理・運営における COGES の役割についての政策提言策定」に係る今後の予定をお聞かせください。

<成果 3 >

- (1) 共同モニタリングミッションの内容・成果についてお聞かせください。
- (2) 他ドナーとの連携活動とその成果、活動の継続性を含めてお聞かせください。

<プロジェクト目標>

- (1) プロジェクト目標は設定された指標は既にほぼ達成されておりますが、これら指標の設定レベルの適切性についてお聞かせください。

4. 5 項目評価

<妥当性>

- (1) 質のミニマム・パッケージ及びフォーラムアプローチは CGDES 機能強化を通じたニジェールの教育課題に貢献する手法として適切ですか。
- (2) 補助金導入の手法はリソース管理・運営能力強化に効果的なアプローチとして適切ですか。
- (3) プロジェクトのターゲットグループ、また各活動のターゲットグループの選定は適切ですか。選定基準と適切性についてお聞かせください。さらに、ターゲットグループ以外への波及性はありますか。
- (4) 事前評価以降、プロジェクトをとりまく環境（政策、経済、社会等）に変化はありますか。

<有効性>

- (1) プロジェクト目標及び成果の指標設定レベルは適切ですか。成果はプロジェクト目標を達成されるために十分ですか。
- (2) プロジェクト目標の阻害・貢献要因は何ですか。

<効率性>

- (1) 成果の指標設定は適切ですか。
- (2) 活動は成果を達成するための十分ですか。
- (3) 外部条件である「多数の C/P が短期間において異動しない」及び「経済、治安状況が著しく悪化しない」の影響はありますか。あれば、どのような対策が必要ですか。
- (4) 本邦研修はプロジェクト目標達成に効果的に貢献していますか。
- (5) ローカル NGO への業務委託はコスト効率的ですか。
- (6) 他の JICA スキームとの連携や他援助機関との協力による成果はありますか。

<インパクト>

- (1) 上位目標の達成見込みはありますか？現時点で、達成を阻害する要因はありますか。
- (2) 上位目標とプロジェクト目標は乖離していませんか。プロジェクト目標が達成されれば上位目標は達成可能ですか。
- (3) 上位目標以外の正のインパクトはありますか。他仏語圏アフリカへの波及効果はどうですか。
- (4) 何等かの負のインパクトはありますか。

<持続性>

- (1) CGDES 活動がプロジェクト終了後も継続される教育省の政策はありますか。
- (2) プロジェクト支援で策定される政策（モニタリングシステムなど）がプロジェクト終了後も継続される見込みはありますか。

- (3) プロジェクト成果が他地域への普及を支援する取り組みが担保されていますか。
- (4) 教育省 CGDES 調整部は全国に CGDES 活動を統括するために必要な人員、予算を確保していますか。
- (5) 州教育事務所は州レベルで CGDES 活動を統括するために必要な人員と予算を確保していますか。
- (6) CGDES 連合は活動の継続のための組織力と能力を有していますか。
- (7) CGDES はリソース管理・運営活動を継続させるための組織力と収入源を確保していますか。
- (8) 教区賞から補助金が制度化される見込みはありますか。関連ドナーによる支援の見込みは。
- (9) 教育省 CGDES 調整部は関連政策策定、各種能力強化研修の実施及び CGDES 活動モニタリングに係る能力は十分ですか。
- (10) 州教育事務所は教育フォーラムの開催及び CGDES 連合総会、CGDES モニタリングに係る十分な能力を有していますか。
- (11) 質のミニマム・パッケージが展開・継続されるための関係者の能力は確保されていますか。
- (12) 活動普及のためのメカニズムはプロジェクトに取り込まれていますか。
- (13) その他、活動持続性を妨げる要因があれば。

以 上

質問票（仏文）

<Pour le C/CGDES>

1. Concernant la mise en oeuvre du projet EPT

- (1) La communication avec l'équipe de l'EPT, comment se passe-t-elle? Comment suivez-vous toutes les activités de l'EPT ?
- (2) Quand le projet rencontre des problèmes, quel est le processus de résolution? Racontez vos expériences s'il y en a.
- (3) Depuis le commencement du projet, il y a pas mal de changement de personnel qui joue des rôles importants pour l'EPT. Dans ce cas, le transfert de l'activité se passe-t-il bien? Quels sont les mesures à prendre afin de garantir la continuité d'activité?
- (4) Concernant le partage du budget pour l'activité de l'EPT, est-ce que le côté japonais et le côté nigérien ont bien contribué comme prévu ?

2. Cinq critères d'évaluation

<La pertinence>

- (1) L'objectif du projet répond-t-il aux besoins du Niger?
- (2) La sélection de zone et groupe cibles du projet correspond-t-elle aux besoins? La sélection de groupe pour l'activité pilote est-elle représentative ?
- (3) Comment évaluez-vous le forum éducatif régional au niveau de méthode, de processus, et de son efficacité. Est-ce que c'est possible d'appliquer le modèle de la région Tahoua aux autres régions ?
- (4) Comment évaluez-vous l'activité de Livrets de Mathématique au niveau de l'amélioration de qualité éducatif et de l'amélioration de l'activité de CGDES? Est-ce que vous voyez la possibilité d'extension de l'activité ?
- (5) Comment évaluez-vous l'activité de renforcement des capacités des CGDES en gestion des ressources, au niveau de l'amélioration de qualité éducatif, de l'amélioration de l'activité de CGDES? Est-ce que vous voyez la possibilité d'extension de l'activité ?

<L'efficacité>

- (1) Dans votre rôle de C/CGDES, quel est le méthode de suivi du CGDES? Quelle est la contribution du projet pour établir le système de suivi du CGDES au niveau central? Quelles sont les difficultés du suivi, et les mesures à prendre ?
- (2) Comment évaluez-vous le projet en global? Pensez-vous que le projet pourra atteindre l'objectif? Si oui, quels en sont les facteurs déterminants? Si non, quels en sont les facteurs bloquants, quels mesures qu'il faut prendre ?

<L'efficience>

- (1) La formation d'homologue au Japon contribue-t-elle à renforcer la gestion du CGDES? Si vous êtes un des participants, racontez vos expériences à la formation et comment vous pouvez l'appliquer au Niger.
- (2) Est-ce qu'il y a (aura) de l'effet synergy grâce à la coopération des autres organisations pour l'activité du CGDES.

<L'impact>

- (1) 5ans après la fin du projet, voyez-vous l'amélioration des indicateurs éducatifs (taux de scolarisation, de redoublement, d'abandon, d'achèvement, et l'acquis scolaires)? A présent, est-ce qu'il y a des facteurs qui pourraient empêcher cette amélioration ?
- (2) Quel est l'impacte de l'atelier de partage d'expériences dans le cadres d'activité COGES-CGDES avec les pays voisins ?
- (3) Est-ce qu'il y a d'autre impacts positifs / négatifs grâce à / à cause de l'EPT ?

<La durabilité>

- (1) Afin de pérenniser l'activité CGDES après la fin du projet, le C/CGDES a-t-il assez de personelles, de compétences et de budget ?
- (2) Afin de pérenniser l'activité CGDES après la termination du projet, les régions ont-elles assez de personelles, de compétences et de budget ?
- (3) Afin de pérenniser l'activité CGDES après la termination du projet, le FCC a-t-il assez de personelles, de compétences et de budget ?
- (4) Quels sont les défis et les mesures à prendre pour assurer la pérennisation ?

<Pour le Directeur Régional de l'Education, PFR et PFD de CGDES>

1. Information générale

- (1) Depuis combien de temps êtes-vous CGDES superviseur? Quel était votre ancien poste ?
- (2) Dans le cadres du project EPT, aux quelles activités, formations et réunions avez-vous participé ?

2. Cinq critères d'évaluation

<La pertinence>

- (1) Quels sont les problems éducatifs dans votre regions?
- (2) Combien du forums éducatifs ont eu lieu dans votre région ? Pensez-vous que le forum est efficace pour animer l'activité du CGDES ? Pour quelle raison? Est-ce qu'il y a des points à améliorer ?
- (3) Les formations dans le cadre de l'EPO, sont-elles bien organisées, facile à comprendre? Est-ce que les guides sont bien faits ? Est-ce qu'il y a des points à améliorer ?

<L'efficacité>

- (1) Combien de fois avez-vous participé à l'atelier de partage d'expériences dans le cadres du CGDES ? Est-ce utile ? Est-ce que vous appliquez les acquis à votre travail et à votre région ?
- (2) Participez-vous à l'elaboration des guides? Si oui, que pensez-vous de processus de l'elaboration ?
- (3) La réunions de CGDES superviseurs, de quoi s'agit-il ? Est-il nécessaire ? Pour quelle raison ? Est-ce qu'il y a des points à améliorer ?
- (4) Les FCCs sont-il actifs? Y-a-t-il des difficultés dd communication avec les FCCs ?
- (5) Dans votre role de superviseur, quel est le méthode de suivi du CGDES? Comment les rapports de tous les CGDESs sont-ils récupérés, et qui font les résumés régionaux et pui les analyser ?
- (6) Comment est la communication avec le C/CGDES? Quel soutien technique vous donnent-ils ?

<L'impact>

- (1) Cinq ans après la fin du projet, voyez-vous l'amélioration des indicateurs éducatifs (taux de scolarisation, de redoublement, d'abondant, d'achèvement, et l'acquis scolaires)? A present, est-ce qu'il y a des facteurs qui pourraient empêcher cette amélioration ?
- (2) Dans votre région, le taux de récupération de rapport du CGDES, et le nombre d'activités sur l'amélioration de la qualité de l'éducation, sont-ils améliorés ? Si oui, comment ? Si non, pourquoi ?
- (3) Est-ce qu'il y a(aura) des impacts positifs/negatifs grâce à / à cause de l'EPT ?

<La durabilité>

- (1) Afin de pérenniser l'activité CGDES après la fin du projet, votre région a-t-il assez de personelles, de compétences et de budget?
- (2) Afin de pérenniser l'activité CGDES après la fin du projet, les FCCs et les CGDESs dans votre régions ont-ils assez de compétences et de bugdet ?
- (3) Quels sont les défis et les mesures à prendre pour assurer la pérennisation ?

<Autre>

- (1) Si vous avez des autres commentaires concernant le projet l'EPT, merci de nous faire part.

<Pour l'inspecteur>

1. Information générale

- (1) Depuis combien de temps êtes-vous inspecteur? Quel était votre ancien poste ? Quel est votre rôle comme inspecteur dans l'activité du CGDES?
- (2) Dans le cadres du project EPT, aux quelles activités, formations et réunions avez-vous participé ?

2. Cinq critère d'évaluation

<La pertinence>

- (1) Quels sont les problems éducatifs dans votre regions?
- (2) Combien du forums éducatifs ont eu lieu dans votre région ? Pensez-vous que le forum est efficace pour animer l'activité du CGDES ? Pour quelle raison? Est-ce qu'il y a des points à améliorer ?
- (3) Les formations dans le cadre de l'EPT, sont-elles bien organisées, facile à comprendre? Est-ce que les guides sont bien faits ? Est-ce qu'il y a des points à améliorer ?

<L'efficacité>

- (1) Participez-vous à elaboration des guides? Si oui, que pensez-vous de processus de l'élaboration ?
- (2) Combien de fois avez-vous participé à la réunions de inspecteur au niveau central et régional? De quoi s'agit-il ? Est-il nécessaire ? Pour quelle raison ? Est-ce qu'il y a des points à améliorer ?
- (3) Dans votre role d'inspecteur, quel est le méthode de suivi du CGDES?

<L'impact>

- (1) Cinq ans après la fin du projet, voyez-vous l'amélioration des indicateurs éducatifs (taux de scolarisation, de redoublement, d'abondant, d'achèvement, et l'acquis scolaires)? A present, est-ce qu'il y a des facteurs qui pourraient empêcher cette amélioration ?
- (2) Est-ce qu'il y a(aura) des impacts positifs/negatifs grâce à / à cause de l'EPT ?

<La durabilité>

- (1) Afin de pérenniser l'activité CGDES après la fin du projet, avez-vous acquis les compétences nécessaires comme inspecteur ? Qu'est-ce que vous aimeriez améliorer comme compétence ?
- (2) Quels sont les défis et les mesures à prendre pour assurer la pérennisation ?

<Autres>

- (1) Si vous avez des autres commentaires concernant le projet l'EPT, merci de nous faire part.

<Pour FCC>

1. Information générale

- (1) Quand votre FCC est-il établi, combien de CGDES et écoles il y en a ?
- (2) Quel est le rôle de la FCC ? La réunion de votre FCC et l'assemblée générale de la FCC dans votre région ont-elles lieu régulièrement ?
- (3) Dans le cadre du projet EPT, aux quelles activités, formations et réunions avez-vous participé ?

2. Cinq critères d'évaluation

<La pertinence>

- (1) Quels sont les problèmes éducatifs dans votre commune ?

<L'efficacité>

- (1) Votre FCC est-il actif ? Si oui, quels sont les facteurs déterminants ? Si non, quels sont les facteurs bloquants ?

<L'impact>

- (1) Cinq ans après la fin du projet, voyez-vous l'amélioration des indicateurs éducatifs (taux de scolarisation, de redoublement, d'abandon, d'achèvement, et l'acquis scolaires) ? A présent, est-ce qu'il y a des facteurs qui pourraient empêcher cette amélioration ?
- (2) Dans votre FCC, le taux de récupération du plan d'action et bilans du CGDES, et le nombre d'activités sur l'amélioration de la qualité de l'éducation, sont-ils améliorés ? Si oui, comment ? Si non, pourquoi ?
- (3) Est-ce qu'il y a (aura) des impacts positifs/négatifs grâce à / à cause de l'EPT ?

<La durabilité>

- (1) Afin de pérenniser l'activité CGDES après la fin du projet, votre FCC et les CGDES ont-ils assez de compétences et de budget ?
- (2) Quels sont les défis et les mesures à prendre pour assurer la pérennisation ?

<Autres>

- (1) Si vous avez des autres commentaires concernant le projet l'EPT, merci de nous en faire part.

<Pour le site pilote du PMAQ>

Niamey Commune 5, Karma Commune

- (1) Quels sont les problèmes éducatifs dans votre région et votre école ?
- (2) Comment évaluez-vous l'activité de livret mathématique ?

- (3) Si vous avez participé à la formation, a-t-elle été bien organisée, facile à comprendre? Est-ce que les guides sont bien faits? Est-ce qu'il y a des points à améliorer?
- (4) Comment est-ce que les facilitateurs de livrets mathématique sont sélectionnés?
- (5) (pour les formateurs et les facilitateurs) Pensez-vous que vous pouvez continuer cette activité comme formateurs ou facilitateurs? Est-ce difficile? Quel compétence aimeriez-vous améliorer?
- (6) Etait-il difficile d'arriver à un accord avec les habitants (parents) sur cette activité? Comment ont-ils réagit au résultat du test de niveau?
- (7) Avez-vous rencontré des problèmes au cours de l'activité? Racontez en détails.
- (8) L'activité de livrets mathématique active-t-il votre CGDES? Comment?
- (9) Souhaitez-vous continuer cette activité dans votre école? Pourquoi?
- (10) L'assistance technique du projet l'EPT est-il adéquat? Quels sont les points forts et les points faibles du projet?
- (11) Si vous avez d'autres commentaires, merci de nous faire part.

<Pour les sites pilote de la gestion de ressource>

Région Tilabéli, Say et Tolodi

- (1) Quels sont les problèmes éducatifs dans votre département?
- (2) Les formations sont-elles bien organisées, facile à comprendre? Est-ce que les guides sont bien faits? Est-ce qu'il y a des points à améliorer?
- (3) Qu'est-ce que vous avez appris dans ces formations?
- (4) Quelles sont les difficultés à gérer les ressources?
- (5) Voyez-vous déjà des changements positifs en gestion de ressource? Si oui, qu'est-ce qu'il y a été amélioré?
- (6) L'amélioration de gestion de ressource active-t-elle l'activité du CGDES? Si oui, comment?
- (7) Si vous en avez d'autre commentaires, merci de nous faire part.

<Pour visite de l'école>

- (1) Quelles sont les activités réalisées grâce au CGDES?
- (2) Les membres du CGDES se réunissent-ils régulièrement? La relation avec FCC est-elle bien? Les informations et les formations organisés au niveau central sont-ils bien transférés par le FCC?
- (3) La contribution financière par les habitants est-elle faite volontairement? Quel d'autre organisme finance votre CGDES?
- (4) Comment gérez-vous la vision transparente des ressources?
- (5) Avez-vous rencontré des problèmes?
- (6) Est-il possible d'améliorer les acquis scolaires si le CGDES continue son activité dans la direction actuelle?
- (7) Afin de pérenniser l'activité du CGDES, qu'est-ce qu'il y a nécessaire?

- (8) Si il y a un nouveau CGDES, qu'est-ce que vous leur conseillez ?
- (9) Si vous avez d'autres commentaires, merci de nous faire part.

5. プロジェクト投入実績

<投入実績>

1-1 専門家派遣実績

(1) 長期専門家

No.	氏名	専門	自	至
1	影山 晃子	CGDES 能力強化	2012/05/22	現在
2	角田 健一	CGDES モニタリング/業務調整	2012/08/15	2013/07/02
3	谷本 博子	業務調整	2013/01/17	2013/08/12
4	羽田野 絹恵	COGES モニタリング/業務調整	2013/10/02	現在
5	岩田 明子	業務調整/研修運営	2014/01/21	現在

(2) 短期専門家

No	Nom	Domaine	自	至
1	原 雅裕	チーフ・アドバイザー *JICA 本部在籍： 8 ミッション： - 2012/7/8~4 - 2012/7/31~2012/08/03 - 2012/11/09~2013/01/25 - 2013/08/7~16 - 2013/09/29~2013/10/05 - 2013/12/10~12 - 2014/02/22~25 - 2014/05/14~16	2012/05/22	現在
2	岩田 守雄	ベースライン調査/CGDES ニーズ調査	2012/08/05	2012/10/01

1-2 供与機材リスト

品名	モデル	数	単価 (NGN)	合計	受領日	受益者	状態
2012 年							
ラップトップ PC	HP Probook4540s	4	515 000	2 060 000	2013/02/14	PJ	良好
デスクトップ PC	HP W2072a	1	550 000	550 000	2013/02/14	PJ	良好
発電機	Kusing	1	7 800 000	7 800 000	2013/02/18	PJ	良好
レーザープリンター	HP Color Laser jet CP5525	1	5 100 000	5 100 000	2013/02/27	PJ	良好
車輛	Toyota Landcruiser VDJ200 V8 8IT6567RN	1	45 716 000	45 716 000	2013/03/29	PJ	良好
2013 年							
車輛	Toyota Landcruiser	1	23 600 000	23 600 000	2013/08/19	PJ	良好

	HLZJ76L						
	8IT7011RN						
事務機・椅子		4+ 16	632 000	632 000	2013/11/13	C/CGD ES	良好
ラップトップ PC	HP pavilion	2	485 000	970 000	2013/11/26	PJ	良好
プリンター	HP Laser jet pro M1132 Noir/Blanc	1	290 000	290 000	2013/11/26	C/CGD ES	良好
プリンター	HP Diskjet 2515	1	180 000	180 000	2013/11/26	PJ	良好
プロジェクター	EPSON EB S11	2	315,000	630,000	2013/11/26	C/CGD ES、PJ	良好
印刷機	CANON 2420 (Noir/Blanc)	1	2 750 000	2 750 000	2013/11/26	C/CGD ES	良好
クーラー	SHARP 1.5CV	3	450 000	1 350 000	2013/12/11	C/CGD ES	良好
クーラー	SHARP 2CV	1	600 000	600 000	2013/12/11	C/CGD ES	良好
クーラー	SHARP 2.5CV	1	515 000	515 000	2014/03/11	PJ	良好
コピー機	HP laserjet 5200 Noir/Blanc	1	4 200 000	4 200 000	2014/03/17	PJ	良好
コピー機	HP Deskjet 2510	1	180 000	180 000	2014/03/17	PJ	良好

1-3 本邦研修参加者リスト

No	氏名	役職名	コース名	場所	自	至
1	M. Barmou Salifou	MEP/A/PLN/EC 事務次官	住民参加による 学校運営と初等 教育質の改善	東京 (ICU)	2013/05/20	2013/05/24
2	M. Abdou LAWAN Marouma	MEP/A/PLN/EC 計画局 局長	同上	東京 (ICU)	2013/05/20	2013/05/24
3	M. Moumouni Moussa	MEP/A/PLN/EC 就学総局長	同上	東京 (ICU)	2013/05/13	2013/05/24
	M. Tahirou Elhadji Moussa	MEP/A/PLN/EC CGDES 調整部長	同上	東京 (ICU)	2013/05/13	2013/05/24
4	M. Yayé Touré Abdourahamane	ティラベリ州教育 事務所長	同上	東京 (ICU)	2013/05/13	2013/05/24

1-4 カウンターパート・リスト

N o.	氏名	役職*	自	至
1	M. Barmou Salifou	MEP/A/PLN /EC 次官	プロジェクト 開始時	2013/12/13
2	M. Abouzeidi DAN MAZA	MEP/A/PLN /EC 次官	2013/12/13	現在
3	M. Moumouni Moussa	MEP/A/PLN/EC 就学総局長	プロジェクト 開始時	2014/02/12
4	Mme. Amadou Hadiza Aboubacar	MEP/A/PLN/EC 就学総局長	2014/02/12	現在
5	M. Aboubacar Sidikou Gado	MEP/A/PLN/EC 研修・カリキュラム局総 局長	プロジェクト 開始時	2012/12/28
6	Mme. Mamadou Amina Kaza	MEP/A/PLN/EC 研修・カリキュラム局総 局長	2012/12/28	2014/02/12
7	M. Malam Garba Mamane	MEP/A/PLN/EC 改革総局長	2014/02/12	Aujourd'hui
8	M. Daouda Abdourahamane	MEP/A/PLN/EN 計画局 局長	プロジェクト 開始時	2012/12/28
9	M. Lawan Marouma Abdou	MEP/A/PLN/EN 計画局 局長	2012/12/28	現在
10	M. Moussa Koche	MEP/A/PLN/EN 統計局 局長	プロジェクト 開始時	2012/12/28
11	M. Goumaye Hama	MEP/A/PLN/EN 統計局 局長	2012/12/28	12 fév.2014
12	M. Mahaman Djibo	MEP/A/PLN/EN 統計局 局長	2014/02/12	現在
13	M. Tahirou Elhadji Moussa	CGDES 調整部 部長	プロジェクト 開始時	現在
14	M. Gati Hassane Mamoudou	アガデス州教育事務所 所長	プロジェクト 開始時	2014/03/04
15	M. Sani Kane	アガデス州教育事務所 所長	2014/03/04	現在
16	M. Djibo Hima	ディファ州教育事務所 所長	プロジェクト 開始時	2014/03/04
17	M. Mamane Boube	ディファ州教育事務所 所長	2014/03/04	現在
18	M. Abdou Amani	ドッソ州教育事務所 所長	プロジェクト 開始時	2014/03/04
19	M. Ousseini Soumana	ドッソ州教育事務所 所長	2014/03/04	現在
20	M. Mahaman Boukar Kolimi	マラディ州教育事務所 所長	プロジェクト 開始時	2014/03/04
21	M. Ali Goge	マラディ州教育事務所 所長	2014/03/04	現在
22	M. Mamadou Tiemogo	ニアメ市教育事務所 所長	プロジェクト 開始時	現在
23	M.Arima Chegou	タウア州教育事務所 所長	プロジェクト 開始時	2014/03/04
24	M. Mohamed Moussa	タウア州教育事務所 所長	2014/03/04	現在
25	Yayé Touré Abdourahamane	ティラベリ州教育事務所 所長	プロジェクト 開始時	2014/03/04

26	M. Haro Abdoulaye	ティラベリ州教育事務所 所長	2014/03/04	現在
27	M. Barou Chékaraou	ザンデール州教育事務所 所長	プロジェクト 開始時	現在
28	M. Roho Oumarou	CGDES 調整部 研修イノベーション課 課長	プロジェクト 開始時	現在
29	M. Sandi Ibrahim	CGDES 調整部 パートナー調整課 課 長	プロジェクト 開始時	現在
30	M. Abdou Yahaya	CGDES 調整部 モニタリング評価課 課長	プロジェクト 開始時	現在

* 2013年8月の省庁改編によりカウンターパート機関の名称が「初等教育・識字・国語推進・市民教育省(MEP/A/PLN/EC)」に改名。

1-5 土地、建物、機材リスト

No.	建設/設備
1	プロジェクト事務所（ニアメ市内に賃貸）
2	CGDES 調整部事務所拡張工事（2013年12月1日完成）

1-6 日本側投入 (Francs CFA)

	2012年度 (2012/05- 2013/03)	2013年度 (2013/04- 2014/03)	2014年度 (2014年8月6日 現在)	合計
在外事業強化費 (Fcfa)	243 739 594	340 110 630	120 426 580	
供与機材費(Fcfa)	15 510 000	12 297 000	0	
合計	259 249 594	352 407 630		

1-7 ニジェール側投入 (Francs CFA)

	2012年	2013年	2014年 (予定)	2015年	合計
見返り資金 (KR)	-		52 234 143		52 234 143
CGDES 活動費 (モ ニタリング、補助 金など)	-	<u>予算</u> 136 672 000 <u>執行額</u> 76 132 700	<u>予算</u> 213 576 000		<u>予算</u> 350 248 000 <u>執行額</u> 76 132 700

6. プロジェクト活動実績

研修/アトリエ開催実績

<アトリエ一般>

2012年	
5月	みんなの学校プロジェクトに係る調整部との経験共有セミナー
6月	プロジェクト紹介アトリエ
2013年	
1月	CGDES/CGDES 連合経験共有アトリエ
3月	ブルキナファソ視察団による経験共有アトリエ
4月	本邦研修準備のためのアトリエ
8月	CGDES/CGDES 連合経験共有アトリエ
9月	セネガル視察団による補助金供与に係る経験共有アトリエ
2014年	
2月	西アフリカ地域4か国の経験共有セミナー（セネガルにて）
	CGDES/CGDES 連合経験共有セミナー
8月	コートジボワール視察団による経験共有アトリエ
8月	CGDES/CGDES 連合経験共有セミナー

<質のミニマム・パッケージ>

2012年	
6月	コロ島のテスト結果公表アトリエ
8月	JICA 本部アドバイザーによる「質のミニマム・パッケージ」開発アトリエ
8～10月	ドリル試行に係るファシリテータ研修
2013年	
3月	「質のミニマム・パッケージ」実施に係る研修
	ドリルのファシリテータ研修
7月	ドリルのファシリテータ研修
12月	「質のミニマム・パッケージ」実施に係る講師研修
	「質のミニマム・パッケージ」実施に係る CGDES への研修
	ドリル開始に係る講師研修
	ドリルのファシリテータ研修

<CGDES モニタリング・システム>

2012年	
7～8月	視学官会議（8州）
	CGDES 監督官会議（8州）
2013年	
1月	CGDES 監督官会議（8州）
	CGDES 監督官研修アトリエ（8州）

<補助金供与によるリソース運営・管理>

2012年	
11月	補助金モデルと JICA によるインパクト調査の説明アトリエ
12月	モジュール紹介アトリエ
	講師研修
	120CGDES に対する研修
2013年	
1月	補助金供与に係るアトリエ
8月	補助金モデルの活動開始準備会議
9月	計画運営に係る講師研修
10月	120CGDES に対する研修
11月	補助金供与に係るアトリエ
2014年	
2月	補助金モデル活動の中間結果発表アトリエ
3月	新州教育事務所長に対するプロジェクト活動紹介アトリエ
4月	CGDES の資金運営に係る経験共有アトリエ

<中等学校への COGES 導入>

2013年	
2～3月	対象3校の校長に対する研修
3月	COGES に対する試験合格率向上のための活動計画策定研修
5月	試験合格率向上のための COGES 活動に係る経験共有アトリエ

<フォーラム・アプローチ>

2014年	
2月	タウア州における州教育フォーラム準備会議
5月	タウア州教育フォーラム執行委員会会議
	タウア州教育フォーラム準備に係る視学官会議
6月	コミュニン連絡協議会設置に係る講師研修
	タウア州教育フォーラム開催
	コミュニン連絡協議会設置に係る FCC と市長への研修
	視学官会議

合同調整委員会（JCC）開催実績

第1回	2012年6月8日
第2回	2013年1月4日
第3回	2013年8月13日
第4回	2014年2月25日
第5回	2014年8月9日

マニュアル開発実績

フォーラム・アプローチ
コミュニン連絡協議会設置マニュアル 2014年6月
質のミニマム・パッケージ
質のミニマム・パッケージ導入マニュアル第1版 2013年11月
算数ドリルのファシリテーター・ガイド第1版 2013年12月
レベルテスト 2013年11月
算数ドリル（1～5）実験バージョン 2012年12月
算数ドリル回答（1、2）実験バージョン 2012年12月
算数ドリル（1、2）第1版 2013年11月
補助金モデル
住民監査によるCGDESリソース運営管理マニュアル第1版 2012年12月
有効なリソース管理のためのCGDES活動計画策定プロセスマニュアル第1版 2012年12月
住民監査によるCGDESリソース運営管理マニュアル第2版 2013年9月
有効なリソース管理のためのCGDES活動計画策定プロセスマニュアル第2版 2013年9月

ANNEXE I: Cadre Logique du Projet (PDM) version 1.0 (mars 2012)

Titre du Projet: "Ecole Pour Tous; Projet d'Appui au Développement de l'Education à travers la participation communautaire"

Zone cible: Toutes les régions (Agadez, Diffa, Dosso, Maradi, Niamey, Tahoua, Tillabéri, Zinder)

Groupe cible: Parents/membres de la communauté, directeurs d'écoles, enseignants des écoles, et administrateurs régionaux de l'éducation

Durée: le 1er mai 2012 - le 31 avril 2016 (4 ans)

RESUME NARRATIF	INDICATEURS OBJECTIVEMENT VERIFIABLES Les données de base seront fixées environ 6 mois après le démarrage du projet	MOYENS DE VERIFICATION	CONDITIONS EXTERIEURES
OBJECTIF GLOBAL La qualité et l'accès de l'éducation de base sont améliorés par la gestion de l'école à travers la participation communautaire	Amélioration du taux de scolarisation Amélioration concernant le taux de redoublement Amélioration concernant le taux d'abandon Amélioration du taux d'achèvement Amélioration concernant les acquis scolaires	Statistiques de MEN/A/PLN, DREN, IEB	
BUT DU PROJET Les attributions et les capacités des CGDES sont renforcées afin de contribuer au développement de l'éducation (accès et qualité) au Niger	Le taux des CGDES qui ont soumis leurs rapports annuels à leurs 1 Fédérations Communales des CGDES (FC/CGDES) respectives et au MEN/A/PLN est amélioré 2 Le taux d'augmentation des ressources gérées par CGDES dans la zone d'intervention	1 Rapports des PFs / ORs 2 Rapports de l'Evaluation par le Projet	La politique éducative du Niger qui donne de l'importance au CGDES n'a pas changé
RESULTATS 1 Un système pour appuyer les CGDES fonctionnels pour le développement de l'éducation au Niger est mis en place	1-1 Plus de 95% des FC/CGDES des régions ayant organisé des fora ont tenu une Assemblée Générale de restitution du forum régional 1-2 Plus de 80% de CGDES révisent leurs Plans d'Actions d'école mettant l'accent sur l'amélioration de la qualité de l'éducation 1-3 Nombre de réunions tenues au niveau central, régional et départemental est amélioré 1-4 Le système de suivi des activités des CGDES est officiellement approuvé par MEN/A/PLN 1-5 90% des écoles secondaires de Niger ont mis en place des CGDES à travers des élections démocratiques 1-6 Plus de 80% de CGDES au niveau de cycle base II ont mis en oeuvre au moins une activité dans le cadre du Plan d'actions de l'école	1-1 Rapports de DREN/A/PLN 1-2 Rapports de PFs / ORs 1-3 Rapports de la C/CGDES, DREN/A/PLN, RFs / Ors 1-4 Documents sur la politique ou la stratégie officiellement approuvée 1-5 Rapports de PFs / ORs 1-6 Rapports de PFs / ORs	Les écoles n'ont pas connu de perturbation importante La situation de pauvreté des ménages ne s'empire pas
2 Les rôles et attributions des CGDES dans la gestion scolaire sont renforcés en vue d'une meilleure gestion des ressources dans la Zone d'Intervention	2-1 Pourcentage de CGDES formés en gestion des ressources est augmenté dans la zone d'intervention 2-2 Pourcentages de l'augmentation du montant de ressources gérées par les CGDES est amélioré dans la zone d'intervention. 2-3 Pourcentage des Plans d'actions de l'école mettant l'accent sur l'amélioration de la qualité de l'éducation augmente	2-1 Rapports par le Projet 2-2 Rapports de l'Evaluation par le Projet 2-3 Documents sur la Politique ou la Planification de MEN/A/PLN	
3 Des stratégies pour renforcer les attributions des CGDES dans un système éducatif décentralisé sont développées et mises en oeuvre	3-1 La politique sur le CGDES est élaboré 3-2 Existence de Plan annuel du MEN/A/PLN qui reflète la politique et les activités de CGDES 3-3 Existence de politiques et/ou plans du MEN/A/PLN qui reflète la gestion de ressources par les CGDES	3-1 Politique par MEN/A/PLN 3-2 Plan Annuel par MEN/A/PLN 3-3 Politique ou plan/documents sur le programme sectoriel par MEN/A/PLN	

ANNEXE I: Cadre Logique du Projet (PDM) version 1.0 (mars 2012)

Titre du Projet: "Ecole Pour Tous; Projet d'Appui au Développement de l'Éducation à travers la participation communautaire"

Zone cible: Toutes les régions (Agadez, Diffa, Dosso, Maradi, Niamey, Tahoua, Tillabéri, Zinder)

Groupe cible: Parents/membres de la communauté, directeurs d'écoles, enseignants des écoles, et administrateurs régionaux de l'éducation

Durée: le 1er mai 2012 - le 31 avril 2016 (4 ans)

ACTIVITES	CONTRIBUTIONS		IMPORTANT ASSUMPTIONS
	JAPON	NIGER	
1-1 Appuyer l'organisation de Fora Régionaux	Affectation d'experts japonais 1) Experts à long terme - Chef du Projet / Conseiller Technique en éducation - Chargé de Suivi des CGDES - Développement de capacité - Coordinateur 2) Experts à court terme en cas de besoin	Affectation des personnels - Secrétaire Général, Secrétariat Général du Ministère de l'Éducation Nationale, de l'Alphabétisation et de la Promotion des Langues Nationales (MEN/A/PLN) - Directeur Général de la Scolarisation, MEN/A/PLN - Directeur, Direction Générale de la Formation et des Curricula, MEN/A/PLN - Directeur, Direction des Etudes et de la Programmation, MEN/A/PLN - Directeur, Direction des Statistiques, MEN/A/PLN - Coordinateur National de la C/CGDES, MEN/A/PLN - Directeurs, Directions Régionales de l'Éducation Nationale, de l'Alphabétisation et de la Promotion des Langues Nationales	
1-2 Appuyer le développement d'un paquet minimum d'activités pour l'amélioration de la qualité de l'éducation			
1-3 Appuyer l'organisation de réunions et de suivi des activités du CGDES par les niveaux central, régional et départemental			
1-4 Evaluer le système de suivi des CGDES			
1-5 Appuyer l'organisation d'un atelier national pour valider le système de suivi des CGDES			
1-6 Appuyer la mise en place des CGDES fonctionnels et leur système de suivi au niveau du cycle de Base II			
1-7 Appuyer l'introduction du Module des CGDES dans la formation initiale des enseignants			
2-1 Mener une étude sur la capacité des CGDES à gérer les ressources de de l'école et une évaluation des besoins des CGDES en renforcement des capacités en gestion des ressources	b) Fourniture d'équipement: moyens nécessaires pour le suivi, etc. (Si c'est nécessaire)	Fourniture de bureaux	Condition préalable
2-2 Elaborer un module de formation sur le renforcement des capacités des CGDES en gestion des ressources.			
2-3 Appuyer la mise en oeuvre des formations des CGDES en gestion des ressources.			
2-4 Appuyer les activités des CGDES dans la gestion des ressources.			
2-5 Exécuter l'évaluation des interventions			
2-6 Faire des recommandations au Ministère sur le rôle des CGDES dans la gestion des ressources de l'éducation			
3-1 Vulgariser et partager les résultats des activités du Projet aux réunions des PTF	d) Autres		La politique de CGDES existe
3-2 Faire des recommandations et appuyer la planification pour le développement de l'éducation à travers les CGDES			
3-3 Appuyer le renforcement des capacités dans la gestion des CGDES au niveau central			

* CGDES : Comité de Gestion Décentralisée des Etablissements Scolaires

** FC/CGDES : Fédération Communale des CGDES

*** C/CGDES : Coordination des CGDES

Project Design Matrix (PDM) (改訂案)

プロジェクト名：ニジュールみんなの学校：住民参加による教育開発プロジェクト

実施機関：初等教育・識字・国語推進・市民教育省、中等教育省

裨益対象者：教育省CGDES調整部、中等教育省COGES推進室、州・県CGDES監督官、視学官、学校長、CGDES代表、CGDESメンバー、児童、教員、保護者、コミュニティメンバー

対象地域：ニジュール全国

協力期間：2012年5月～2016年5月(4年間)

プロジェクト要約	指標	入手手段	外部条件
上位目標: 住民参加型の学校運営を通じて基礎教育の質とアクセスが向上する	1. 教育指標(就学率、留年率、中退率、修了率など)の向上 2. 初等課程を終えた児童の割合*1	教育省統計年鑑	
プロジェクト目標: ニジュールの教育開発(教育のアクセス及び質)に向けて、CGDESの学校運営の役割と能力が強化される	1. (アクセスの指標)就学児童数に見合った全国の小学校の教室数が確保される。 2. (質の指標)CGDES活動による補習時間(補習授業及び夜間学習)について年間150時間以上を維持する。 3. (役割)コミュニティから支援を受けている CGDES 連合の割合(80%以上)	教育省統計年鑑 CGDES 活動計画総括表集計	1. 各学校に必要な教員の配置が適切に行われる 2. 教育省の予算が確保される
成果: 1. 教育開発(教育のアクセス及び質)に貢献するCGDESの活動が継続して実施される制度が確立される。	1. CGDES モニタリング・システムが構築され、公式化される 2. CGDES モニタリングのための各会議(経験共有セミナー(年2回)、CGDES 監督官会議(規定回数*2)、CGDES 連合総会(年3回))が全国で80%以上開催される。 3. CGDES 年間活動総括表の提出率が90%以上維持 4. CGDES 調整部の年間活動計画が策定され、それに沿った国家予算が配分される 5. 7割以上の教員養成校にてCGDESモジュールが導入される。	1. 公式化の文書(省令またはこれに準ずるもの) 2. 調整部報告書 3. 調整部報告書/統計年鑑 4. 作成された年間活動計画、財務省 5. プロジェクト報告書または CGDES 調整部報告書	経済・治安状況が著しく悪化しない
2. CGDES 活動を通じた教育のアクセス及び質の改善のために、次のモデルが開発される。 2-1 持続するフォーラムアプローチ 2-2 質のミニマム・パッケージ	1. 対象地域の8割以上のコミュニティにおいてフォーラム参加のための予算が確保される。 2. 対象校の9割以上で、子どもの算数ドリルの結果が向上する。(各学校において学年ごとに集計)	1. プロジェクト報告書 2. プロジェクト報告書	

<p>2-3 リソース管理・運営 2-4 中等学校の機能する CGDES</p>	<p>3. リソース管理・運営モデルが開発され、補助金等が配賦される CGDES の 80%以上で同モデルが活用される。 4-1. 対象校の 9 割の中等学校で民主的な選挙でメンバーが選出される。 4-2. 対象校の 8 割の中学校で学校活動計画が実施される。</p>	<p>3. 初等教育省 CGDES 調整部報告書 4. 中等教育省 COGES 推進室報告書</p>	
<p>活動</p>	<p>投入</p>		<p>外部条件</p>
<p>活動: 1-1 経験共有セミナーを開催する 1-2 州、県レベルの CGDES モニタリング会議のモニタリングを実施する 1-3 CGDES モニタリング・システムの評価を実施する 1-4 CGDES モニタリング・システム承認アトリエを開催する 1-5 調整部の活動計画総括表の回収、集計、分析能力強化研修を実施する 1-6 調整部の年間活動計画策定能力強化に関するワークショップを実施する 1-7 教員養成校の講師に対して CGDES 研修を実施する 1-8 教員養成校における CGDES に関する講義の実施状況をモニタリングする</p> <p><フォーラム・アプローチ> 2-1-1 パイロット地域を選定する 2-1-2 フォーラム執行委員会を設置する 2-1-3 フォーラム開催に係る能力強化のための研修を実施する 2-1-4 コミュニケーション連絡協議会を設置する 2-1-5 フォーラムを開催する 2-1-6 活動モニタリングをする 2-1-7 モデルを他州に共有する</p> <p><質のミニマム・パッケージ> 2-2-1 パイロット地域を選定する 2-2-2 モジュールを作成する 2-2-3 ドリルを開発する</p>	<p>日本側</p> <p>(1) 専門家派遣 長期：チーフアドバイザー、CGDES モニタリング、CGDES 能力強化、業務調整 短期：必要に応じて (2) 供与機材 (3) 在外事業強化費 (4) 本邦研修/第三国研修</p>	<p>ニジェール側</p> <p>(1) カウンターパートの配置 (2) プロジェクト執務室及び執務室維持経費 (3) モニタリング経費などの必要経費</p>	<p>1. 多数のカウンターパートが短期間において異動しない 2. 経済・治安状況が著しく悪化しない</p> <p>前提条件 CGDES 学校運営に関する教育地方分権化政策が継続される</p>

<p>2-2-4 講師研修を実施する 2-2-5 研修を実施する 2-2-6 活動モニタリングを実施し、結果を共有する</p> <p><リソース管理・運営> 2-3-1 パイロット地域を選定する 2-3-2 モジュールを作成する 2-3-3 講師研修を実施する 2-3-4 研修を実施する 2-3-5 インパクト評価を実施する。 2-3-6 活動をモニタリングする 2-3-7 開発されたモデルを共有する</p> <p><中等学校> 2-4-1 パイロット校を選定する 2-4-2 研修モジュールを作成する 2-4-3 講師研修を実施する 2-4-4 校長及び COGES メンバー対する研修を実施する 2-4-5 COGES 活動をモニタリングする。 2-4-6 開発された中等機能する COGES モデルを検証する 2-4-7 他州へ検証された中等機能する COGES モデルを共有する</p>			
---	--	--	--

*1 年3回の期末試験結果の平均点(5点以上/10点満点中)により初等課程を終えた児童の割合を採用する(2013/2014年度の初等課程修了資格試験廃止のため)

*2 2014年10月に設定予定